

長岡京市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
介護支援専門員を対象とした介護保険事業アンケート調査
報告書

令和5年3月

長岡京市

目次

I. 調査概要	1
II. 調査結果	2
【長岡市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】	2
1. 調査対象者の基本属性等	2
(1) 性別	2
(2) 年齢	2
(3) 居住地区	3
(4) 地域包括支援センターの認知状況	4
(5) 家族構成	5
(6) 介護・介助の必要性	6
(7) 現在の暮らしの経済的状況	7
2. からだを動かすことについて	8
(1) 手すりや壁をつたわらずに階段を昇っているか	8
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか	8
(3) 15分位続けて歩いているか	9
(4) 過去1年間に転んだ経験	10
(5) 転倒に対する不安	11
(6) 週に1回以上は外出しているか	12
(7) 昨年と比べての外出回数が減っているか	13
(8) 外出を控えているか	14
(8) ①外出を控えている理由	15
(8) ②外出を増やすために受けたい支援や手助け	16
(9) 外出する際の移動手段	17
3. 食べることについて	18
(1) B M I	18
(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなかったか	19
(3) 歯の数と入れ歯の利用状況	20
(4) 誰かと食事をともにする機会	21
4. 毎日の生活について	22
(1) 物忘れが多いと感じるか	22
(2) バスや電車を使って1人で外出しているか	22
(3) 自分で食品・日用品の買物をしているか	23
(4) 自分で食事の用意をしているか	23
(5) 自分で請求書の支払いをしているか	24
(6) 自分で預貯金の出し入れをしているか	24
(7) 趣味の有無	25

(8) 生きがいの有無.....	27
(9) 日常にスマートフォンやタブレットを使っているか	29
(9) ①今後スマートフォンやタブレットを使う予定	30
(9) ②スマートフォンやタブレットから情報を得ている方法	30
(10) 5年後の生活を考えたとき、不安に感じる家事	32
(11) 現在利用している生活支援サービス	34
 5. 地域での活動について.....	35
(1) ①地域活動への参加状況.....	35
(1) ②地域活動別の参加頻度.....	36
(2) 地域づくり活動へ企画者・運営として参加したいか	37
(3) 地域づくり活動へ参加者として参加したいか	38
(4) 地域づくり活動に参加するために必要と思うこと	39
(5) 事業への関心や参加意欲.....	40
(5) ①健康測定等を行うイベントへの関心・参加意欲	40
(5) ②運動機器やトレーナーによる運動指導への関心・参加意欲.....	41
(5) ③介護予防や健康づくりのための講義や教室への関心・参加意欲.....	42
(5) ④地域で介護予防の普及を行うリーダー等の育成への関心・参加意欲.....	43
(5) ⑤興味や趣味を通じた仲間づくりの場への関心・参加意欲.....	44
(5) ⑥定期的に通うことで介護予防につながる場への関心・参加意欲.....	45
 6. たすけあいについて.....	46
(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人.....	46
(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人.....	48
(3) 看病や世話をしてくれる人.....	50
(4) 看病や世話をしてあげる人.....	52
(5) 家族や友人・知人以外の相談相手	54
(6) 近所の人との関係.....	55
 7. 健康について	57
(1) 現在の健康状態について.....	57
(2) 現在どの程度幸せか.....	58
(3) 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか.....	59
(4) どうしても物事に対して興味がわからない、心から楽しめない感じがあったか.....	60
(5) 喫煙状況	61
(6) 現在治療中、または後遺症のある病気について	62
 8. 認知症にかかる相談窓口の把握について	63
(1) 認知症の症状又は認知症の症状がある家族の有無	63
(2) 認知症に関する相談窓口の認知状況	63
(3) 認知症に関する相談窓口の具体的認知状況	64

9. ボランティア活動について.....	66
(1) 地域の奉仕的な活動への参加意向.....	66
(2) 関心のある活動.....	67
【介護支援専門員を対象にした介護保険事業アンケート調査】	69
I. 調査対象者の基本属性等.....	69
(1) 性別	69
(2) 年齢	69
(3) 基礎資格	70
(4) 実務経験等	71
①ケアマネジャーとしての実務経験	71
②主任ケアマネジャー資格の有無	71
(5) 雇用形態等.....	72
①雇用形態.....	72
②兼務している業務.....	72
(6) 勤務状況等.....	73
①1週間あたりの雇用契約上の勤務時間	73
②超過勤務.....	73
II. ケアマネジャー業務について.....	74
(1) 担当件数	74
(2) 担当している人数に対する負担度.....	76
(3) 適切と考える担当件数.....	76
(4) 勤務先は、情報共有やコミュニケーションが行えているか.....	77
(5) 関係機関との連携状況.....	78
①関係機関と連携（相談、情報提供、情報共有等）をとることができているか	78
②どのようなことを相談しているか	82
(6) 円滑に業務を行う上での課題	83
III. サービスの状況について.....	84
(1) 不足している、ニーズに対応できていないと感じる介護（介護予防）サービス	84
①居宅介護支援・居宅サービス・介護予防サービス	84
②地域密着型サービス	85
③総合事業サービス	86
(2) 長岡京市が行っている事業の概要についての認知状況	87
IV. 高齢者の権利擁護について.....	90
V. ケアマネジャーへの支援について	92

I. 調査概要

■ 目的

本調査は長岡市在住の高齢者の生活状況やニーズ、必要となるサービス、介護支援専門員の状況やニーズ等を把握し、「長岡市第9次高齢者福祉計画及び長岡市第8期介護保険事業計画」を策定する基礎資料とするために実施しました。

■ 対象と方法

① 長岡市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

方法：郵送による配布・回収

対象：65歳以上の一般高齢者（要介護1～5の認定を受けていない）2,500件

② 介護支援専門員アンケート調査

方法：郵送による配布・回収

■ 回収状況

	対象者数（件）	有効回答数（件）	有効回答率（%）
長岡市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2,500	1,823	72.9%
介護支援専門員アンケート調査	78	68	87.2%

調査結果の標記について：

- 百分率については、調査の有効回答数（n）を基数として算出しています。小数点第2位以下を四捨五入しているため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの比率を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- 図表中の「n」は集計対象者総数、または回答者限定設問の限定条件への該当者数を示しています。

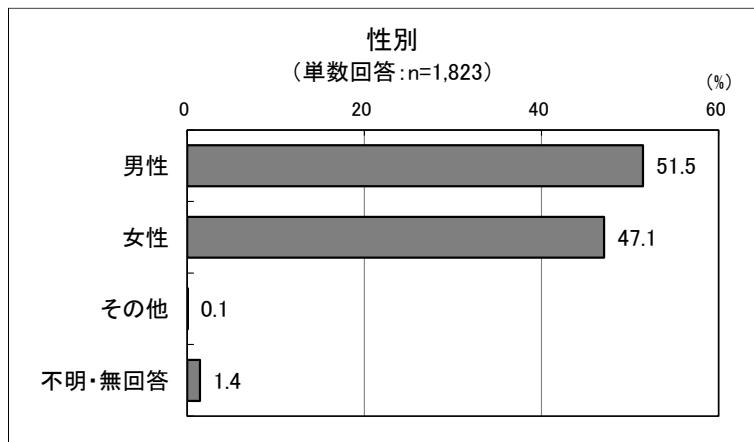
II. 調査結果

【長岡市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】

1. 調査対象者の基本属性等

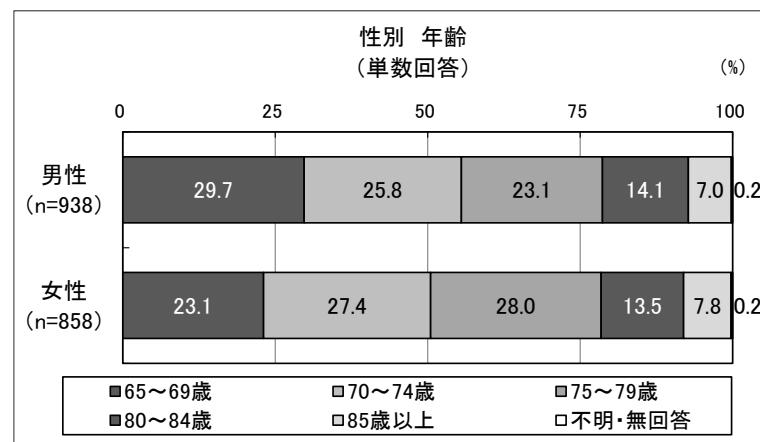
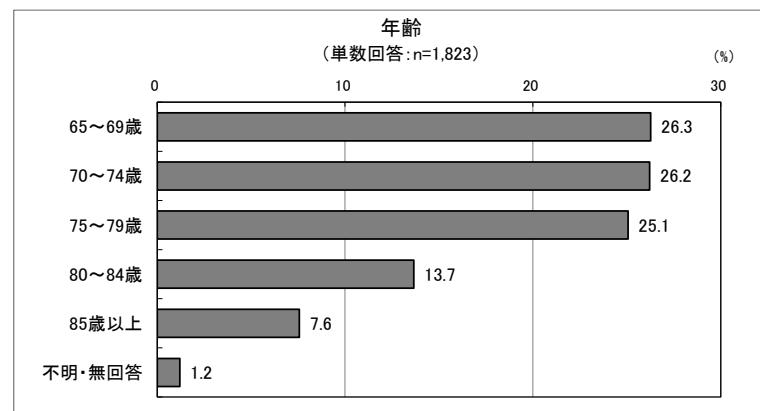
(1) 性別

「男性」が51.5%、「女性」が47.1%、「その他」が0.1%となっています。



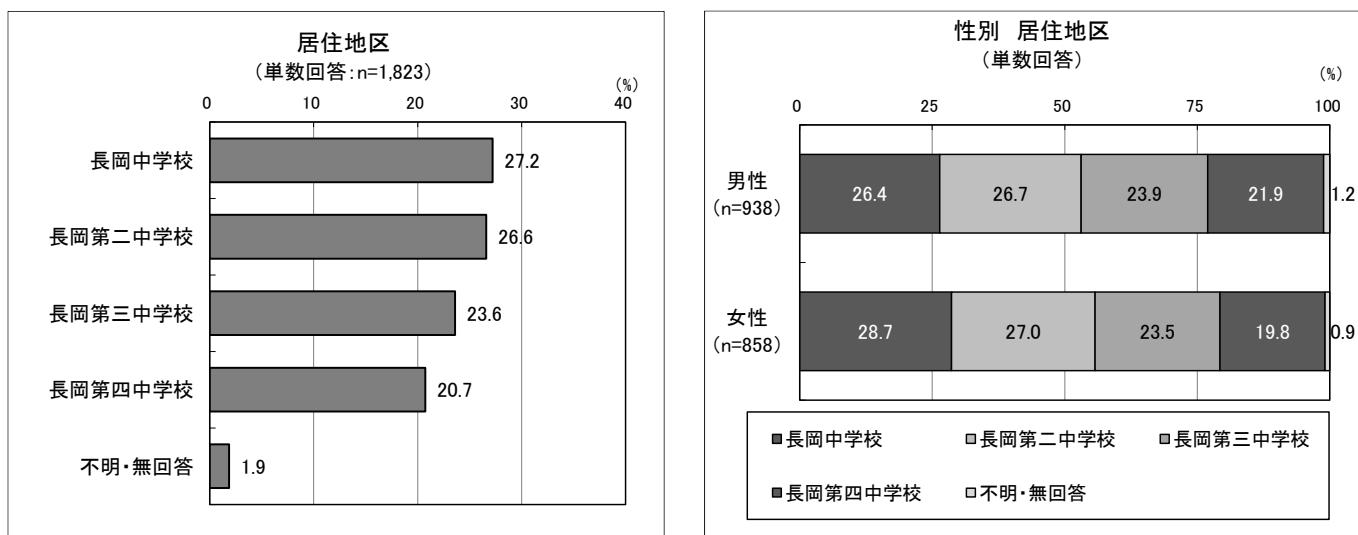
(2) 年齢

「65～69歳」が26.3%と最も多く、次いで「70～74歳」が26.2%、「75～79歳」が25.1%、「80～84歳」が13.7%となっています。また、「85歳以上」は7.6%となっています。



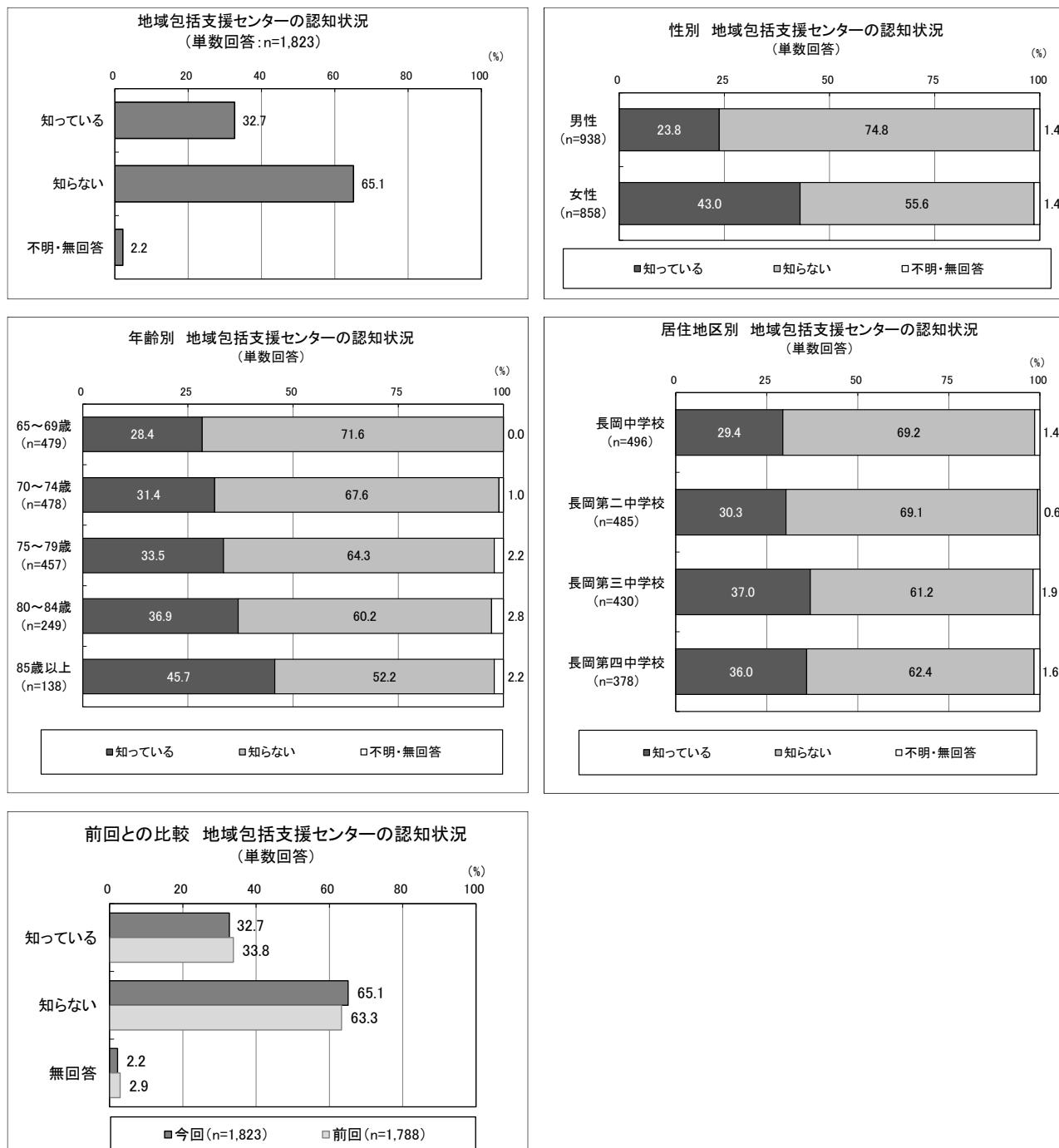
(3) 居住地区

「長岡中学校区」が 27.2%と最も多く、次いで「長岡第二中学校区」が 26.6%、「長岡第三中学校区」が 23.6%、「長岡第四中学校区」が 20.7%などとなっています。



(4) 地域包括支援センターの認知状況

「知っている」が32.7%、「知らない」が65.1%となっています。
 性別についてみると、「女性」は「知っている」が「男性」より多くなっています。
 年齢別についてみると、年齢層が高くなるほど「知っている」が多くなっています。
 居住地区別についてみると、すべての居住地区で「知らない」の方が多くなっています。
 前回の調査と比較すると、今回の調査では、「知っている」が1.1ポイント減少し、「知らない」が1.8ポイント増加しています。



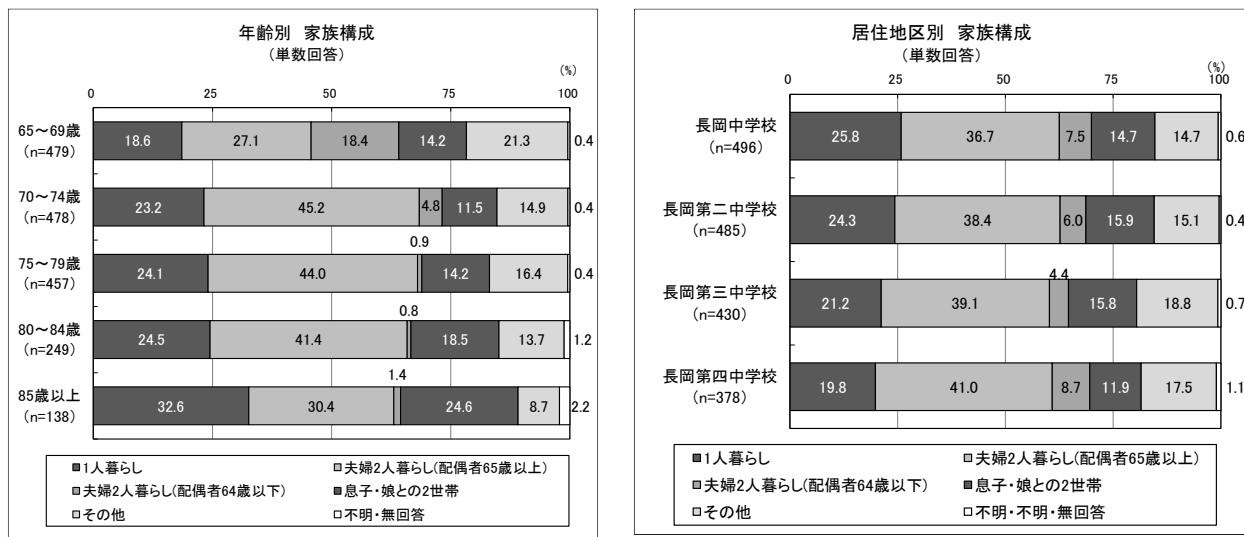
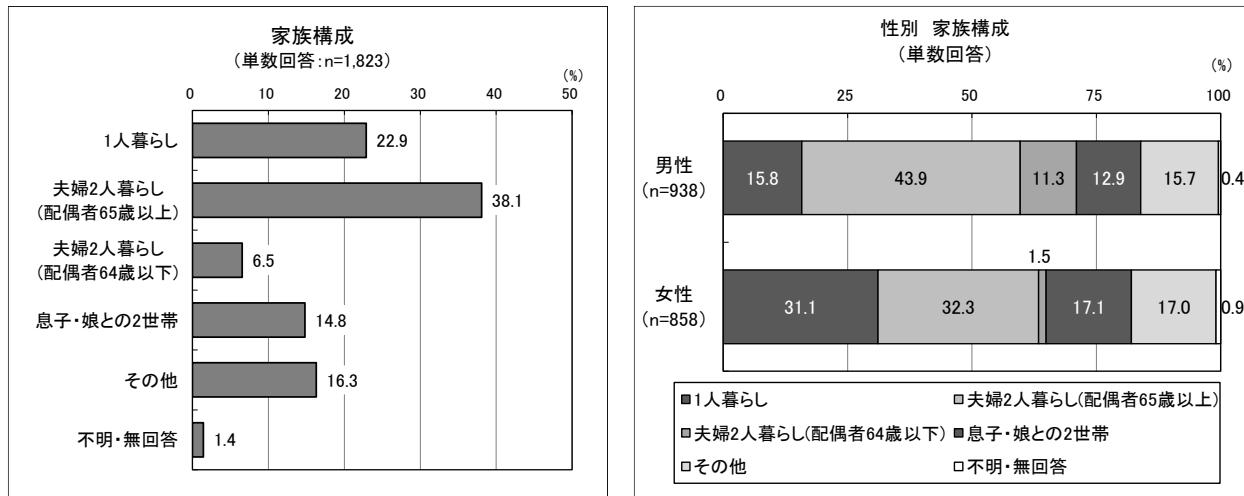
(5) 家族構成

「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が38.1%と最も多く、次いで「1人暮らし」が22.9%、「息子・娘との2世帯」が14.8%、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」が6.5%などとなっています。

性別についてみると、「女性」では「1人暮らし」が「男性」と比べて多くなっています。

年齢別についてみると、「85歳以上」では「1人暮らし」が他の年齢層と比べて多くなっています。

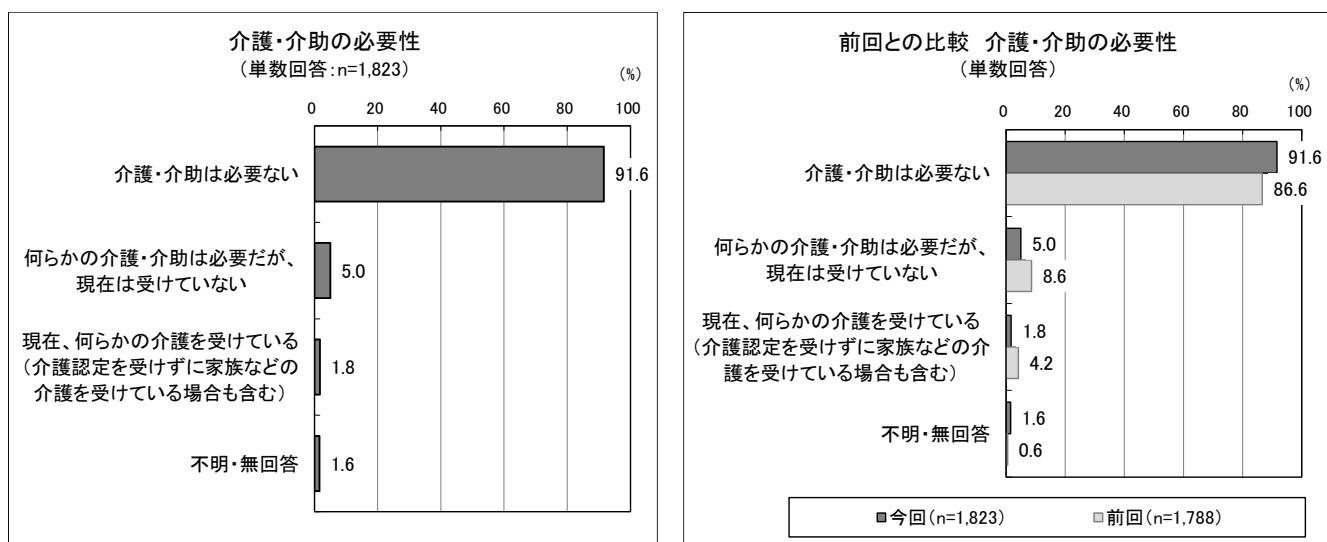
居住地区別についてみると、すべての居住地区で「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が最も多くなっています。なお、居住地区別による有意な差はみられません。



(6) 介護・介助の必要性

「介護・介助は必要ない」が 91.6%と最も多く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 5.0%、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が 1.8%となっています。

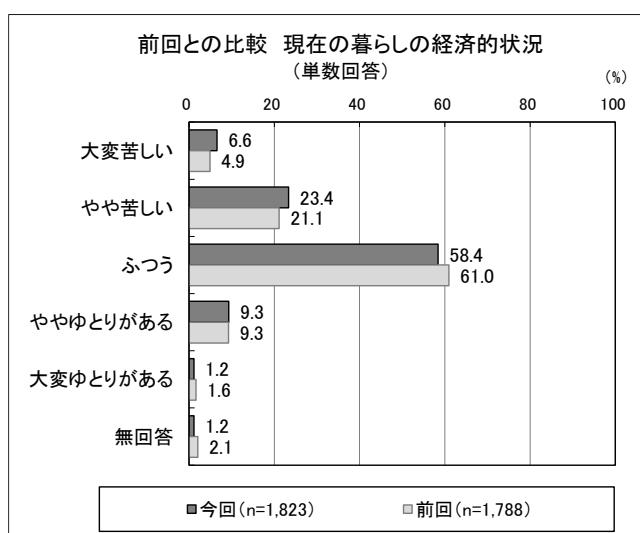
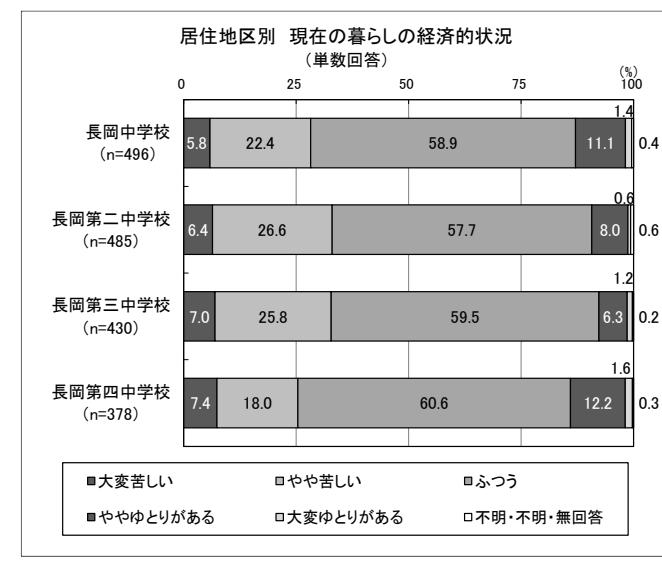
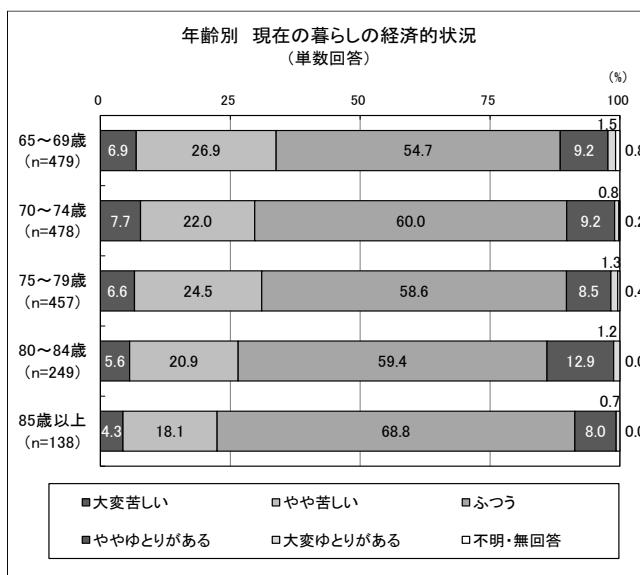
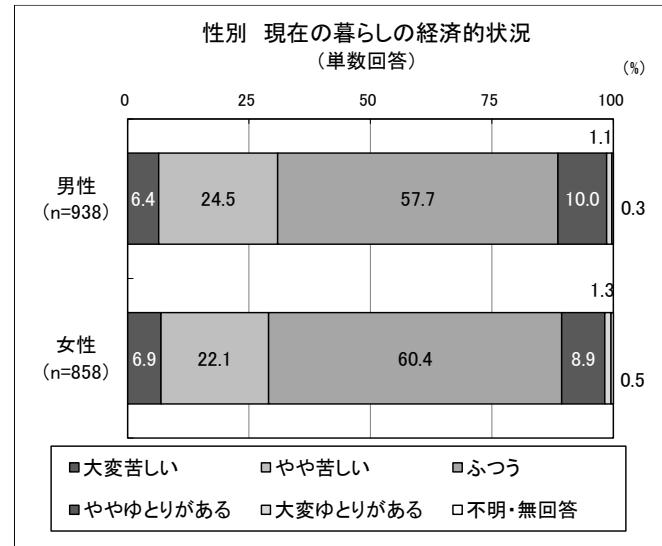
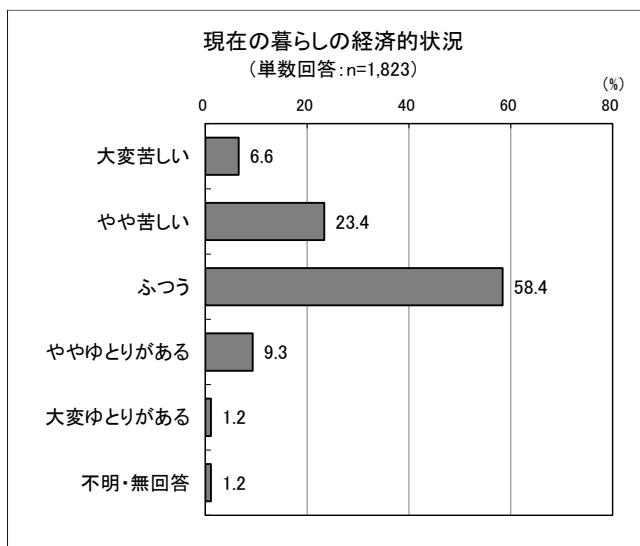
前回の調査と比較すると、今回の調査では「介護・介助は必要ない」が 5 ポイント増加、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 3.6 ポイント減少、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が 2.4 ポイント減少しています。



(7) 現在の暮らしの経済的状況

「ふつう」が 58.4%と最も多く、次いで「やや苦しい」が 23.4%、「ややゆとりがある」が 9.3%、「大変苦しい」が 6.6%、「大変ゆとりがある」が 1.2%となっています。

前回の調査と比較すると、今回の調査では「大変苦しい」が 1.7 ポイント、「やや苦しい」が 2.3 ポイント増加しています。

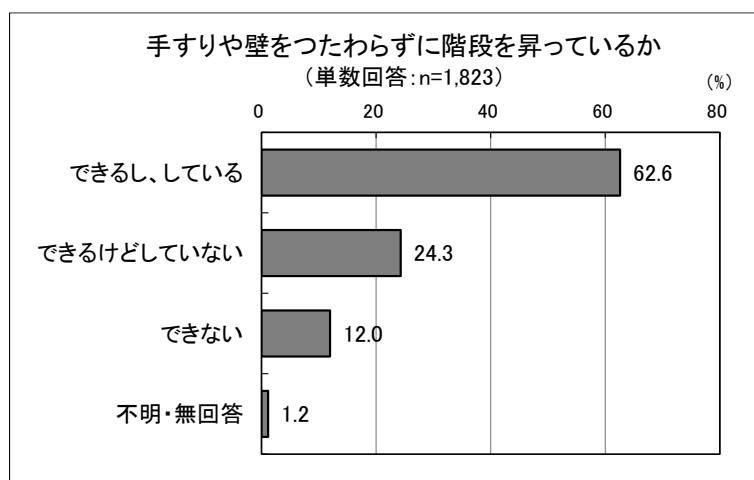


2. からだを動かすことについて

(1)～(3)の設問は、運動器の機能低下を問う設問です。運動器の機能が低下している高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

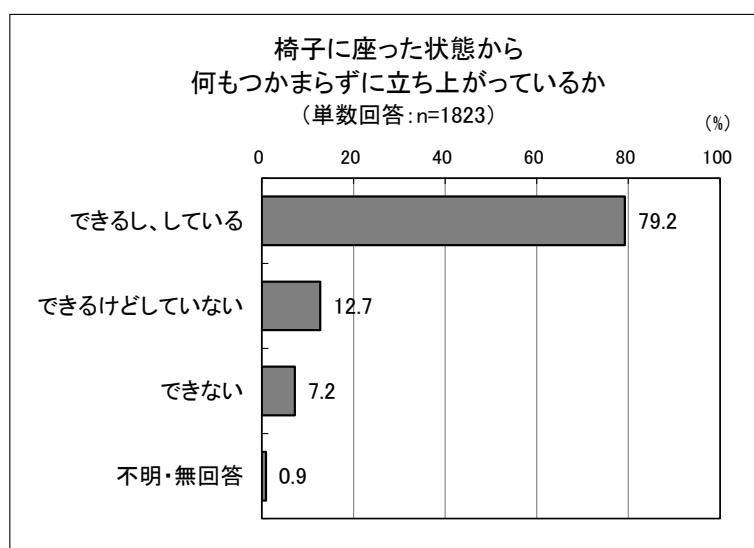
(1) 手すりや壁をつたわらずに階段を昇っているか

「できるし、している」が62.6%と最も多く、次いで「できるけどしていない」が24.3%、「できない」が12.0%となっています。



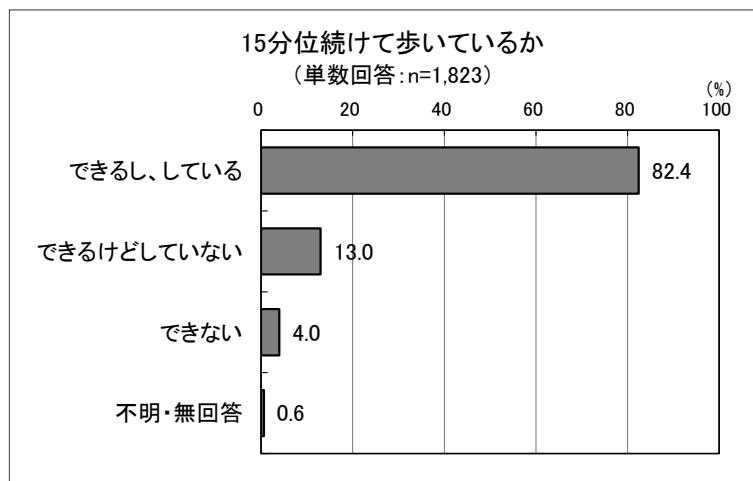
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか

「できるし、している」が79.2%と最も多く、次いで「できるけどしていない」が12.7%、「できない」が7.2%となっています。



(3) 15分位続けて歩いているか

「できるし、している」が82.4%と最も多く、次いで「できるけどしていない」が13.0%、「できない」が4.0%となっています。



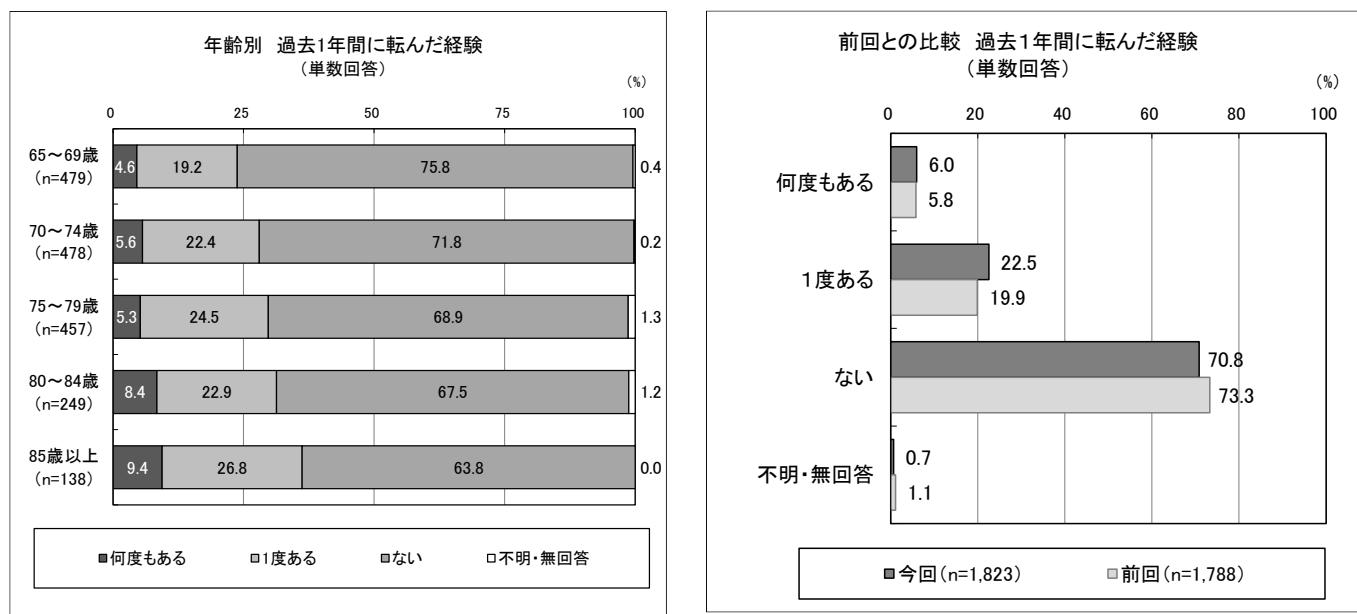
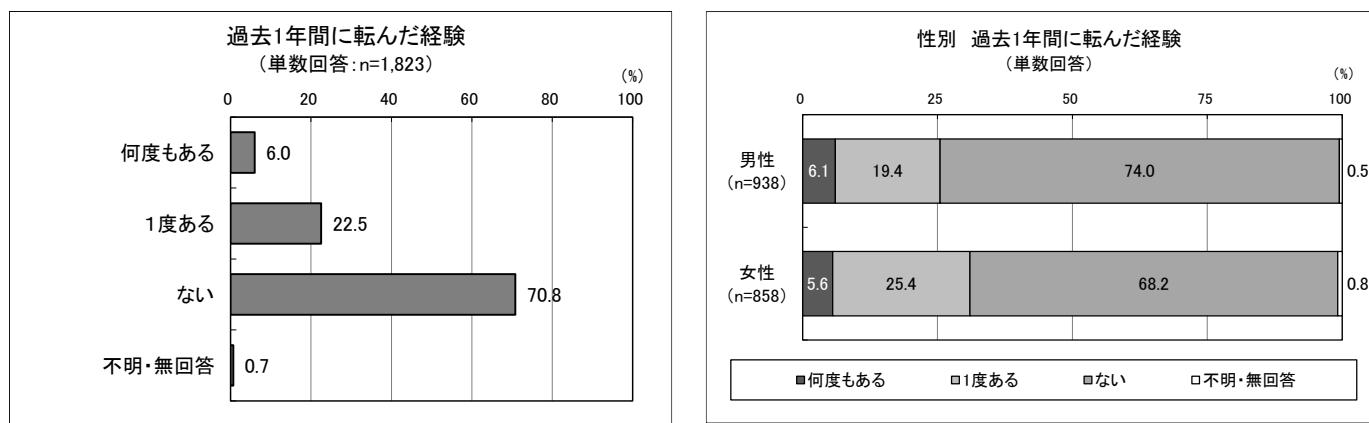
(4) (5) の設問は、運動器の機能低下と転倒リスクを問う設問です。運動器の機能が低下している高齢者と転倒リスクのある高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

(4) 過去1年間に転んだ経験

「ない」が70.8%と最も多く、次いで「1度ある」が22.5%、「何度もある」が6.0%となっています。

性別についてみると、男女ともに「ない」が最も多くなっているものの、「男性」では「ない」が「女性」と比べて多くなっています。

年齢別についてみると、年齢層が高くなるほど「何度もある」「1度ある」が多くなっています。

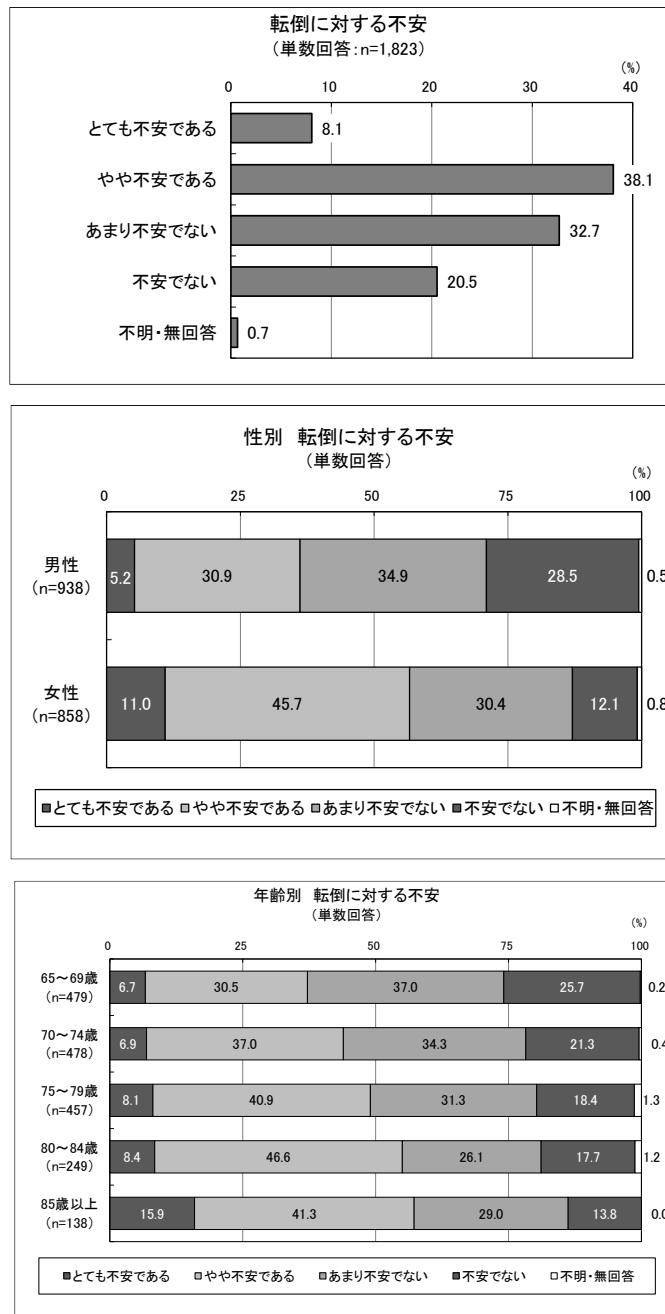


(5) 転倒に対する不安

「やや不安である」が 38.1%と最も多く、次いで「あまり不安でない」が 32.7%、「不安でない」が 20.5%、「とても不安である」が 8.1%となっています。

性別についてみると、「男性」では「あまり不安でない」が、「女性」では「やや不安である」が最も多くなっています。また、「女性」は「とても不安である」が「男性」より多くなっています。

年齢別についてみると、年齢層が高くなるほど「とても不安である」「やや不安である」が多くなっています。



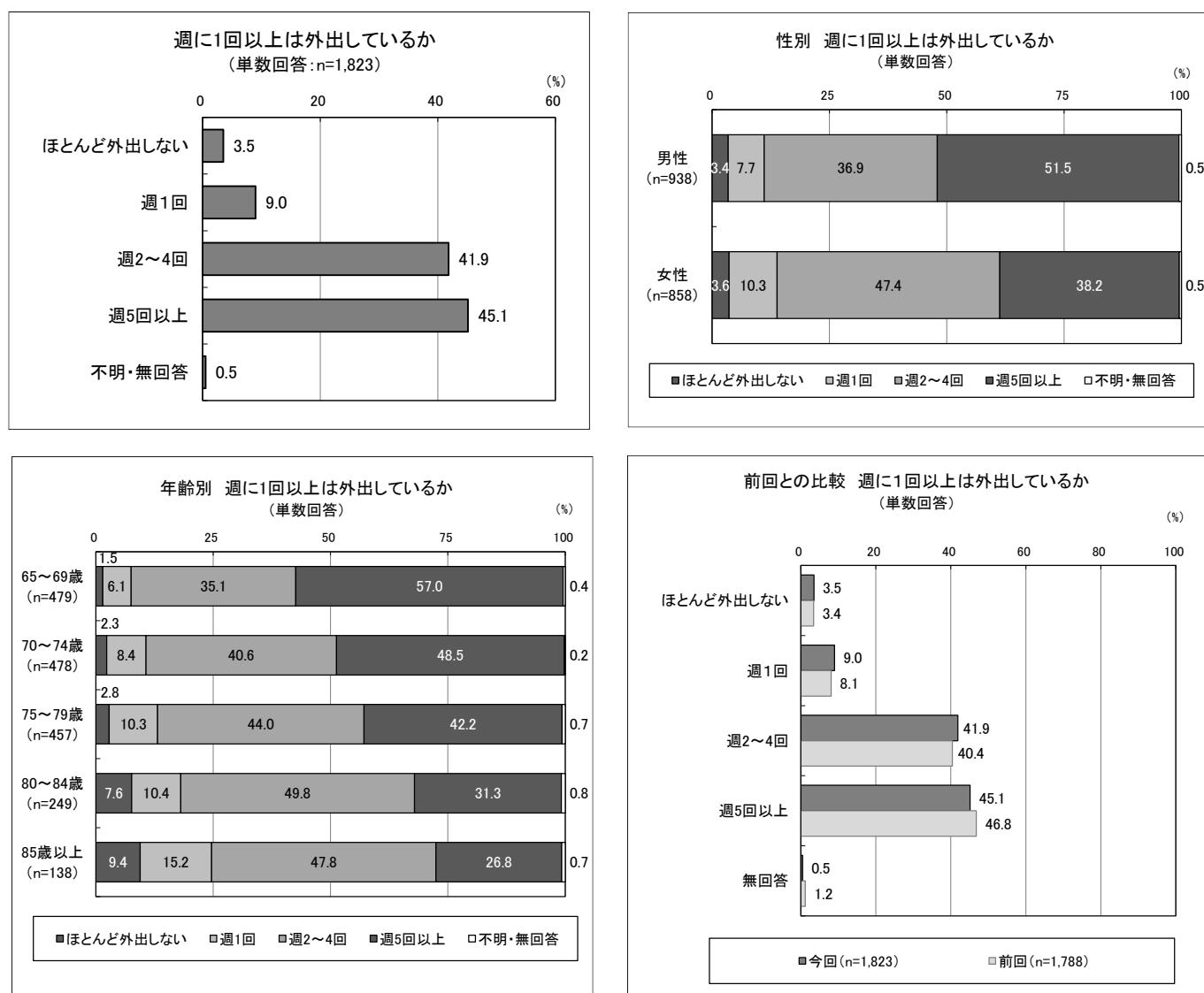
(6) (7) の設問は、閉じこもり傾向を問う設問です。閉じこもり傾向のある高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

(6) 週に1回以上は外出しているか

「週5回以上」が45.1%と最も多く、次いで「週2~4回」が41.9%、「週1回」が9.0%、「ほとんど外出しない」が3.5%となっています。

性別についてみると、「男性」では「週5回以上」が、「女性」では「週2~4回」が最も多くなっています。「女性」では「ほとんど外出しない」「週1回」が「男性」と比べて多くなっています。

年齢別についてみると、年齢層が高くなるほど「ほとんど外出しない」「週1回」「週2~4回」が多くなっています。なお、前回の調査と今回の調査で有意な差はみられません。



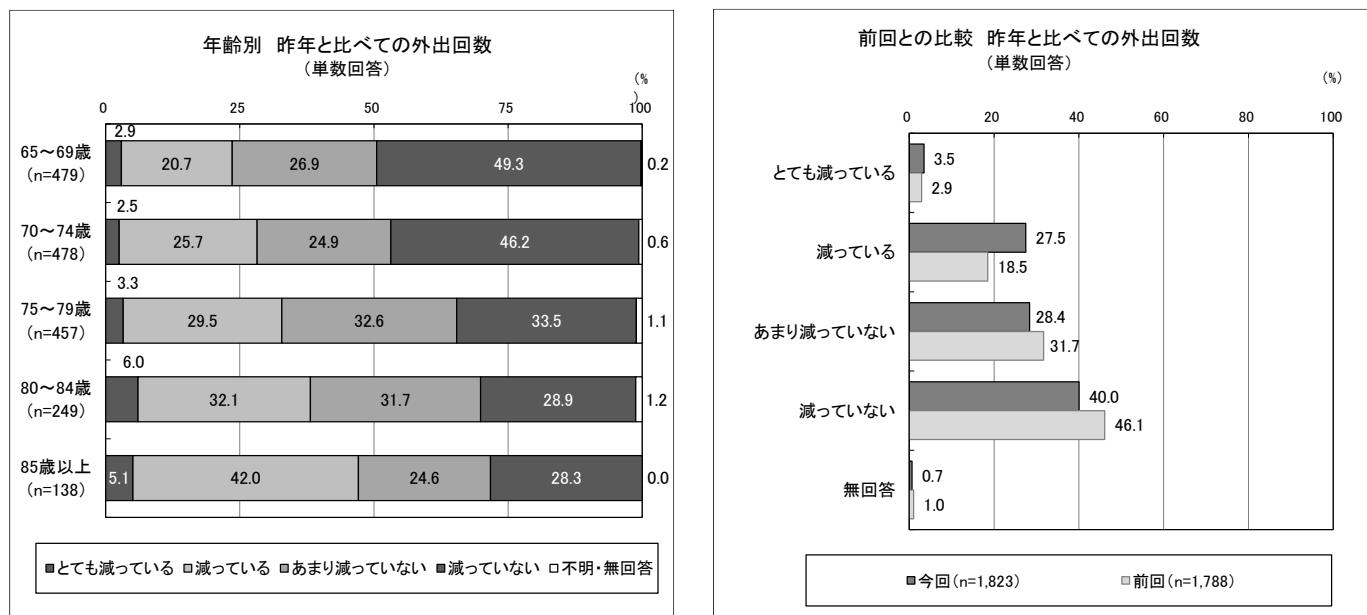
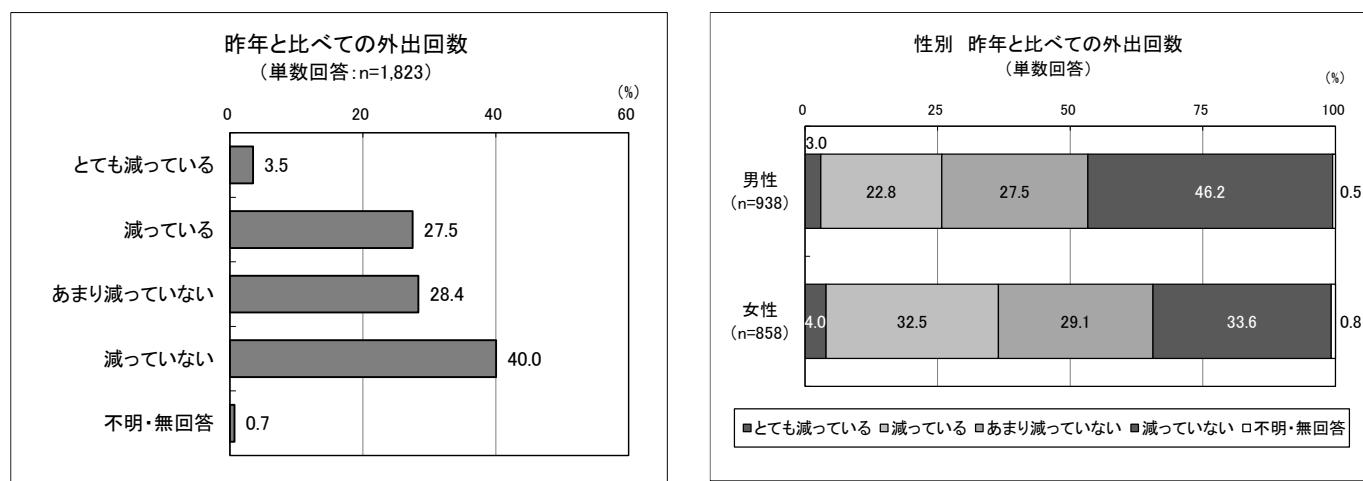
(7) 昨年と比べての外出回数が減っているか

「減っていない」が 40.0%と最も多く、次いで「あまり減っていない」が 28.4%、「減っている」が 27.5%、「とても減っている」が 3.5%となっています。

性別についてみると、男女ともに「減っていない」が最も多くなっています。また、「女性」では「とても減っている」「減っている」が「男性」と比べて多くなっています。

年齢別についてみると、年齢層が高くなるほど「とても減っている」「減っている」が多くなっています。

前回の調査と比較すると、「減っている」は 9.0 ポイント増加しており、「減っていない」は 6.1 ポイント減少しています。



この設問は、外出を控えている場合の原因を問う設問です。閉じこもり傾向のある高齢者の原因を把握することにより、地域課題（閉じこもり傾向のある高齢者に不足している対策）の把握が可能になります。

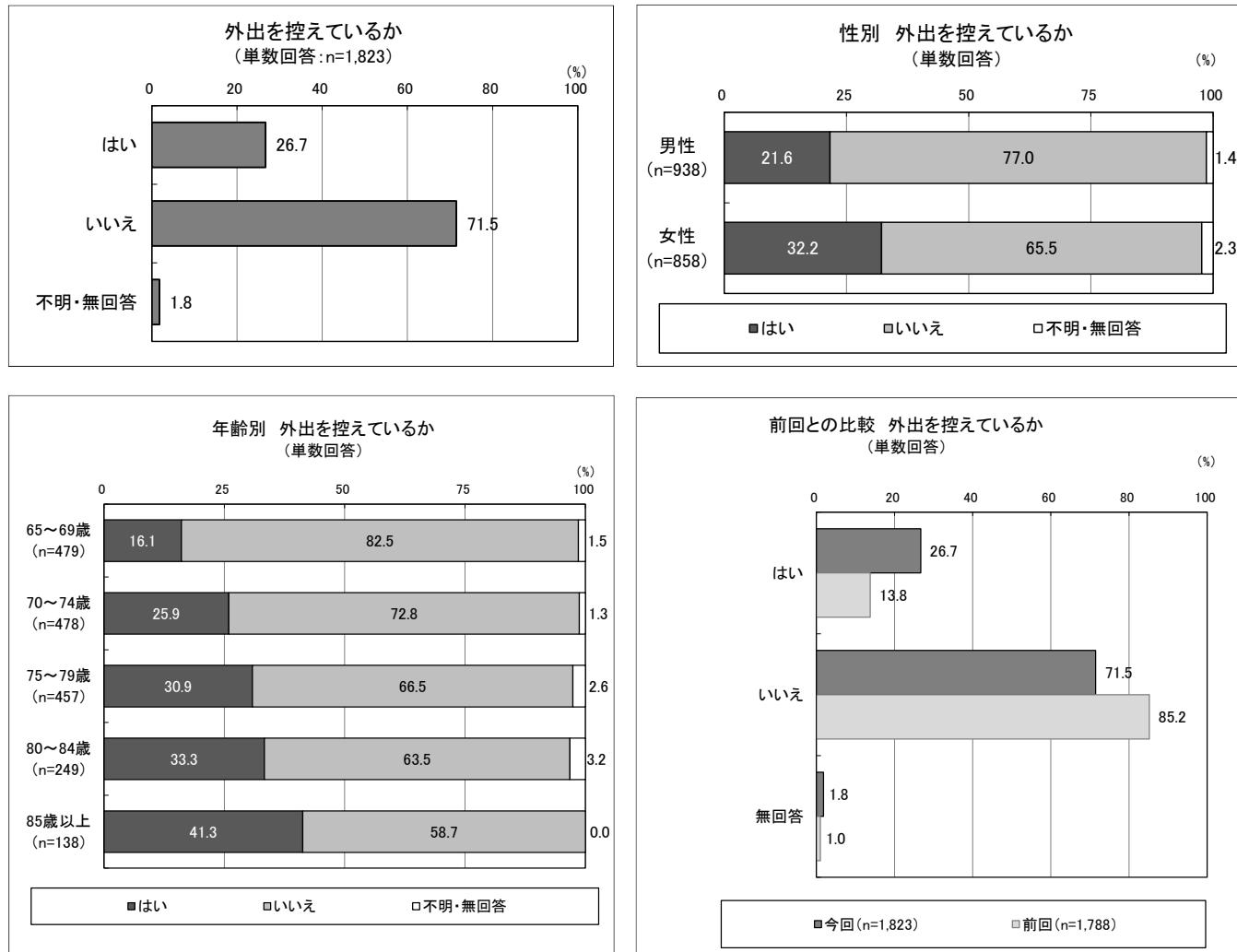
（8）外出を控えているか

「はい」が 26.7%、「いいえ」が 71.5%となっています。

性別についてみると、「女性」では「はい」が「男性」と比べて多くなっています。

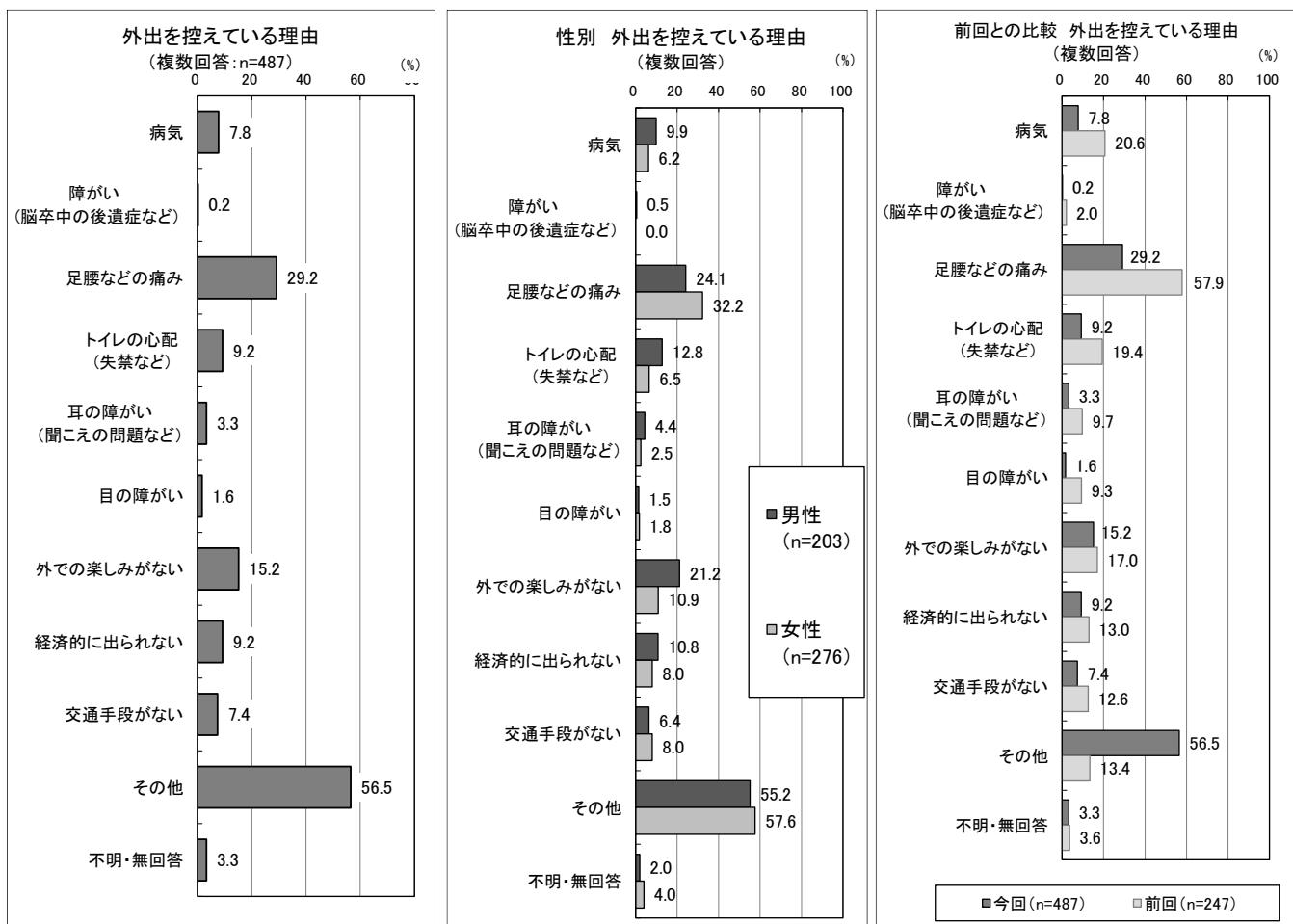
年齢別についてみると、すべての年齢層で「いいえ」が多くなっています。また、年齢層が高くなるほど「はい」が多くなっています。

前回の調査と比較すると、「はい」が 12.9 ポイント増加、「いいえ」が 13.7 ポイント減少しています。



(8) ① 外出を控えている理由【前問（8）で「はい」と回答した人】

外出を控えている人の外出を控えている理由は「足腰などの痛み」が 29.2%と多く、次いで「外での楽しみがない」が 15.2%、「トイレの心配（失禁など）」と「経済的に出られない」がともに 9.2%、「交通手段がない」が 7.4%などとなっています



【その他の内容】

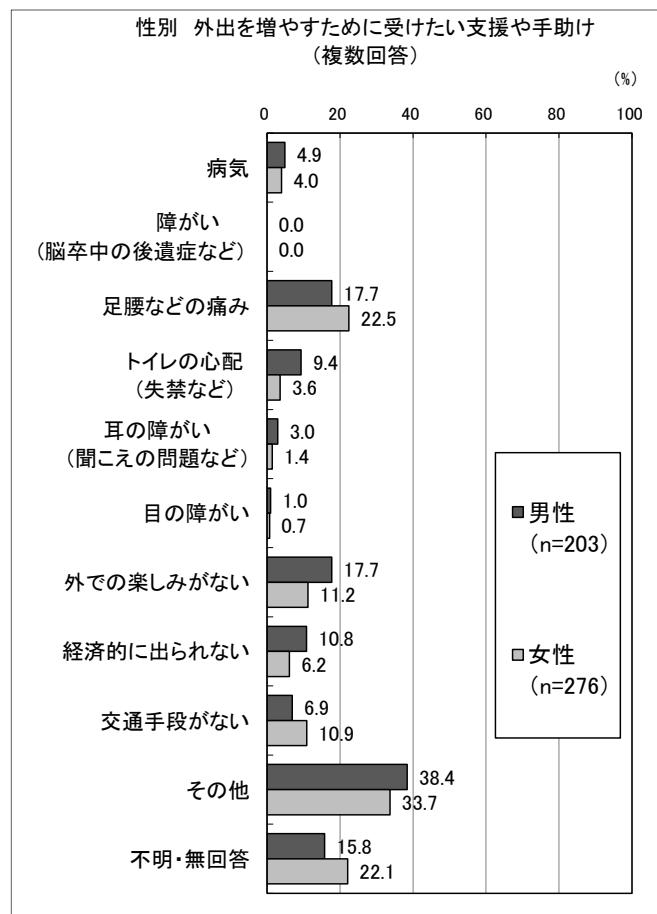
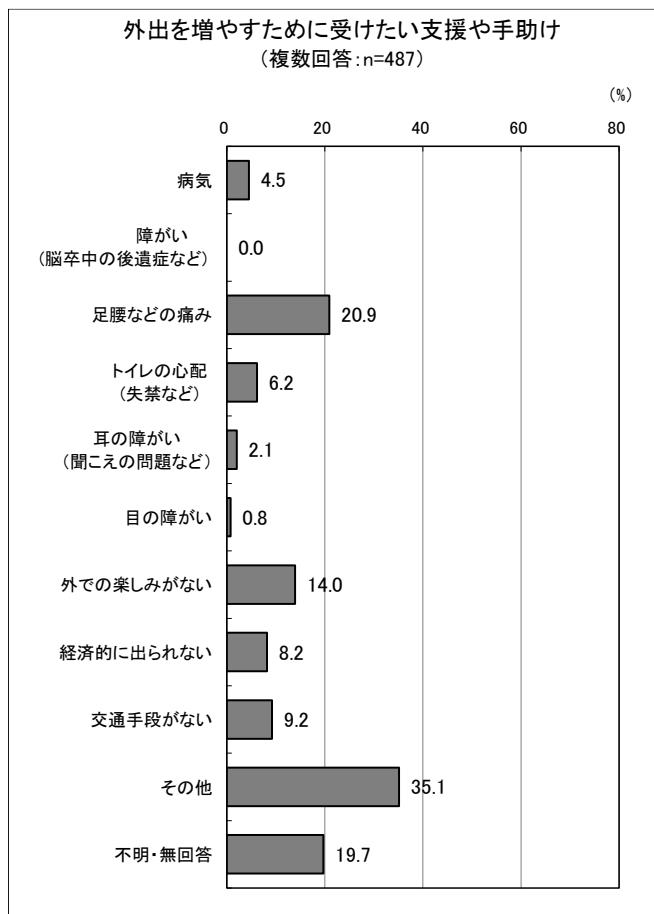
延べ 260 件の意見があり、主な意見は以下のとおりです。

- 家族の介護 8 件
- 病気や体の理由 9 件
- 外出する目的がない 3 件
- 趣味や旅行など自分の時間をすごす 3 件
- 仕事・時間がない 2 件
- 公共交通機関の理由 2 件
- 運転免許の返納のため 1 件
- 転倒の不安 1 件
- 夜間の外出への不安 1 件
- 高齢のため 1 件
- その他（コロナの関係） 231 件

この設問は、閉じこもり傾向の改善のために必要な対策の把握をするものです。

(8) ② 外出を増やすために受けたい支援や手助け【前問（8）で「はい」と回答した人】

「足腰などの痛み」が 20.9%と多く、次いで「外での楽しみがない」が 14.0%、「交通手段がない」が 9.2%、「経済的に出られない」が 8.2%、「トイレの心配（失禁など）」が 6.2%、「病気」が 4.5%などとなっています。



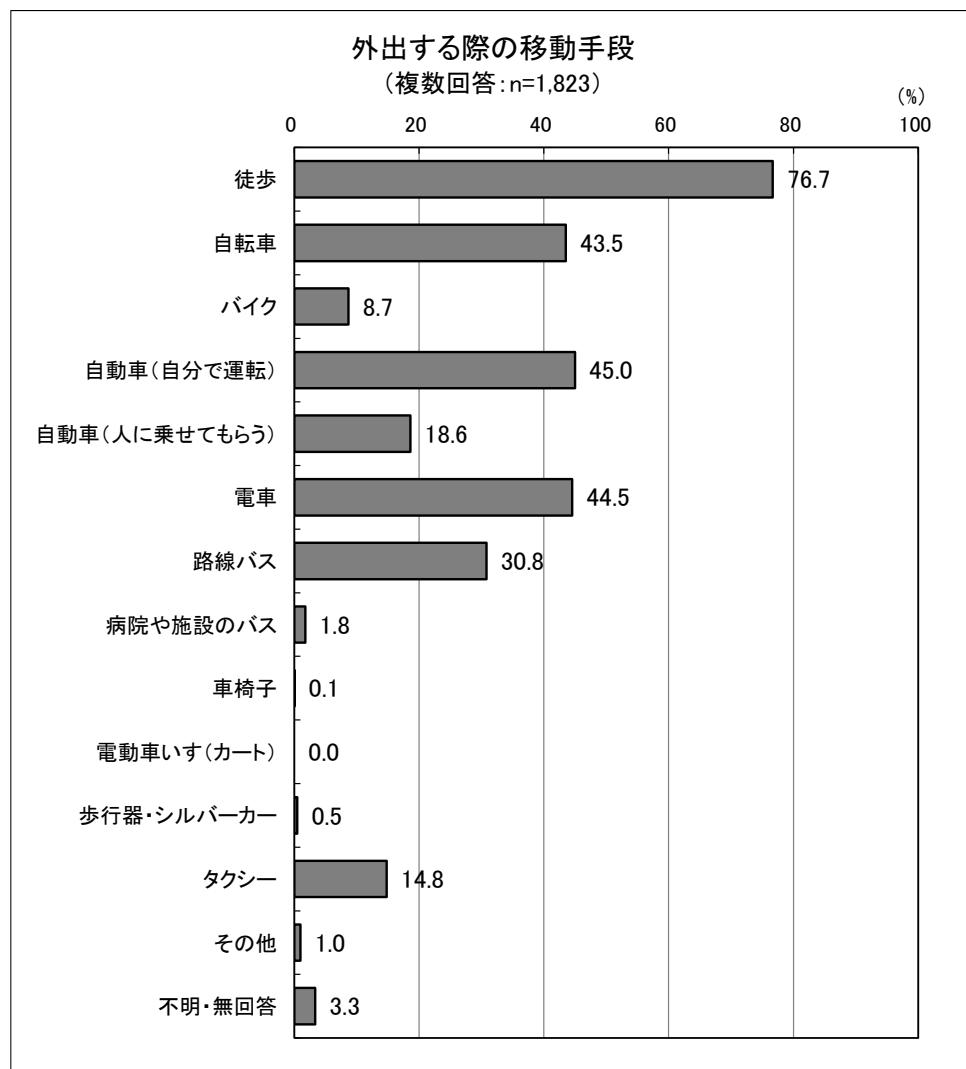
【その他の内容】

延べ 152 件の意見があり、主な意見は以下のとおりです。

- 支援の必要は特にない 42 件
- 公共交通機関など交通に関する支援 9 件
- 介護制度の充実 4 件
- 病気など体のこと 4 件
- 外出したくない 2 件
- イベント等の支援 2 件
- 年金の増額 1 件
- 仕事 1 件
- その他（コロナの関係） 88 件

(9) 外出する際の移動手段

「徒歩」が 76.7%と最も多く、次いで「自動車（自分で運転）」が 45.0%、「電車」が 44.5%、「自転車」が 43.5%、「路線バス」が 30.8%、「自動車（人に乗せてもらう）」が 18.6%、「タクシー」が 14.8%などとなっています。



【その他の内容】

延べ 20 件の意見があり、主な意見は以下のとおりです。

- 自動車（人に乗せてもらう） 4 件
- ハッピーバスで 4 件
- 杖について徒歩で 2 件
- 誰かに付き添ってもらう 2 件
- 自動車（自分で運転） 1 件
- 電車 1 件
- ショッピングカート(手動) 1 件
- その他（特ない等） 5 件

3. 食べることについて

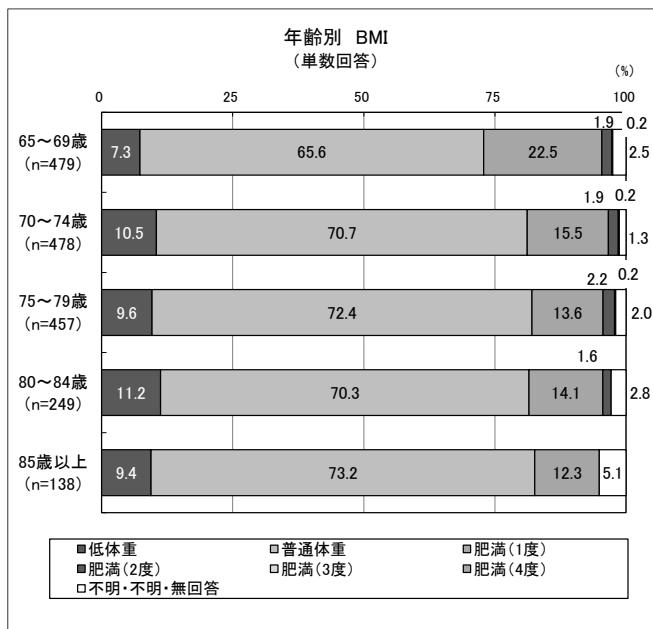
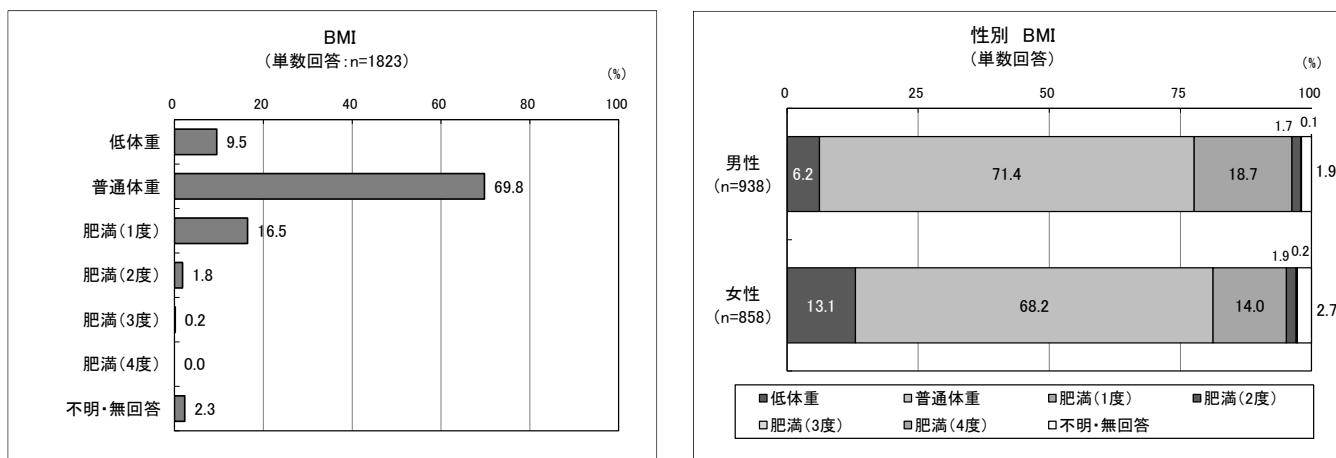
(1) BMI*

「普通体重」が69.8%と最も多く、次いで「肥満（1度）」が16.5%、「低体重」が9.5%、「肥満（2度）」が1.8%、「肥満（3度）」が0.2%となっています。

性別についてみると、男女ともに「普通体重」が最も多くなっています。また、「女性」では「低体重」が「男性」と比べて多くなっています。

年齢別でみると、「65～69歳」では「肥満（1度）」が他の年齢層と比べて多くなっています。

家族構成別でみると、「低体重」が他の家族構成と比べて多くなっています。



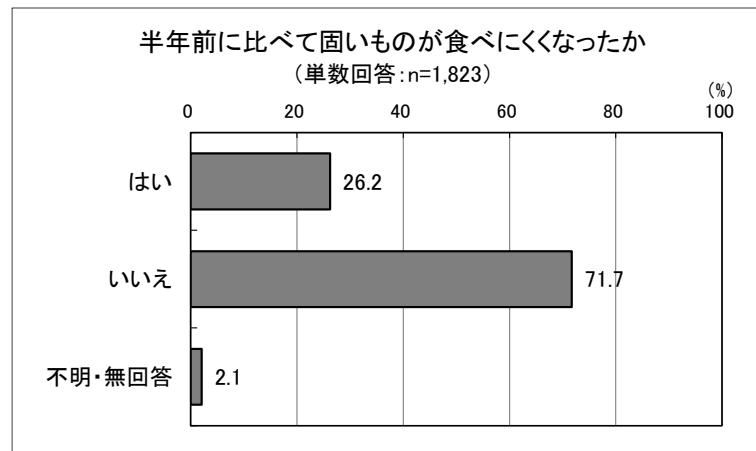
* BMI : [体重(kg)] ÷ [身長(m)の2乗]で算出される値で、肥満や低体重（やせ）の判定に用いられます。

「低体重」=BMI 値 18.5 未満、「普通体重」=BMI 値 18.5 以上 25 未満、「肥満（1度）」=BMI 値 25～30 未満、「肥満（2度）」=BMI 値 30～35 未満、「肥満（3度）」=BMI 値 35～40 未満、「肥満（4度）」=BMI 値 40 以上

この設問は、口腔機能の低下のうち咀嚼機能の低下を問う設問です。口腔機能が低下している高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなつたか

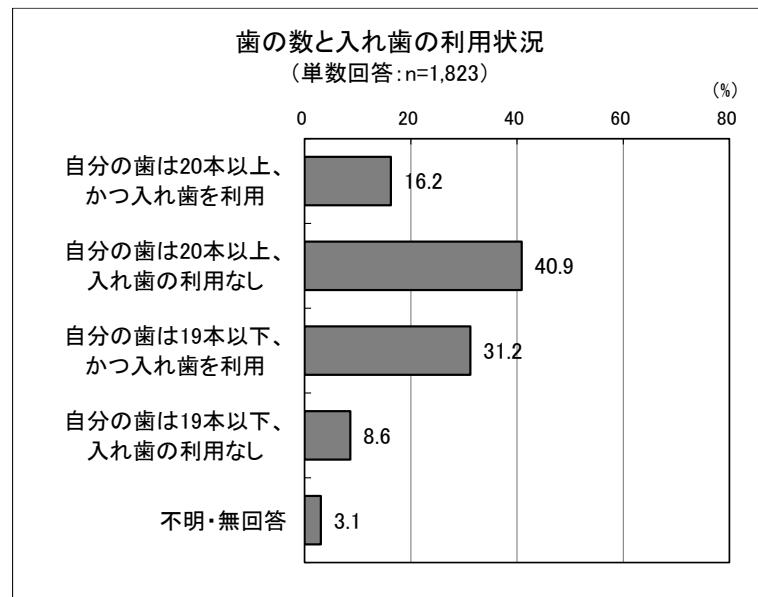
「はい」が26.2%、「いいえ」が71.7%となってています。



この設問は、義歯の有無と歯数を問う設問です。高齢者の口腔の健康状態や義歯の使用状況の把握により、地域の歯科医療や口腔機能の向上に関するニーズの把握の参考になります。

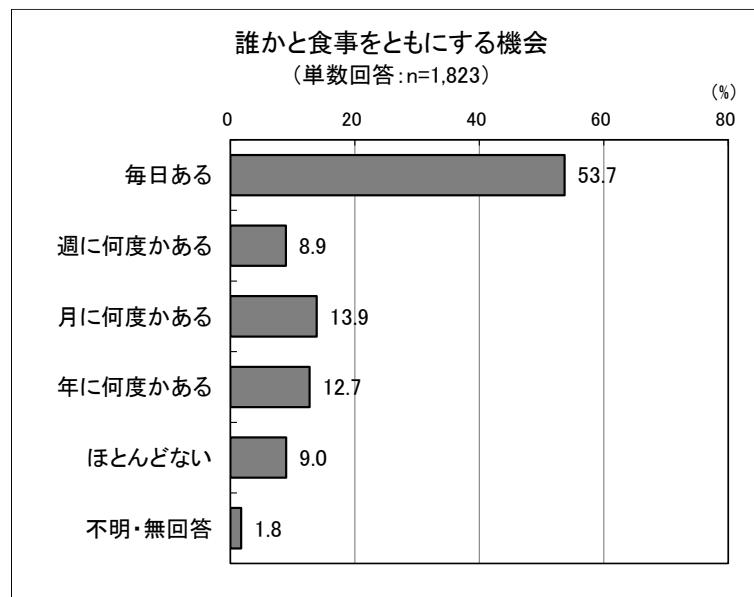
(3) 歯の数と入れ歯の利用状況

「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 40.9%と最も多く、次いで「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 31.2%、「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」が 16.2%、「自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし」が 8.6%となっています。



(4) 誰かと食事をともにする機会

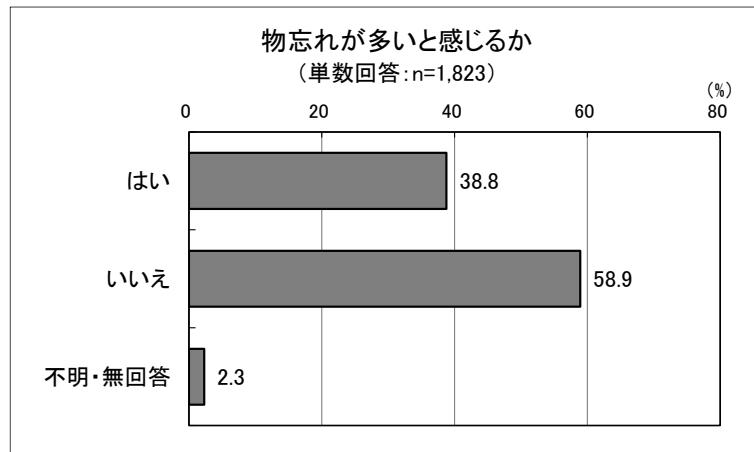
「毎日ある」が 53.7%と最も多く、次いで「月に何度かある」が 13.9%、「年に何度かある」が 12.7%、「ほとんどない」が 9.0%、「週に何度かある」が 8.9%となっています。



4. 毎日の生活について

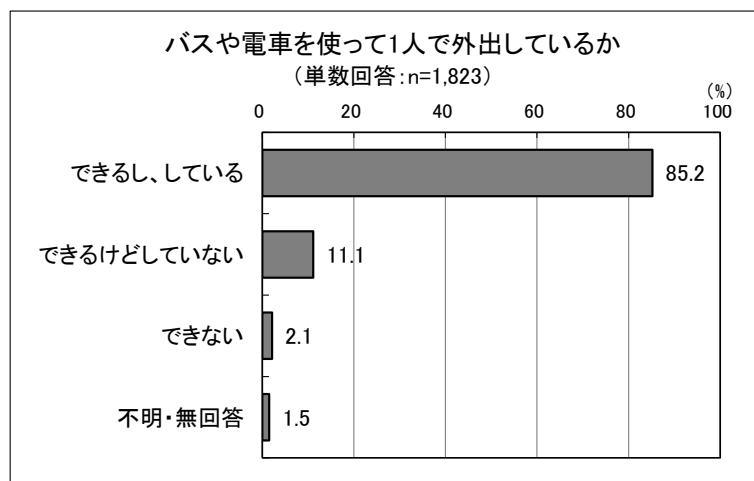
(1) 物忘れが多いと感じるか

「はい」が 38.8%、「いいえ」が 58.9%となっています。



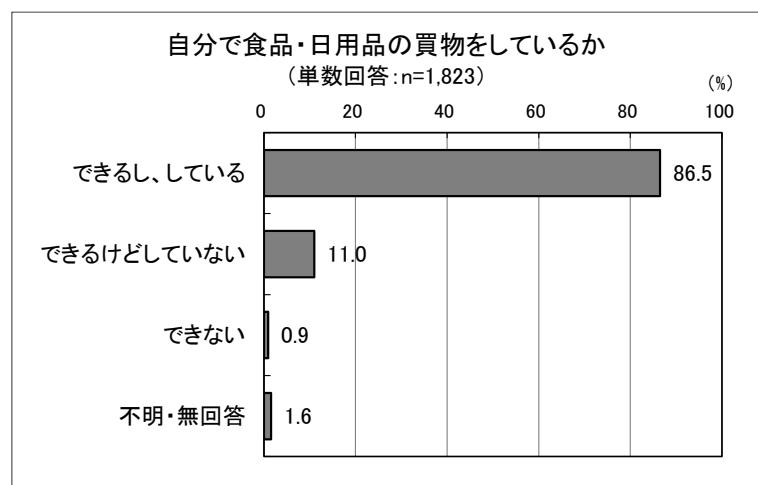
(2) バスや電車を使って1人で外出しているか

「できるし、している」が 85.2%と最も多く、次いで「できるけどしていない」が 11.1%、「できない」が 2.1%となっています。



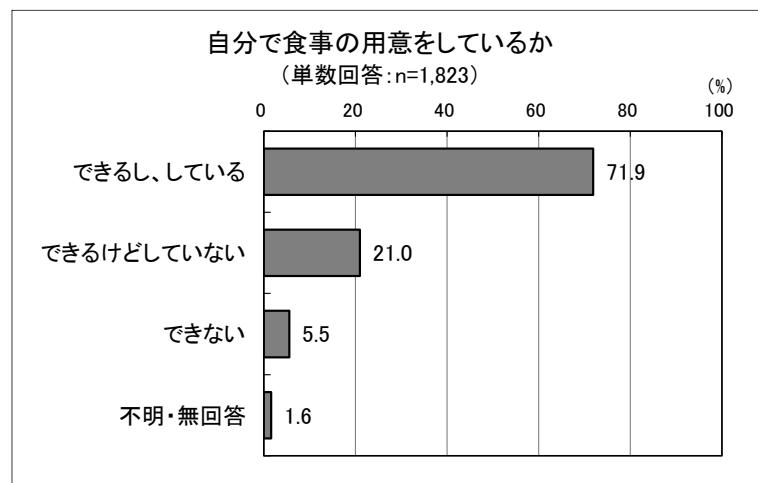
(3) 自分で食品・日用品の買物をしているか

「できるし、している」が 86.5% と最も多く、次いで「できるけどしていない」が 11.0%、「できない」が 0.9% となっています。



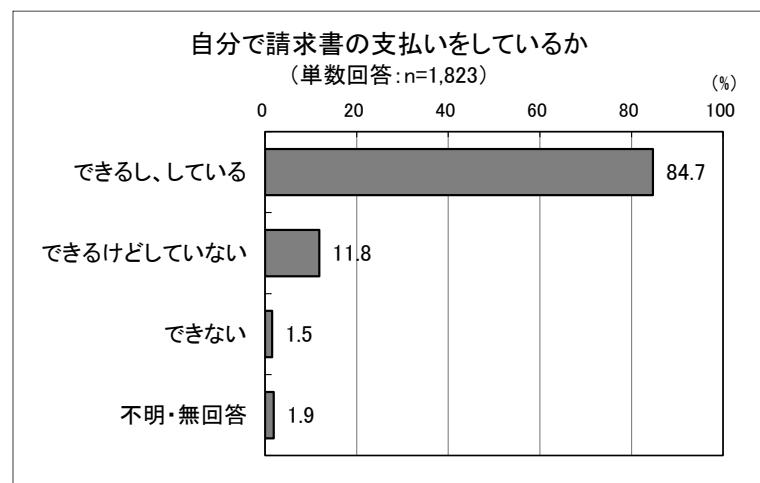
(4) 自分で食事の用意をしているか

「できるし、している」が 71.9% と最も多く、次いで「できるけどしていない」が 21.0%、「できない」が 5.5% となっています。



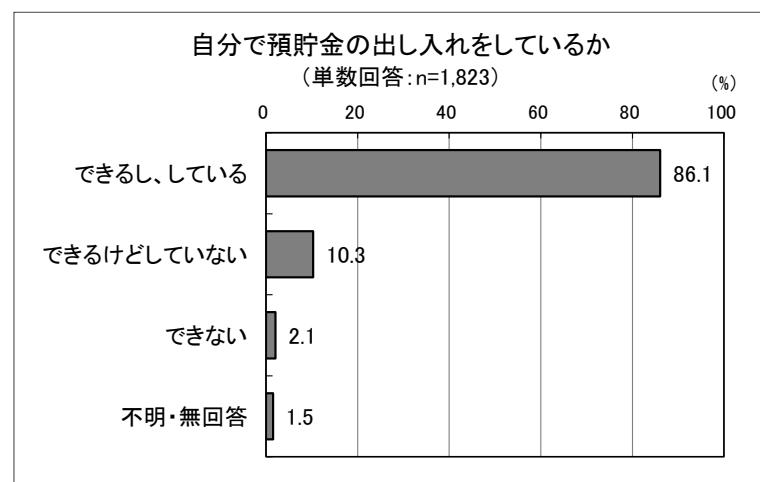
(5) 自分で請求書の支払いをしているか

「できるし、している」が 84.7% と最も多く、次いで「できるけどしていない」が 11.8%、「できない」が 1.5% となっています。



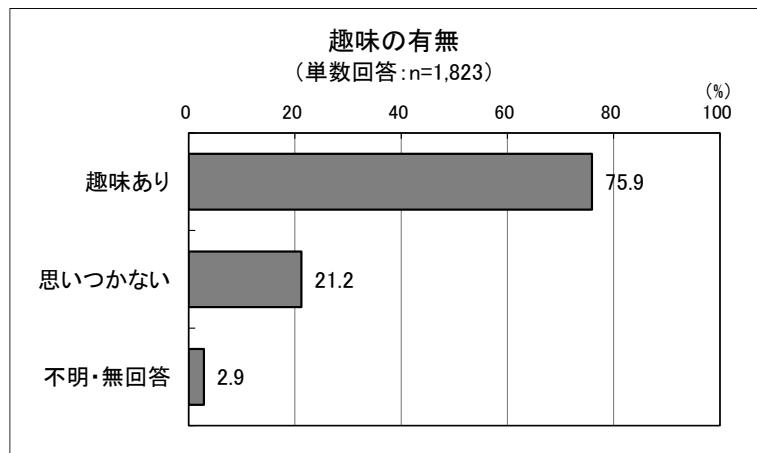
(6) 自分で預貯金の出し入れをしているか

「できるし、している」が 86.1% と最も多く、次いで「できるけどしていない」が 10.3%、「できない」が 2.1% となっています。



(7) 趣味の有無

「趣味あり」が 75.9%、「思いつかない」が 21.2%となっています。



【趣味の内容】

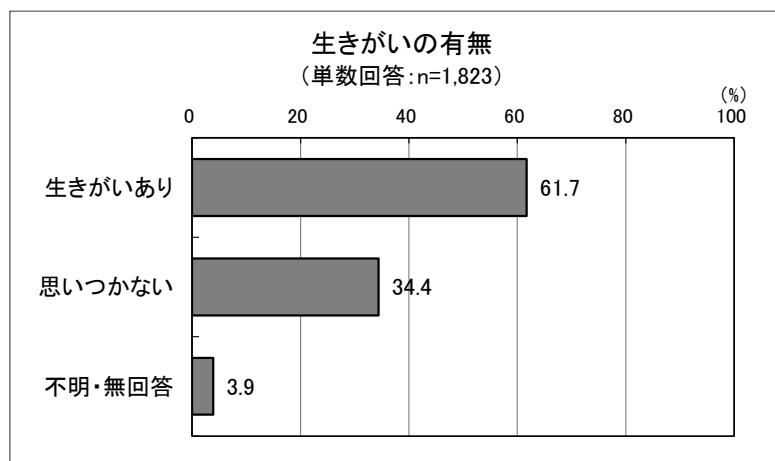
延べ 2,066 件の意見があり、以下の項目で整理し、主な意見は以下のとおりです。なお、「主な意見」を整理しているため、小計と項目の合計は一致しません。

文化活動	663 件
○ 手芸・編み物	135 件
○ 音楽鑑賞	76 件
○ 楽器演奏	37 件
○ 絵画	19 件
○ カラオケ	39 件
○ 野菜づくり	49 件
○ 園芸	62 件
○ 花作り	7 件
○ 写真撮影・カメラ	15 件
○ DIY・工作、モノづくり	41 件
○ 歌唱	22 件
○ 魚釣り	34 件
○ 俳句・詩吟	11 件
○ 囲碁	35 件
○ 合唱	4 件
○ 麻雀（健康麻雀）	19 件
○ 料理	13 件
○ 工作（木工、プラモデルなど）	3 件
○ スポーツ観戦	7 件
○ パズル（ナンプレ、クロスワードなど）	15 件
○ 将棋	12 件
○ 絵手紙	8 件

・ スポーツ	399 件
○ ゴルフ（グランドゴルフ）	84 件
○ 散歩・ウォーキング	43 件
○ 登山・ハイキング	49 件
○ テニス	38 件
○ スポーツジムでの運動（筋力トレーニングなど）	13 件
○ ダンス（フラダンス）	10 件
○ 体操・ストレッチ	19 件
○ 水泳	12 件
○ 卓球	10 件
○ サイクリング	8 件
○ 運動・スポーツ全般	110 件
○ ジョギング	3 件
・ 学習・教養	186 件
○ 読書	152 件
○ 英会話など語学	34 件
・ サークル活動	16 件
○ 文化活動サークルに参加	16 件
・ その他活動	236 件
○ 旅行	77 件
○ ドライブ	24 件
○ 買物	7 件
○ 社寺仏閣めぐり	23 件
○ その他（バイク・道の駅巡りなど）	105 件

(8) 生きがいの有無

「生きがいあり」が 61.7%、「思いつかない」が 34.4%となっています。



【生きがいの内容】

延べ 1,204 件の意見があり、以下の項目で整理して、主な意見は以下のとおりです。なお、「主な意見」を整理しているため、小計と項目の合計は一致しません。

・ 家庭、家族	378 件
○ 孫の成長・孫との交流	212 件
○ ひ孫の成長	7 件
○ 子供との交流・成長・世話など	51 件
○ 息子、娘との交流	7 件
○ 家族との交流	81 件
○ 家族の健康や幸せ	4 件
○ 家族のための家事や介護	16 件
・ 友人や仲間・人との交流	68 件
・ 文化活動	211 件
○ 趣味全般	147 件
○ 歌唱	4 件
○ 音楽鑑賞（音楽活動・美術・映画鑑賞等）	14 件
○ 家庭菜園（DIY など）	32 件
○ 絵画（水彩画など）	10 件
○ 書道	4 件
・ 仕事	81 件
・ スポーツ	84 件
○ ゴルフ（グランドゴルフ）	21 件

- 運動・スポーツ全般 46 件
- 登山・ハイキング 8 件
- ウォーキング 9 件

・ 地域活動 49 件

- ボランティア・社会貢献活動 42 件
- 地域のイベントなどへの参加・サークル活動等 7 件

健康であること 151 件

- 健康・元気であること 66 件
- 毎日充実した日々を送ること・楽しむこと 40 件
- 長生きすること 5 件
- 好きなことをする・生きがいをもつこと 12 件
- 関心をもつこと 7 件
- 自立した生活を送ること 6 件
- 自然でいること 4 件
- 日々や人、生きていることへの感謝すること 3 件
- リハビリなど体の回復に取組む 3 件
- 人の役にたつこと 5 件

・ 学習・教養 17 件

- 学習すること 6 件
- 読書 11 件

・ その他 147 件

- 旅行 56 件
- ドライブ・外出等 11 件
- 食事 14 件
- 風呂・サウナ等 3 件
- 日常生活のこと 2 件
- お酒・競馬 12 件
- 信仰 9 件
- 経営・指導・商売など 8 件
- ペットの世話・ペットとの交流 16 件
- その他（ない等） 16 件

(9) の設問は、市から発信する高齢者に対する情報提供や啓発にスマートフォン等の活用が可能かどうか、所有率を把握するとともに、有効な方法を把握するものです。

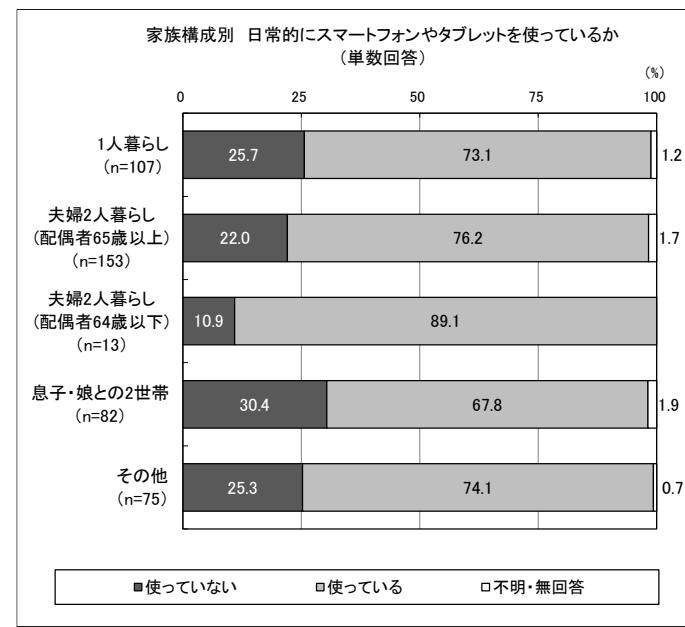
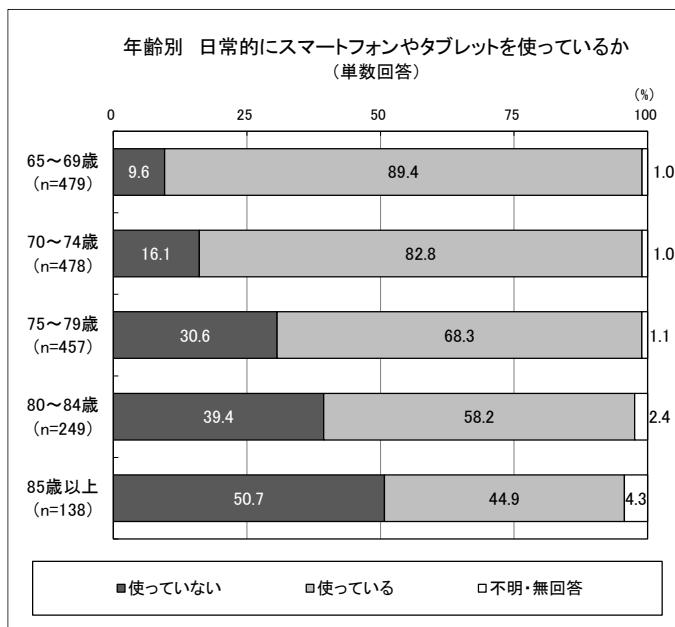
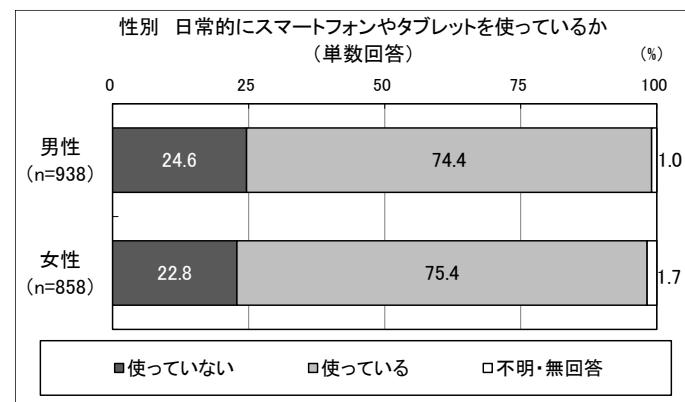
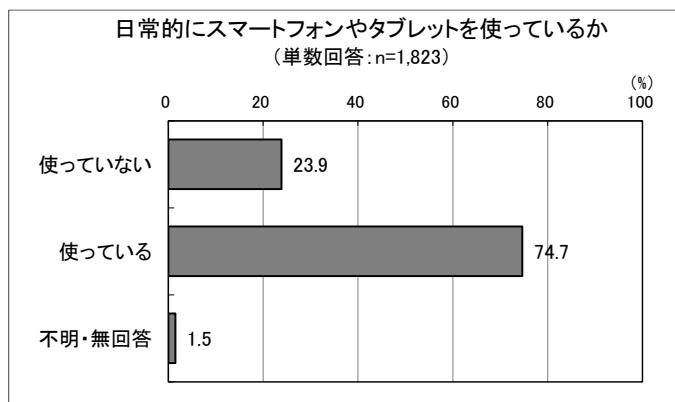
(9) 日常的にスマートフォンやタブレットを使っているか

「使っている」が 74.7%、「使っていない」が 23.9%となっています。

性別についてみると、男女ともに「使っている」が最も多くなっています。

年齢別についてみると、年齢層が高くなるほど「使っていない」が多くなっています。

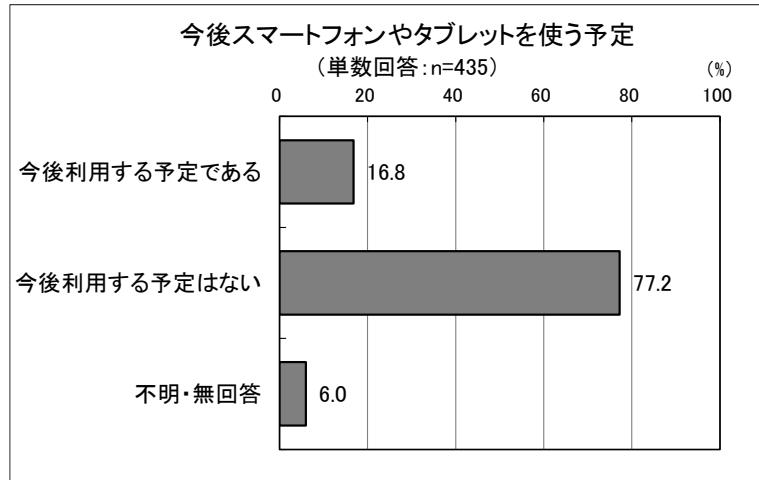
家族構成別についてみると、「夫婦 2 人暮らし(配偶者 64 歳以下)」で「使っている」が他の家族構成と比べて多くなっています。



(9) ① 今後スマートフォンやタブレットを使う予定

【前問（9）で「使っていない」と回答した人】

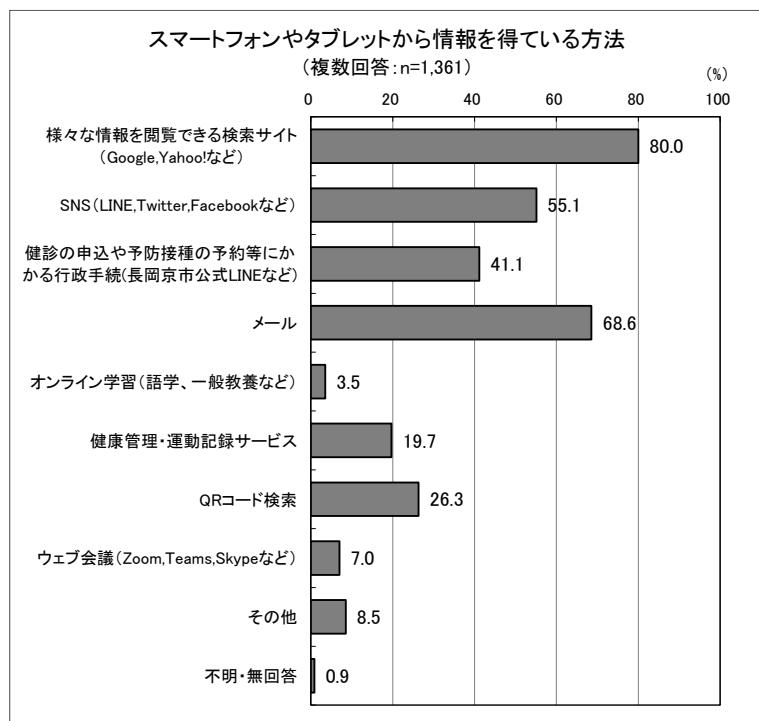
「今後利用する予定はない」が 77.2%、「今後利用する予定である」が 16.8%となってています。



(9) ②スマートフォンやタブレットから情報を得ている方法

【前問（9）で「使っている」と回答した人】

「様々な情報を閲覧できる検索サイト(Google, Yahoo!など)」が 80.0%と最も多く、次いで「メール」が 68.6%、「SNS (LINE, Twitter, Facebook など)」が 55.1%、「健診の申込や予防接種の予約等にかかる行政手続(長岡市公式 LINE など)」が 41.1%、「QR コード検索」が 26.3%、「健康管理・運動記録サービス」19.7%などとなっています。



【その他の内容】

延べ 114 件の意見があり、以下の項目で整理しました。

- アプリ（ゲーム・趣味・天気・メモ・株等） 27 件
- YouTube など動画アプリ 22 件
- 電話 21 件
- 予約や決済 9 件
- LINE 9 件
- パソコン使用 8 件
- 検索 8 件
- 写真 6 件
- ニュース 5 件
- インスタグラム・ティックトック 2 件
- メール 2 件
- 仕事の連絡 2 件
- 使いこなせてない 6 件
- 連絡媒体が不明 6 件

この設問は、地域での生活課題の把握とともに、地域での助け合いや生活支援サービスの創出の必要性について把握するものです。

(10) 5年後の生活を考えたとき、不安に感じる家事

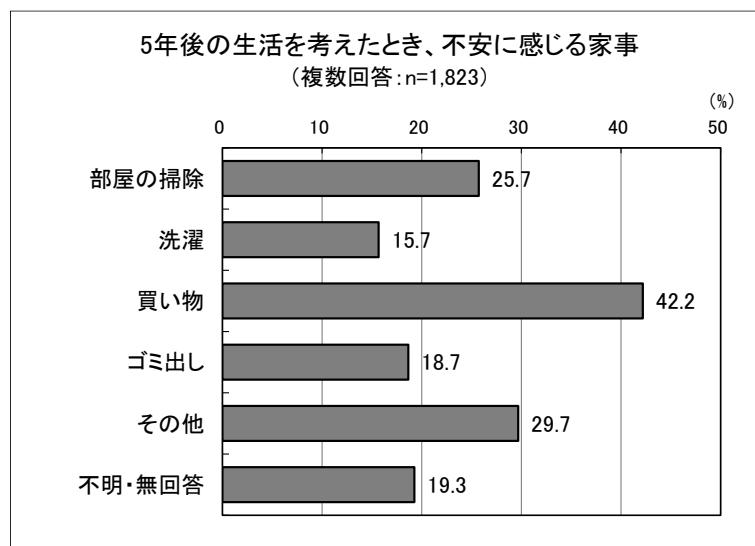
「買物」が42.2%と最も多く、「部屋の掃除」が25.7%、「洗濯」が15.7%などとなっています。

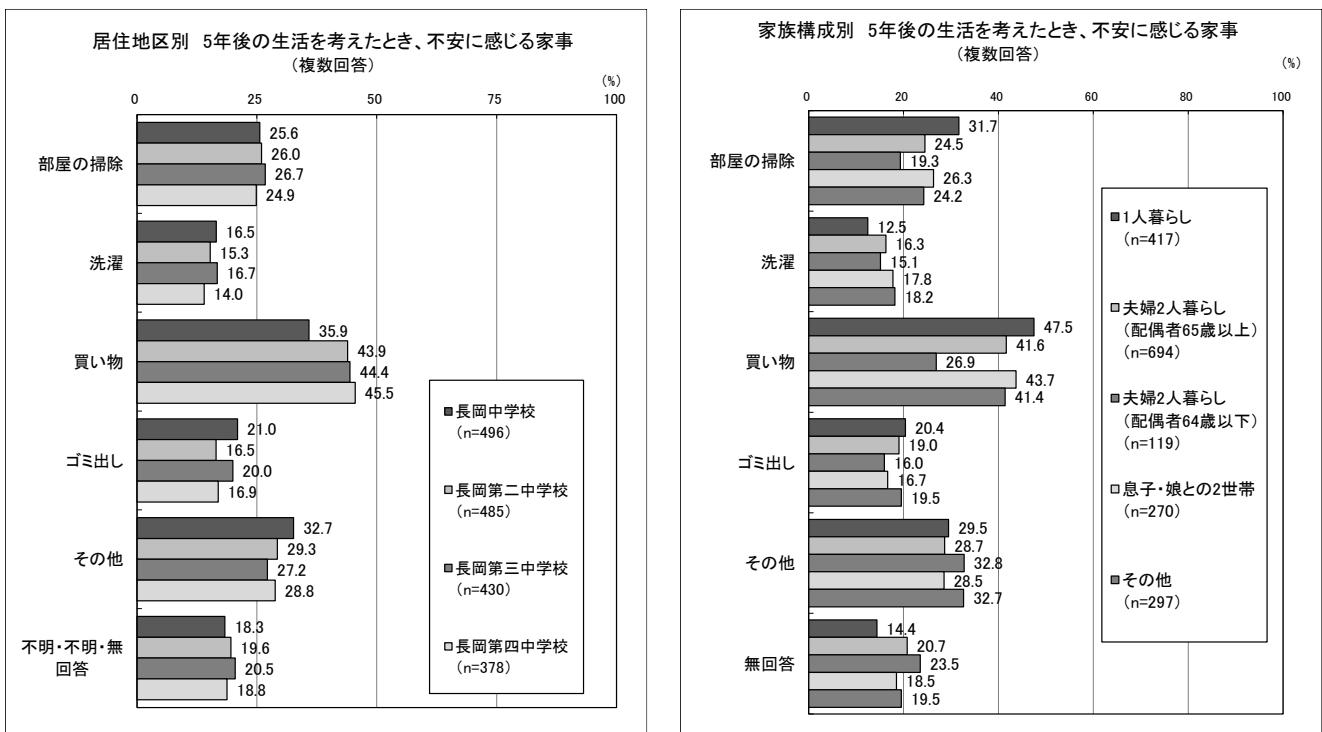
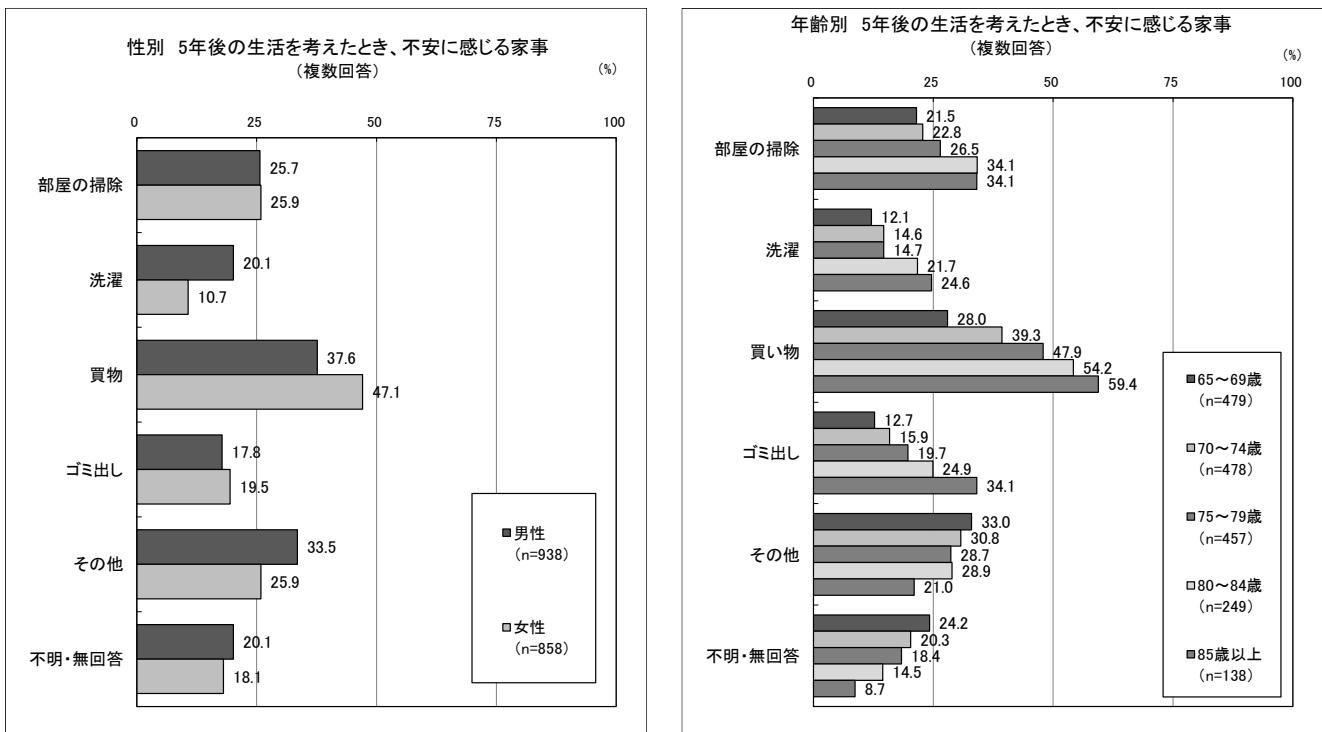
性別についてみると、男女ともに「買物」が最も多く、「部屋の掃除」などが多くなっています。「男性」では「洗濯」が「女性」よりも多く、「女性」では「買物」が「男性」と比べて多くなっています。

年齢別についてみると、「70～74歳」「75～79歳」「80～84歳」「85歳以上」では「買い物」が最も多くなっています。また、年齢層が高くなるほど「部屋の掃除」「洗濯」「買物」「ゴミ出し」への不安が多くなっています。

居住地区別についてみると、すべての居住地区で「買物」が最も多くなっています。なお、居住地区による有意な差はみられません。

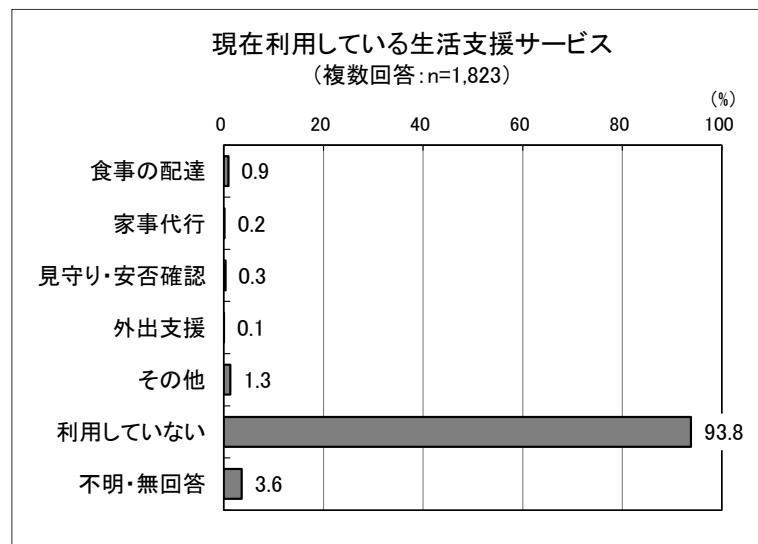
家族構成別についてみると、「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」を除く家族構成において「買物」が最も多く、次いで「部屋の掃除」が多くなっています。また、「1人暮らし」では「部屋の掃除」「買物」が他の家族構成と比べて多くなっています。





(11) 現在利用している生活支援サービス

「利用していない」が 93.8%と最も多くなっています。



【その他の内容】

延べ 25 件の意見があり、以下の項目で整理しました。

- 食材の配達 12 件
- 老人ホーム入居 1 件
- 生活保護 1 件
- 利用したい 1 件
- 特にない 4 件
- その他 (状況がわからない等) 6 件

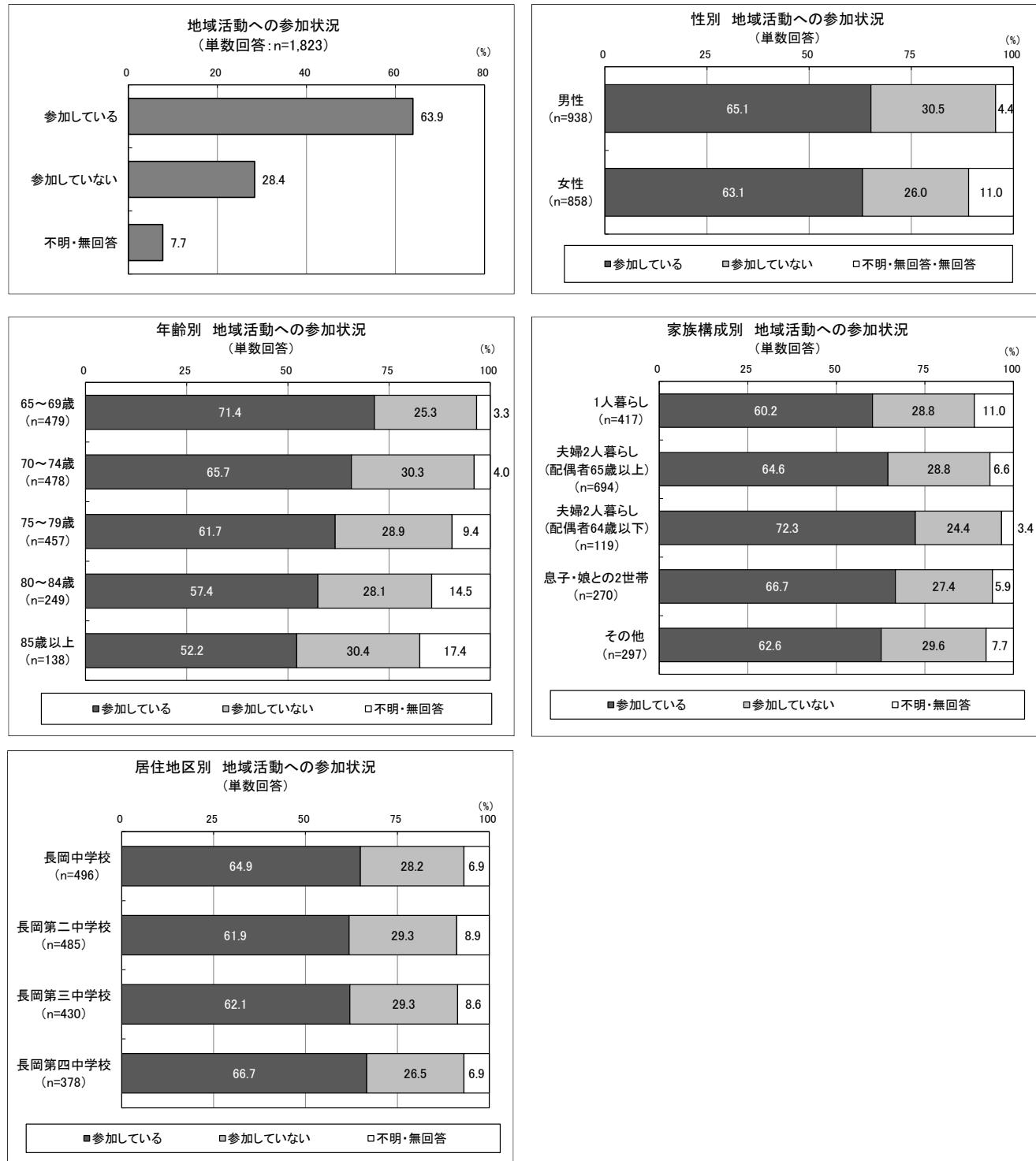
5. 地域での活動について

(1) ① 地域活動への参加状況

いずれかの地域活動に1つでも「参加している」※が63.9%、「参加していない」が28.4%となっています。

性別で見ると、「女性」より「男性」の方が「参加していない」が多くなっています。

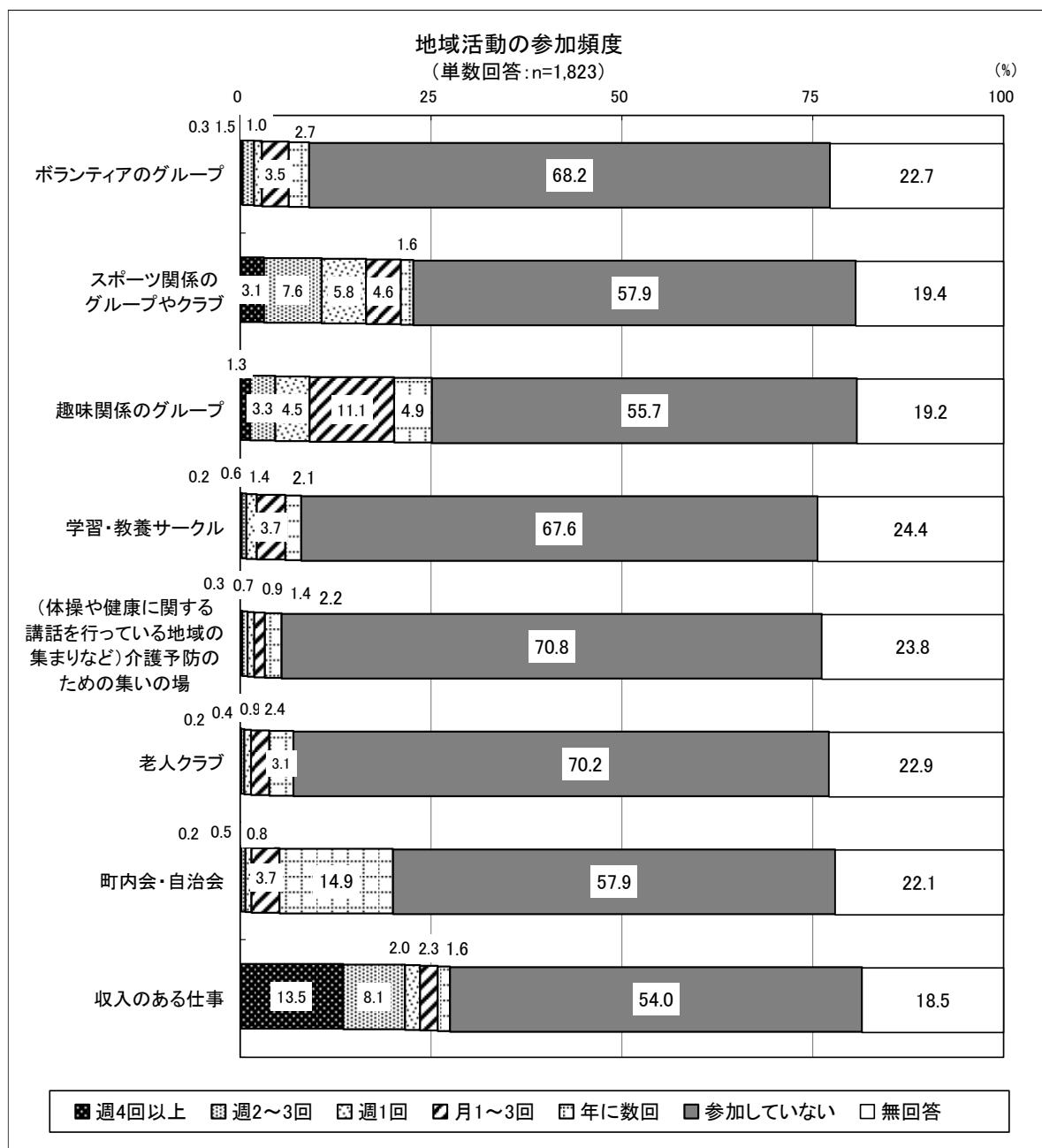
年齢別についてみると、年齢層が高くなるほど「参加している」が少なくなっています。



※ 「ボランティアのグループ」「スポーツ関係のグループやクラブ」「趣味関係のグループ」「学習・教養サークル」「体操や健康に関する講話を正在行っている地域の集まり」「老人クラブ」「町内会・自治会」「収入のある仕事」のいずれか1つに参加している人

(1) ② 地域活動別の参加頻度

「週1回以上参加している」（「週4回以上」「週2～3回」「週1回」の合計）について、「収入のある仕事」が最も多く23.6%、次いで「スポーツ関係のグループやクラブ」が16.5%、「趣味関係のグループ」が9.1%などとなっています。

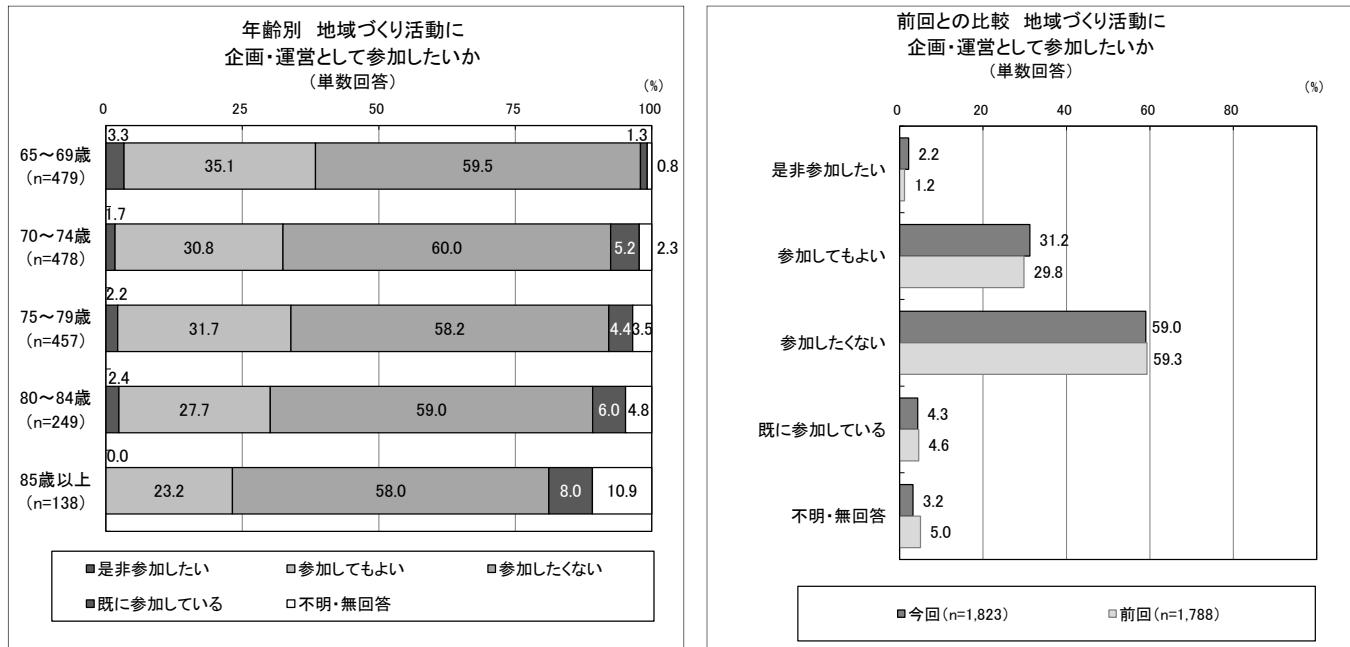
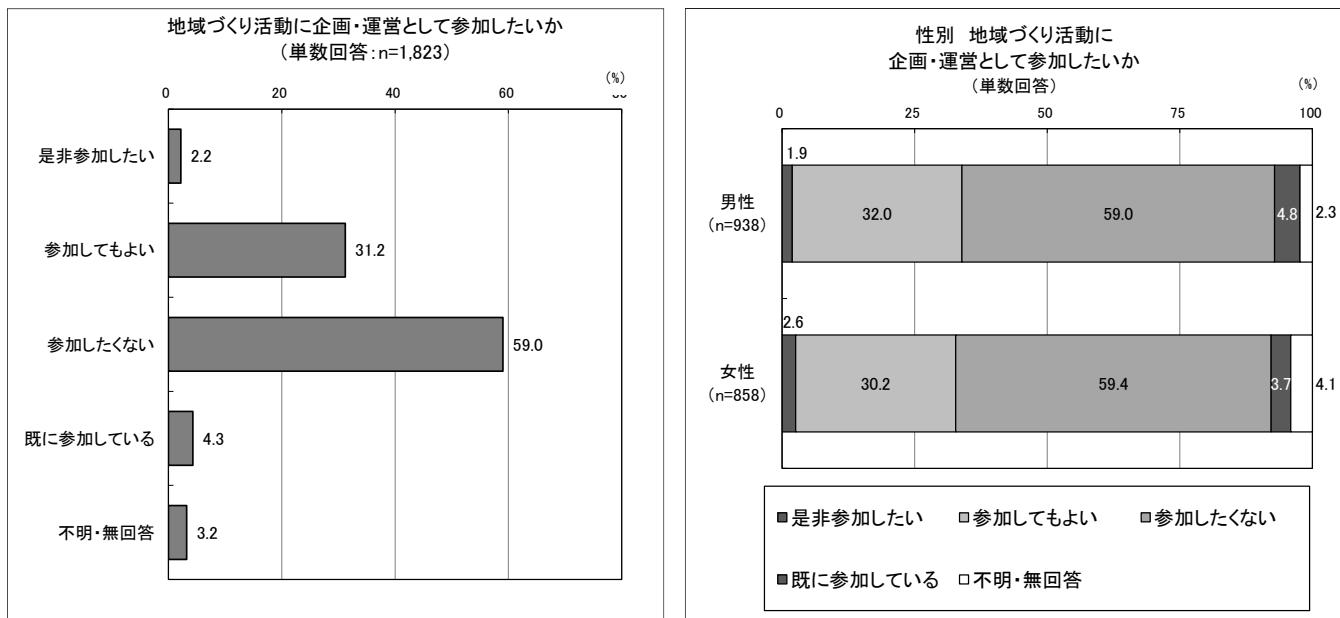


(2) 地域づくり活動へ企画者・運営として参加したいか

「参加したくない」が 59.0%と最も多く、次いで「参加してもよい」が 31.2%と「既に参加している」が 4.3%、「是非参加したい」が 2.2%となっています。

性別についてみると、男女ともに「参加したくない」が最も多くなっています。また、「女性」では「是非参加したい」が「男性」と比べて多くなっています。

年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「既に参加している」が多くなっています。



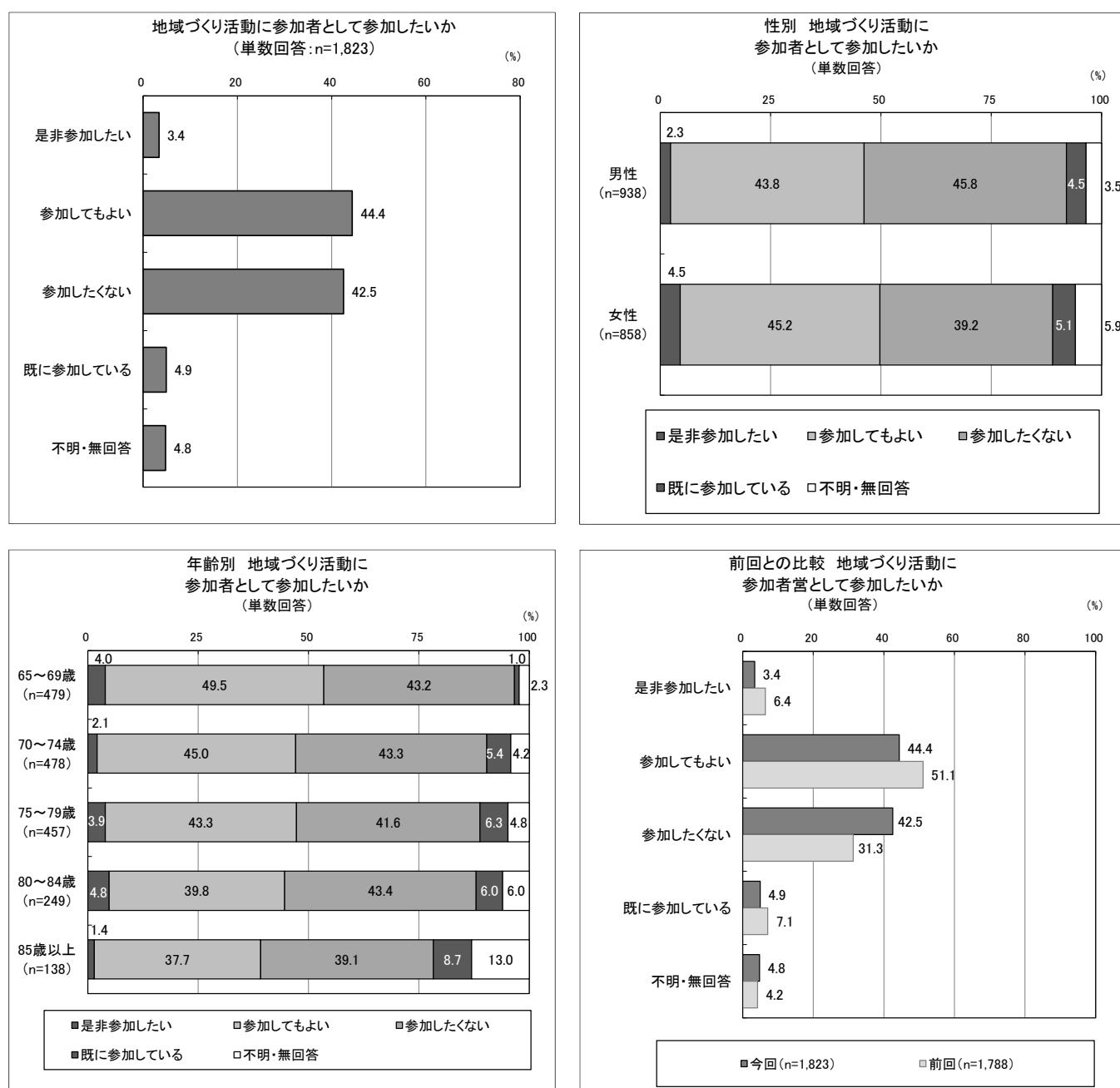
(3) 地域づくり活動へ参加者として参加したいか

「参加してもよい」が44.4%と最も多く、次いで「参加したくない」が42.5%、「既に参加している」が4.9%、「是非参加したい」が3.4%となっています。

性別についてみると、「男性」では「参加したくない」が、「女性」では「参加してもよい」が最も多くなっています。また、「女性」では「是非参加したい」が「男性」と比べて多くなっています。

年齢別にみると、「80～84歳」で「是非参加したい」が最も多くなっています。また、年齢層が高くなるほど「参加してもよい」が少なくなっています。

前回の調査と比較すると、「参加したくない」は11.2ポイント増加しており、「参加してもよい」は6.7ポイント減少しています。



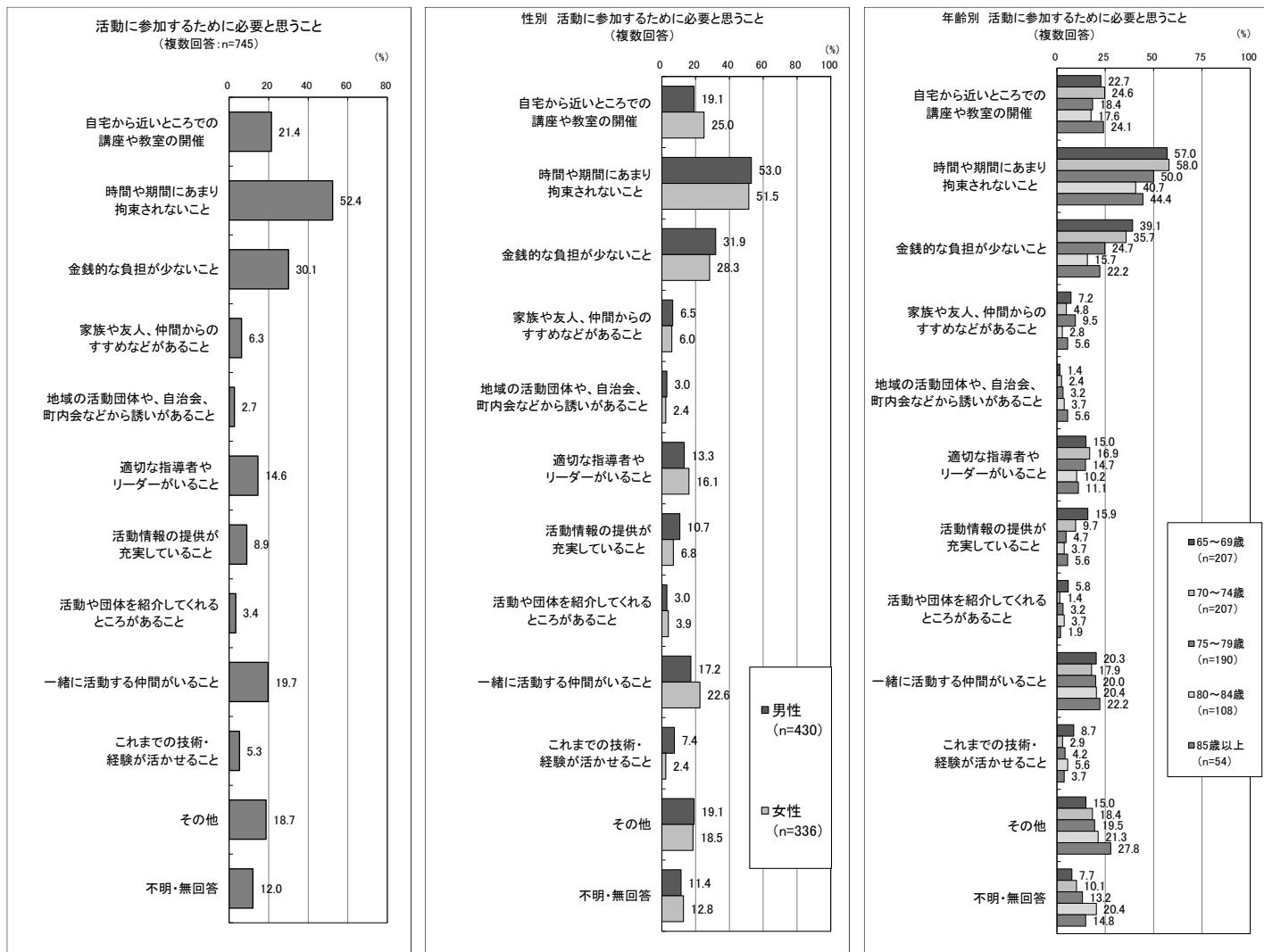
(4) 地域づくり活動に参加するために必要と思うこと

「時間や期間にあまり拘束されないこと」が 52.4%、「金銭的な負担が少ないとこと」が 30.1%、「自宅から近いところでの講座や教室の開催」が 21.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「時間や期間にあまり拘束されないこと」が最も多くなっています。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「時間や期間にあまり拘束されないこと」が最も多くなっています。

また、「金銭的な負担が少ないとこと」や「自宅から近いところでの講座や教室の開催」「一緒に活動する仲間がいること」なども多くなっています。



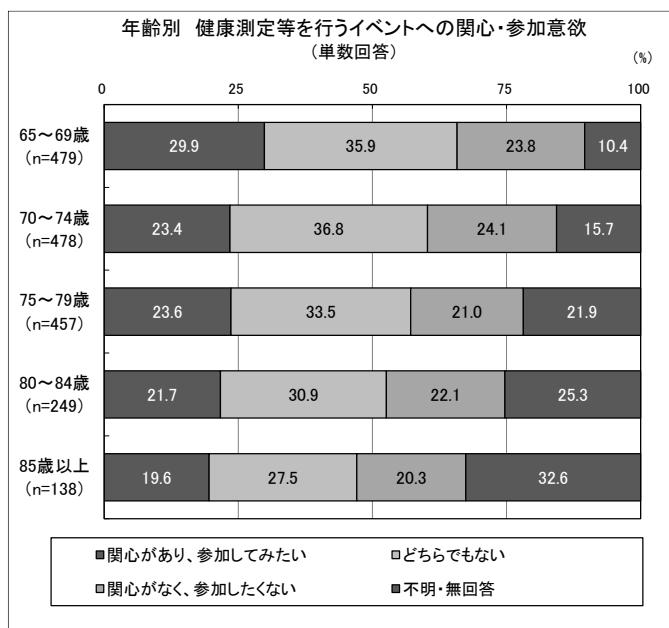
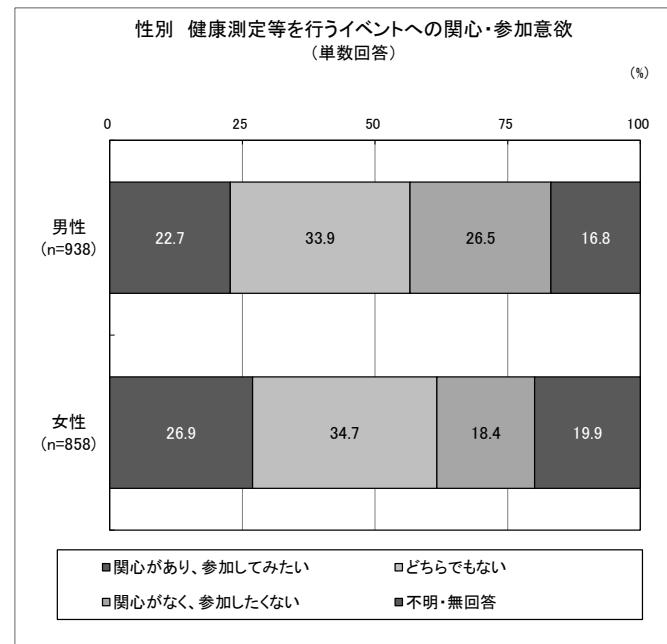
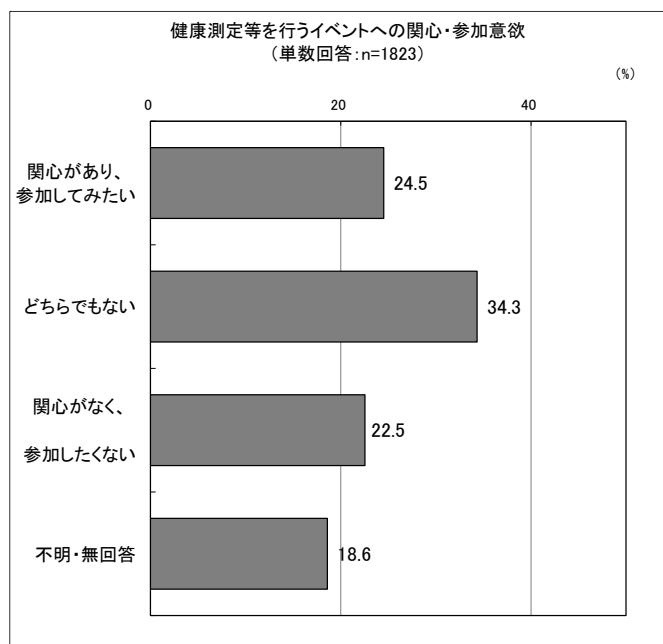
(5) 事業への関心や参加意欲

(5) ① 健康測定等を行うイベントへの関心・参加意欲

「どちらでもない」が 34.3%と最も多く、次いで「関心があり、参加してみたい」が 24.5%、「関心がなく、参加したくない」が 22.5%となっています。

性別でみると、男女ともに「どちらでもない」が最も多く、「女性」では「関心があり、参加してみたい」が「男性」より多くなっています。

年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「関心があり、参加してみたい」が少なくなっています。

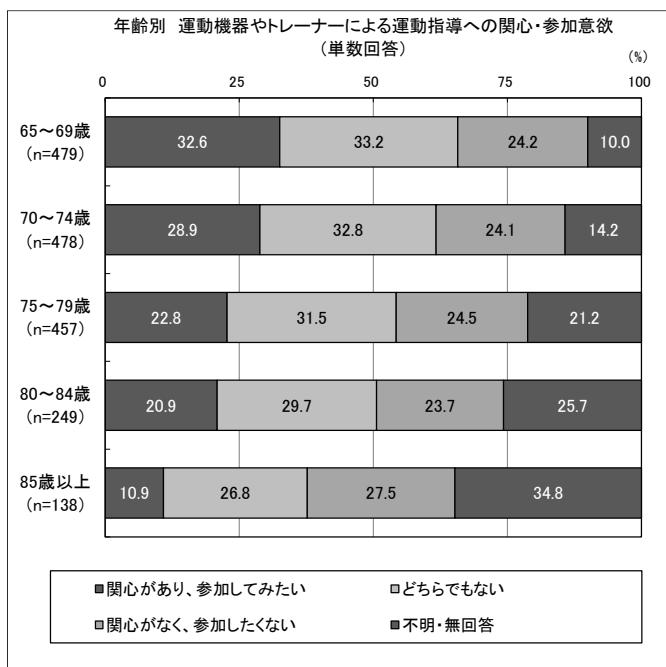
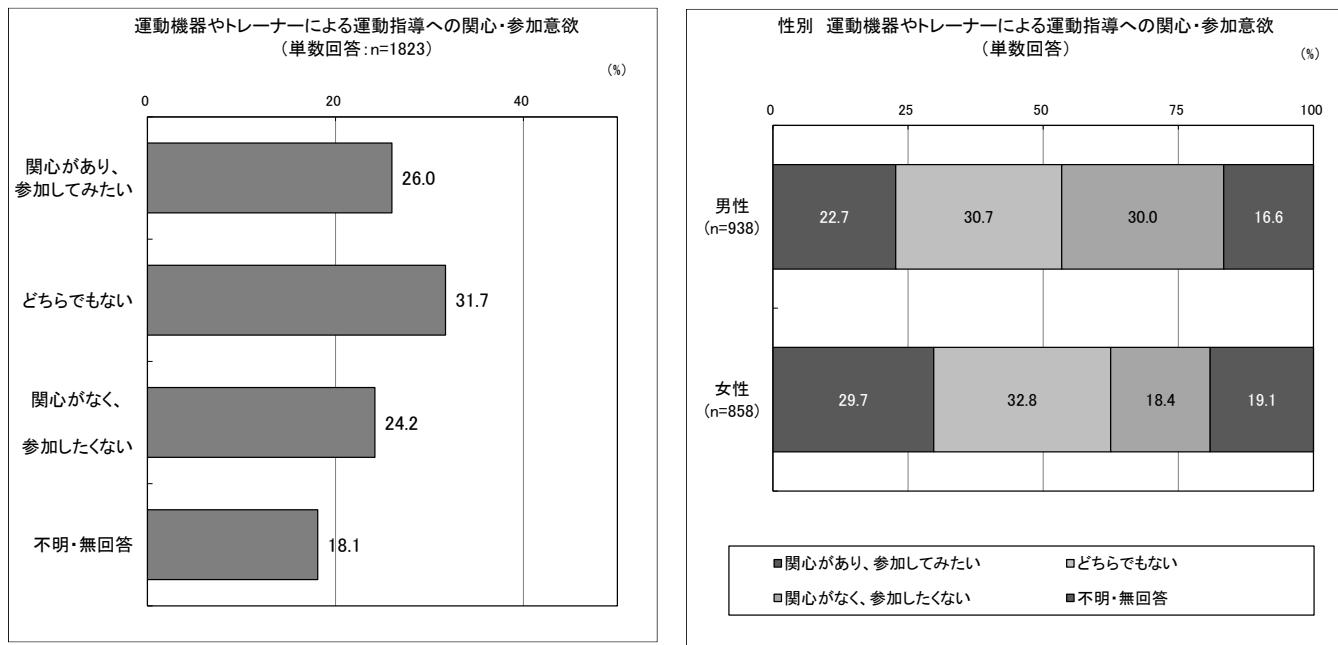


(5) ② 運動機器やトレーナーによる運動指導への関心・参加意欲

「どちらでもない」が 31.7%と最も多く、次いで「関心があり、参加してみたい」が 26.0%、「関心がなく、参加したくない」が 24.2%となっています。

性別でみると、男女ともに「どちらでもない」が最も多く、「女性」では「関心があり、参加してみたい」が「男性」より多くなっています。

年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「関心があり、参加してみたい」が少なくなっています。

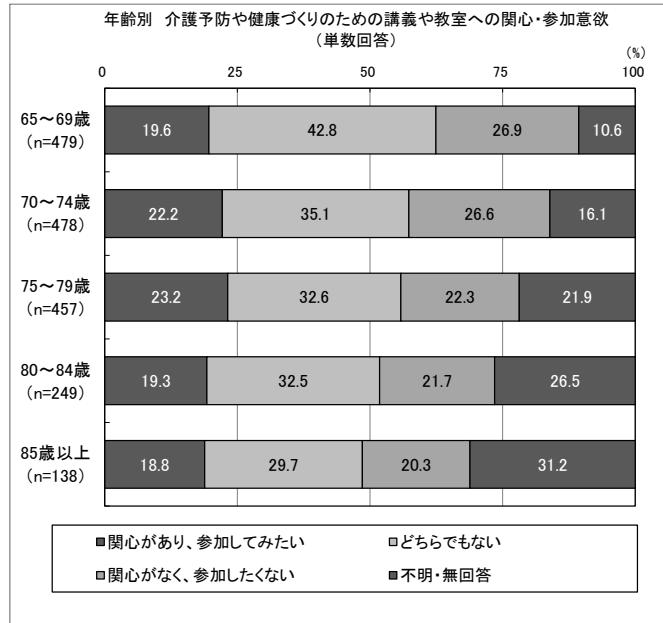
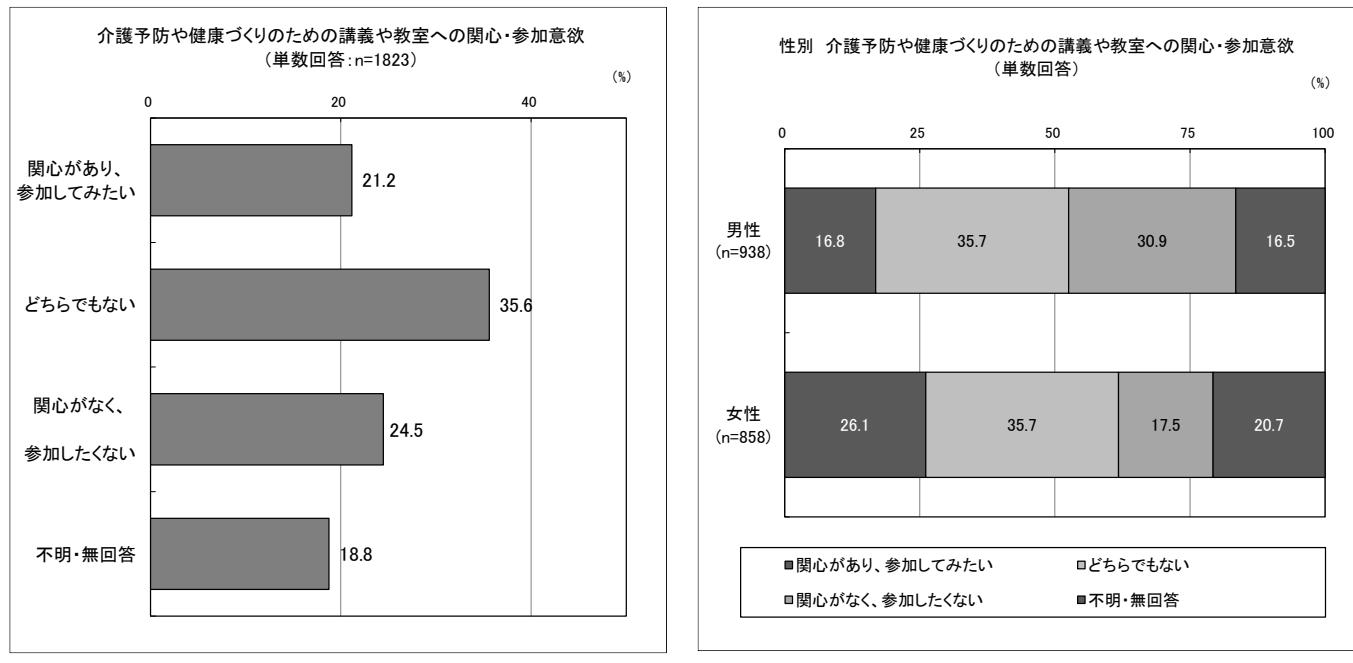


(5) ③ 介護予防や健康づくりのための講義や教室への関心・参加意欲

「どちらでもない」が 35.6 と最も多く、次いで「関心がなく、参加したくない」が 24.5%、「関心があり、参加してみたい」が 21.2%、となっています。

性別でみると、男女ともに「どちらでもない」が最も多く、「女性」では「関心があり、参加してみたい」が「男性」より多くなっています。

年齢別にみると、「75~79 歳」で「関心があり、参加してみたい」が他の年齢層より多くなっています。

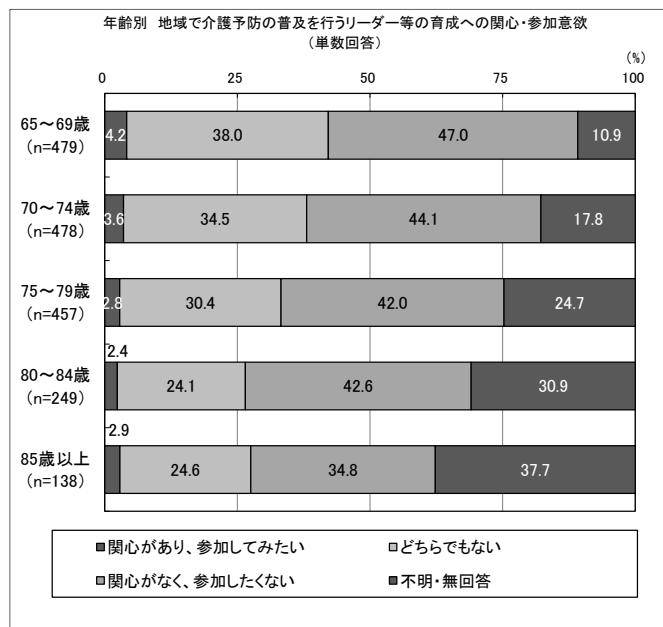
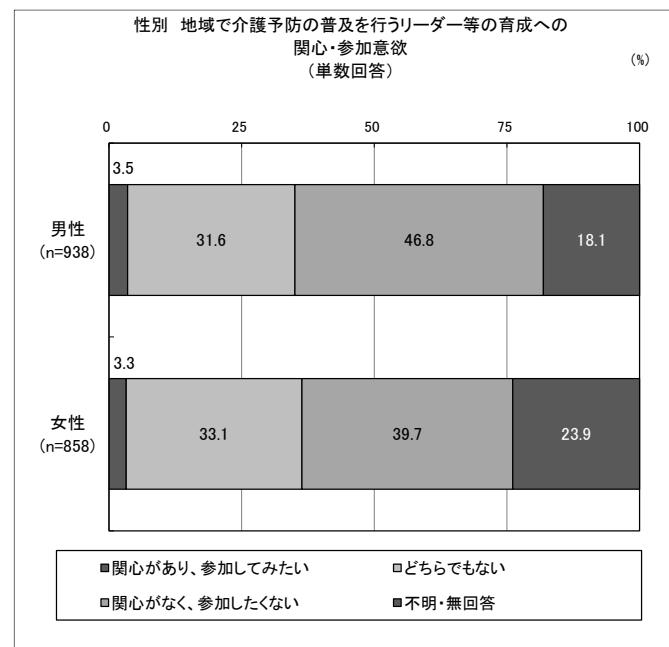
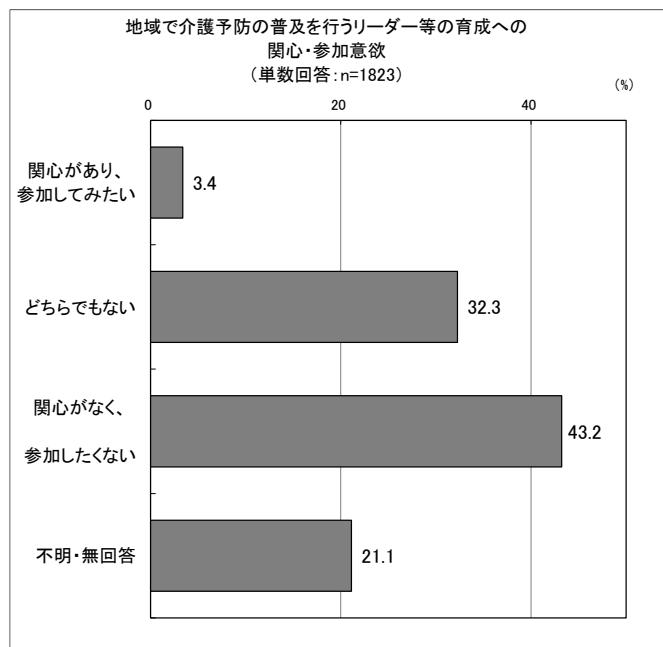


(5) ④ 地域で介護予防の普及を行うリーダー等の育成への関心・参加意欲

「関心がなく、参加したくない」が43.2%と最も多く、次いで「どちらでもない」が32.3%、「関心があり、参加してみたい」が3.4%となっています。

性別でみると、「男性」では「関心がなく、参加したくない」が「女性」より多くなっています。

年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「関心がなく、参加したくない」「どちらでもない」が少なくなっています。

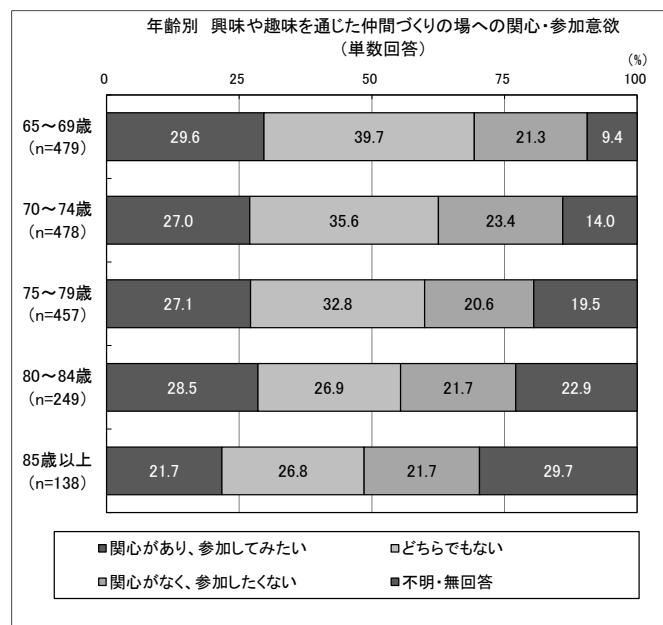
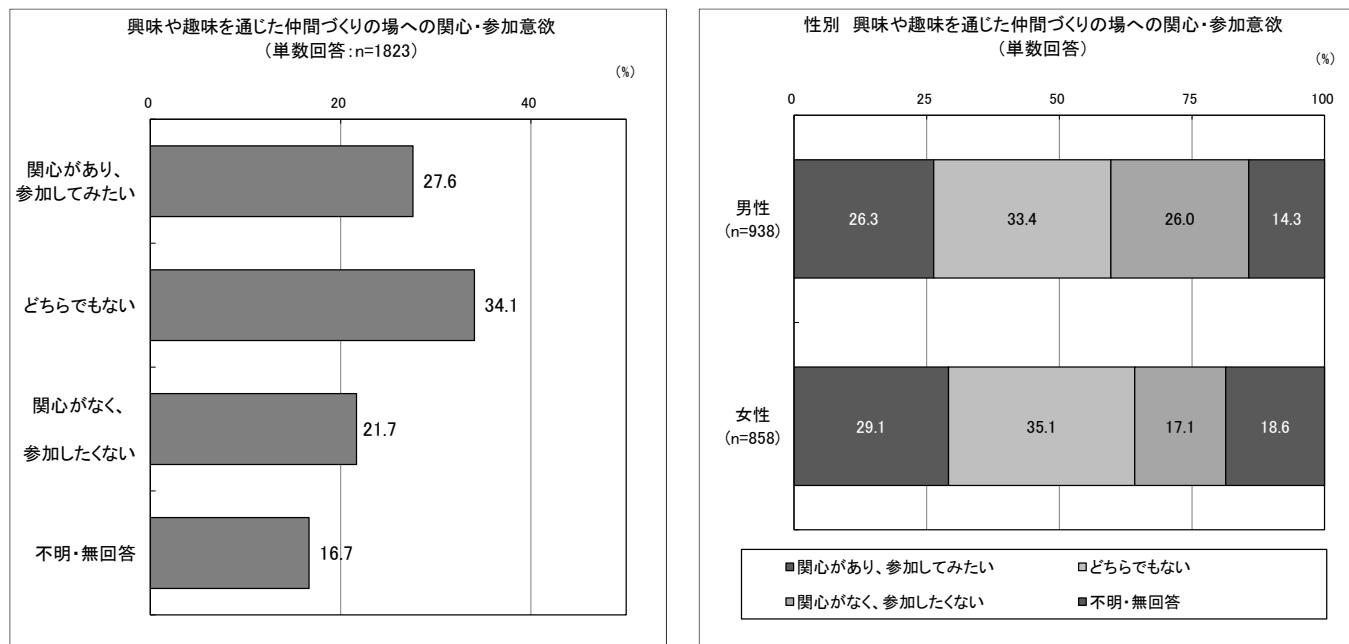


(5) ⑤ 興味や趣味を通じた仲間づくりの場への関心・参加意欲

「どちらでもない」が 34.1%と最も多く、次いで「関心があり、参加してみたい」が 27.6%、「関心がなく、参加したくない」が 21.7%となっています。

性別でみると、男女ともに「どちらでもない」が最も多く、「女性」では「関心があり、参加してみたい」が「男性」より多くなっています。

年齢別にみると、「65～69 歳」と「80～84 歳」で「関心があり、参加してみたい」が多くなっています。

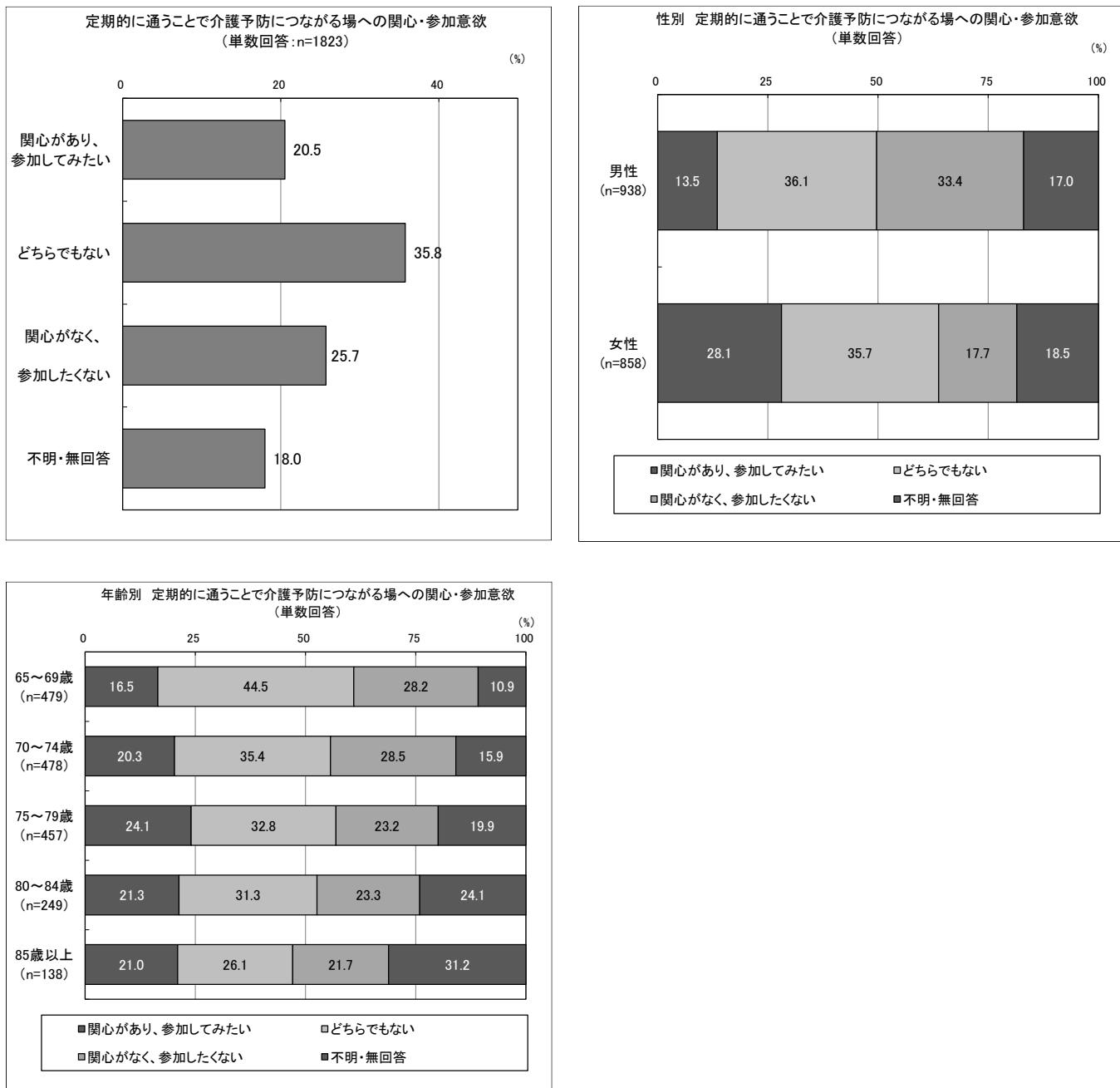


(5) ⑥ 定期的に通うことで介護予防につながる場への関心・参加意欲

「どちらでもない」が 35.8%と最も多く、次いで「関心がなく、参加したくない」が 25.7%、「関心があり、参加してみたい」が 20.5%、となっています。

性別でみると、男女ともに「どちらでもない」が最も多く、「女性」では「関心があり、参加してみたい」が「男性」より多くなっています。

年齢別にみると、「75～79歳」で「関心があり、参加してみたい」が他の年齢層と比べて多くなっています。



6. たすけあいについて

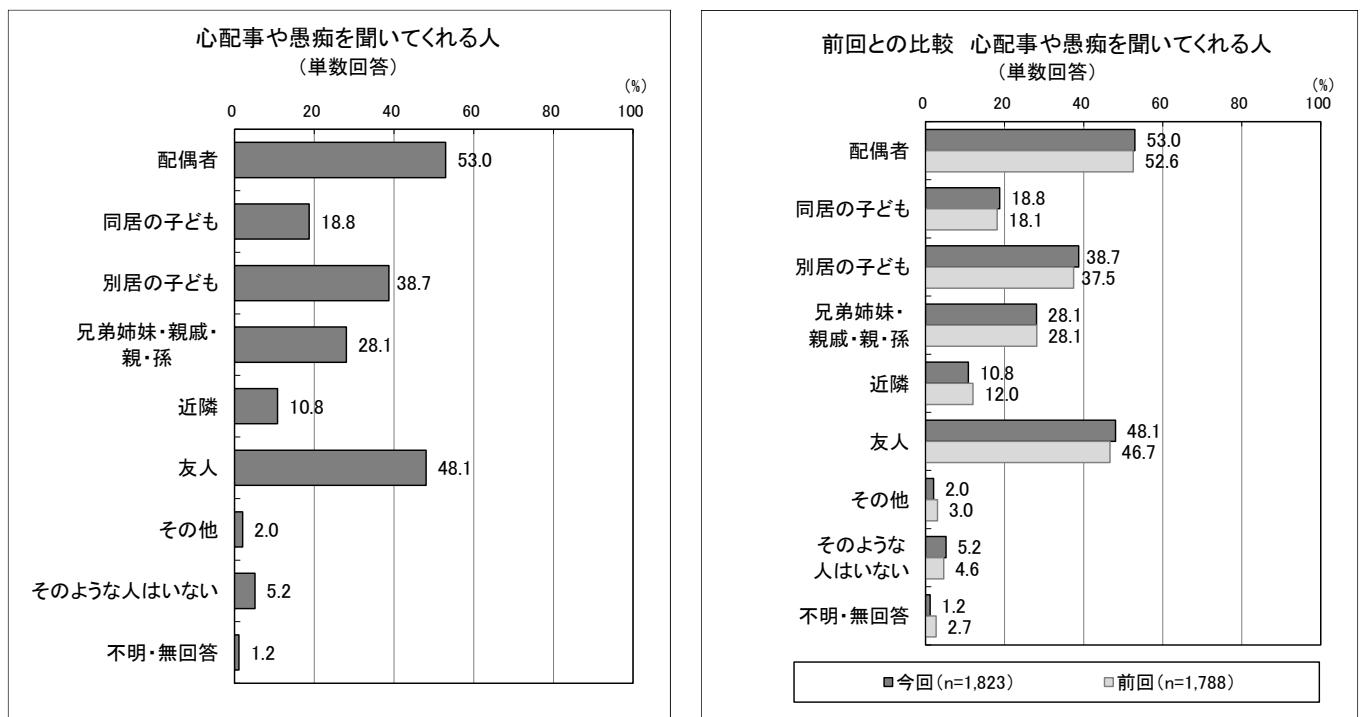
(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

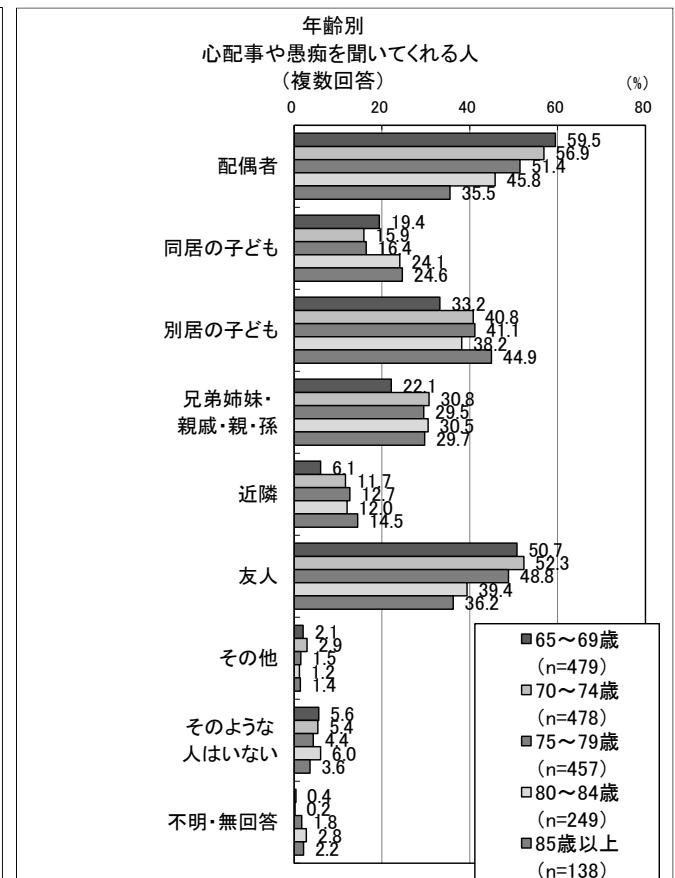
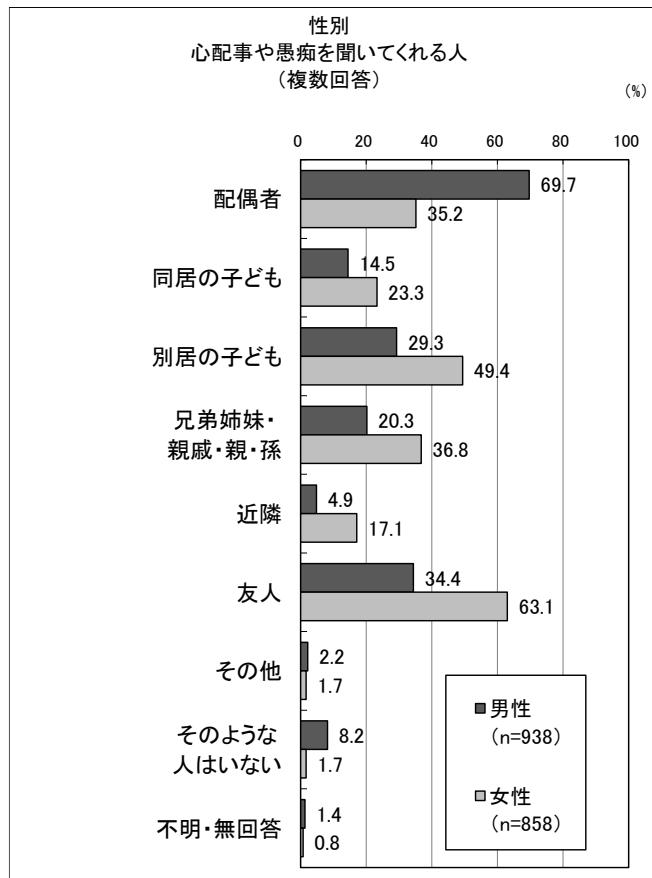
「配偶者」が53.0%と最も多く、次いで「友人」が48.1%、「別居の子ども」が38.7%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が28.1%、「同居の子ども」が18.8%、「近隣」が10.8%、「そのような人はいない」が5.2%などとなっています。

前回の調査と比較すると、「友人」は1.4ポイント、「別居の子ども」は1.2ポイント増加しています。なお、前回の調査と今回の調査からの有意な差はみられません。

性別についてみると、「男性」では「配偶者」が、「女性」では「友人」が最も多くなっています。また、「女性」では「友人」「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」などが「男性」より多く、「配偶者」が少なくなっています。

年齢別についてみると、「65～69歳」「70～74歳」「75～79歳」「80～84歳」では「配偶者」が最も多く、「85歳以上」では「別居の子ども」が最も多くなっています。





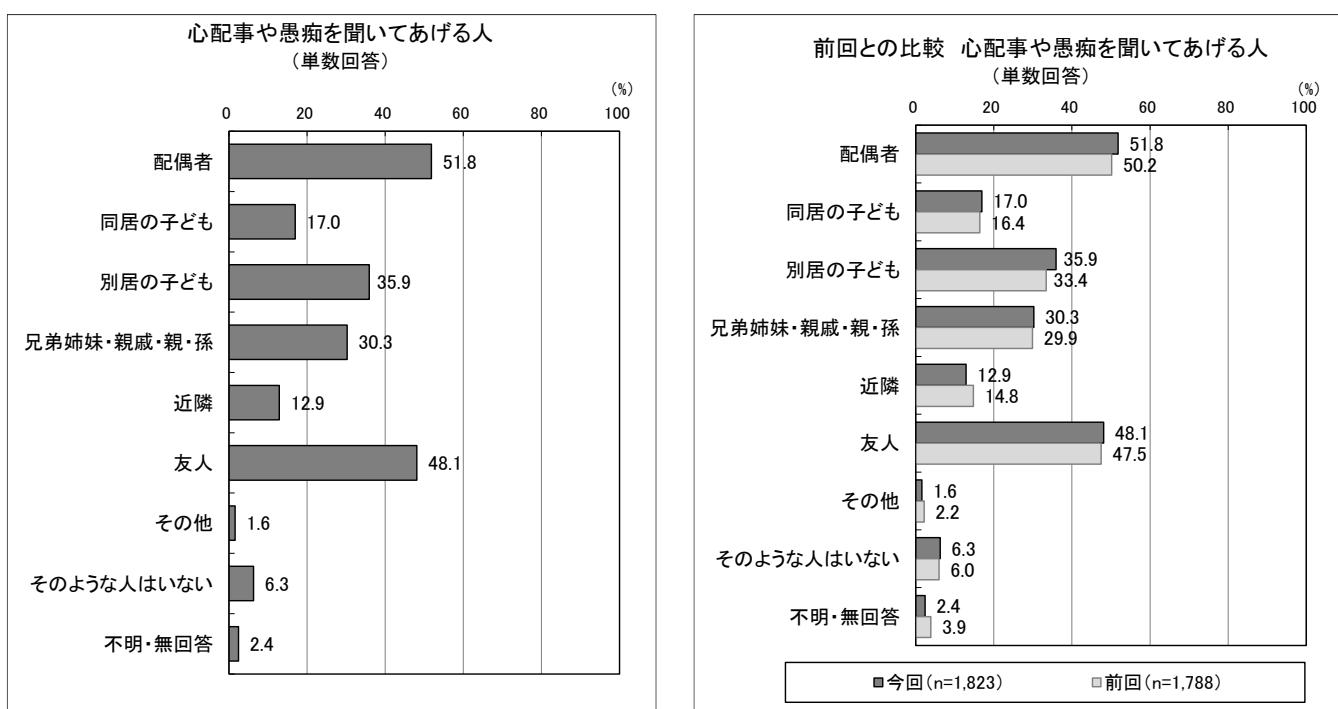
(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人

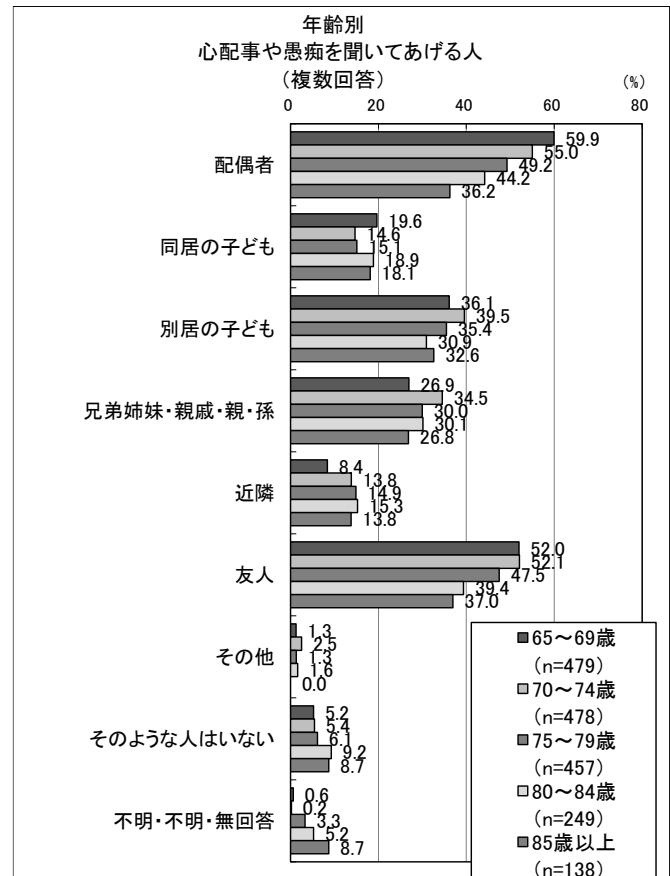
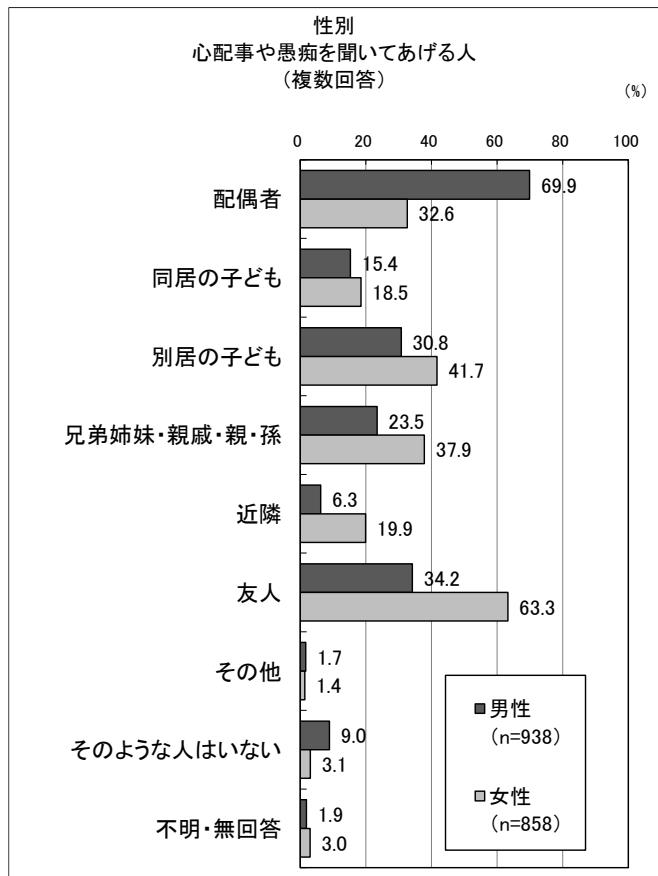
「配偶者」が 51.8% と最も多く、次いで「友人」が 48.1%、「別居の子ども」が 35.9%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 30.3%、「同居の子ども」が 17.0%、「近隣」が 12.9%、「そのような人はいない」が 6.3% などとなっています。

前回の調査と比較すると、「別居の子ども」は 2.5 ポイント、「配偶者」は 1.6 ポイント増加しています。なお、前回の調査と今回の調査からの有意な差はみられません。

性別についてみると、「男性」では「配偶者」が最も多く、「女性」では「友人」が最も多くなっています。また、「女性」では「友人」「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「近隣」「同居の子ども」が「男性」より多く、「配偶者」が少なくなっています。

年齢別についてみると、「65～69 歳」「70～74 歳」「75～79 歳」「80～84 歳」では「配偶者」が最も多く、「85 歳以上」では「友人」が最も多くなっています。





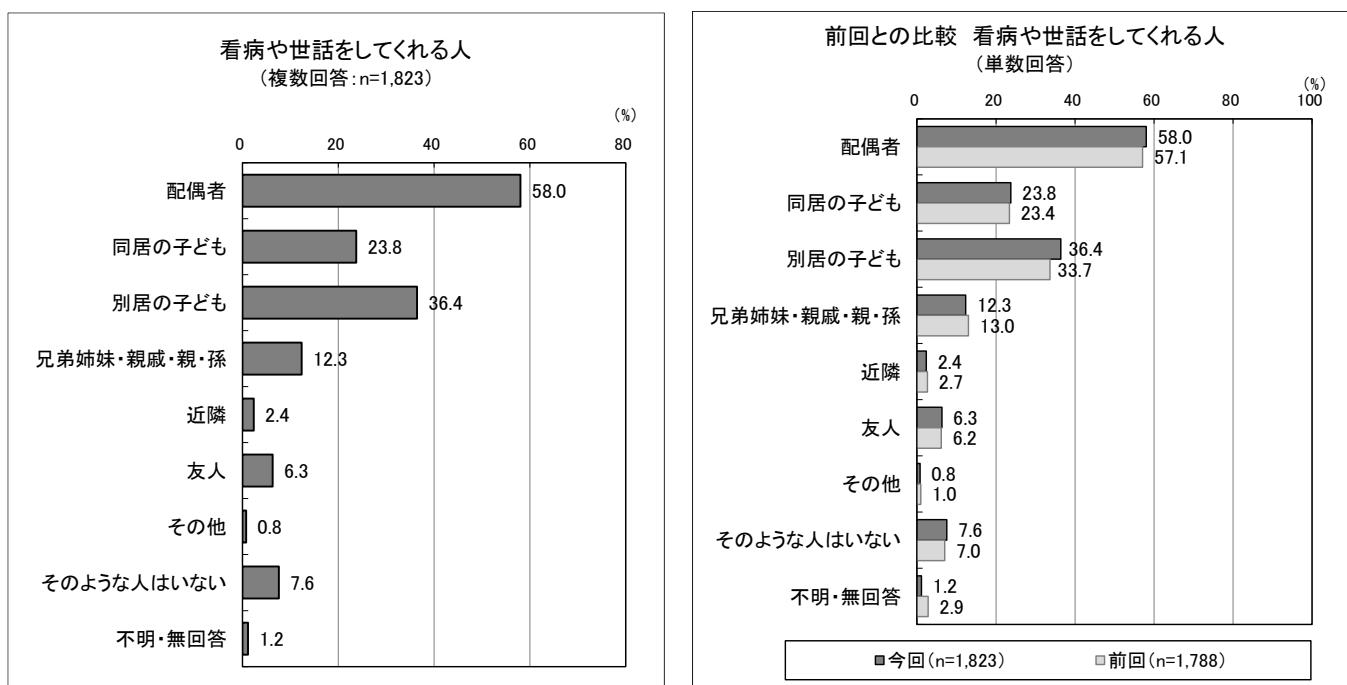
(3) 看病や世話をしてくれる人

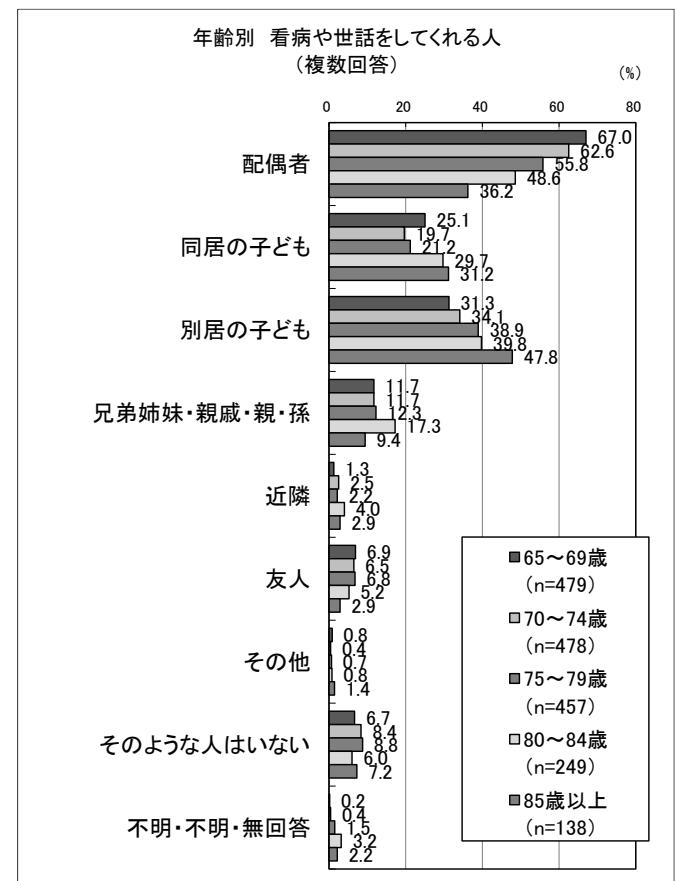
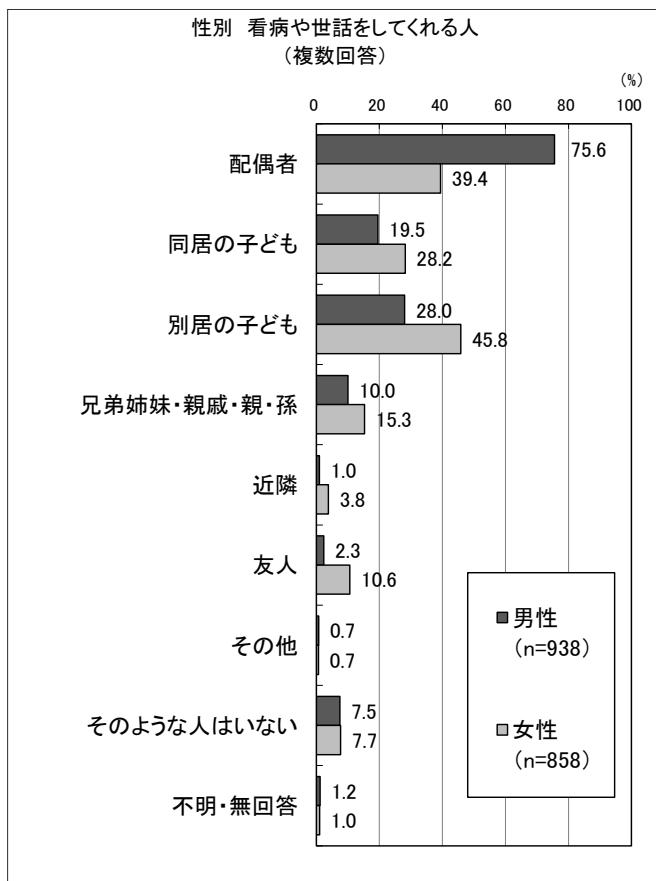
「配偶者」が 58.0% と最も多く、次いで「別居の子ども」が 36.4%、「同居の子ども」が 23.8%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 12.3%、「そのような人はいない」が 7.6%、「友人」が 6.3%、「近隣」が 2.4% などとなっています。

前回の調査と比較すると、「別居の子ども」が 2.7 ポイント増加しています。なお、前回の調査と今回の調査からの有意な差はみられません。

性別についてみると、「男性」では「配偶者」が最も多く、「女性」では「別居の子ども」が最も多くなっています。また、「女性」では「別居の子ども」「同居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親」「友人」「近隣」が「男性」と比べて多く、「配偶者」が少なくなっています。

年齢別についてみると、「65~69 歳」「70~74 歳」「75~79 歳」「80~84 歳」では「配偶者」が最も多く、「85 歳以上」では「別居の子ども」が最も多くなっています。





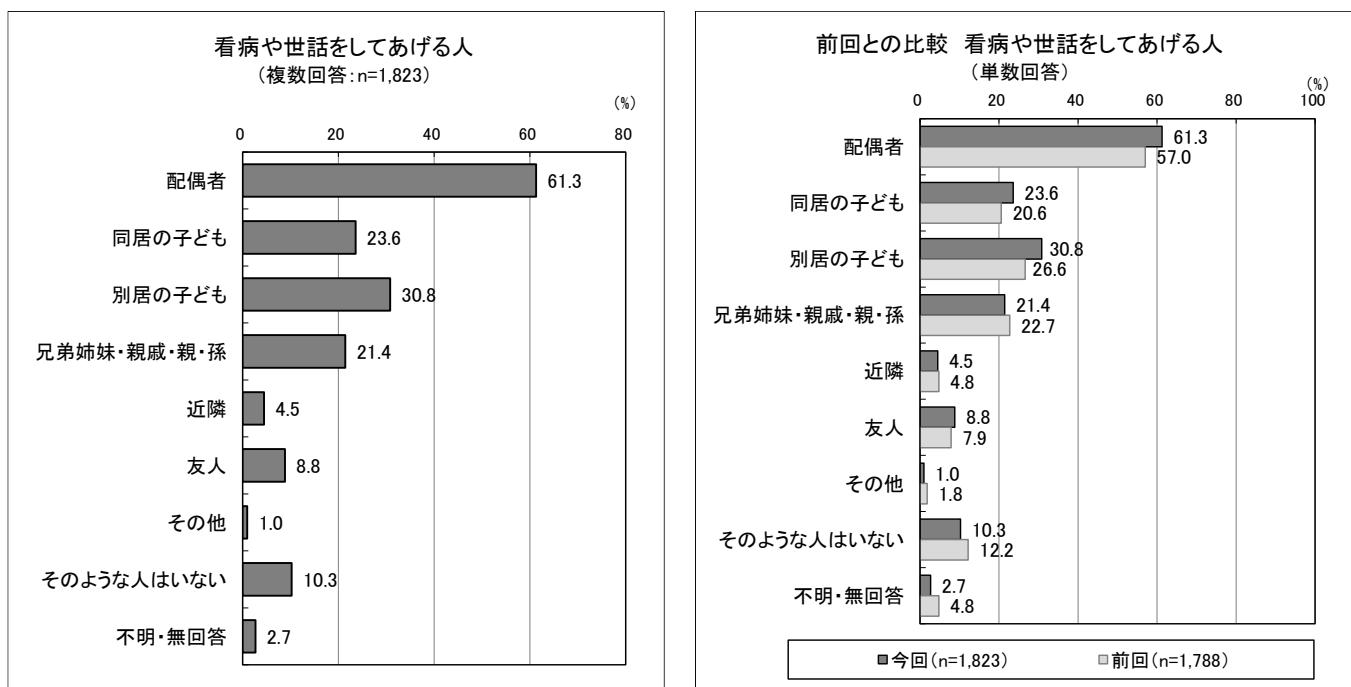
(4) 看病や世話をあげる人

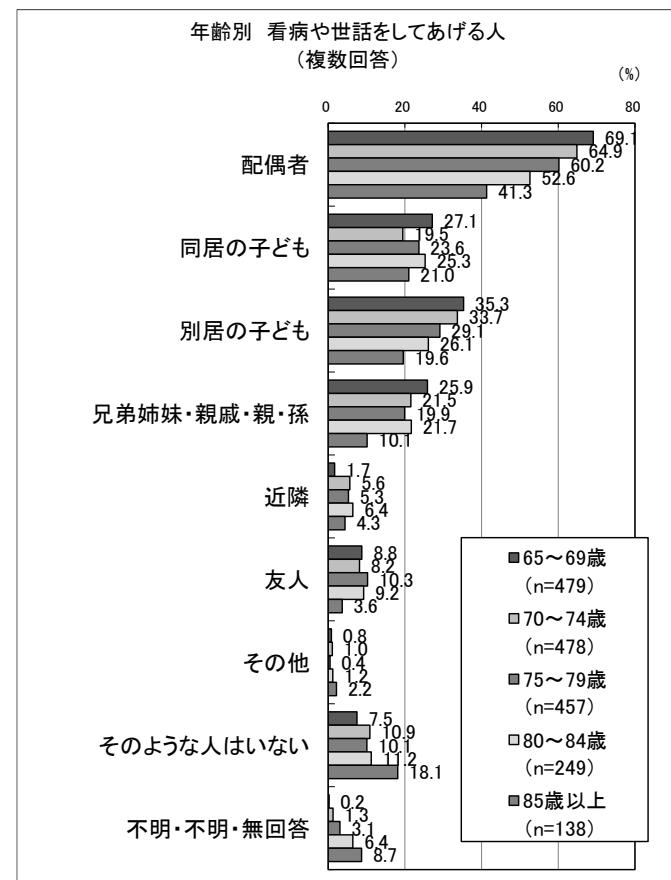
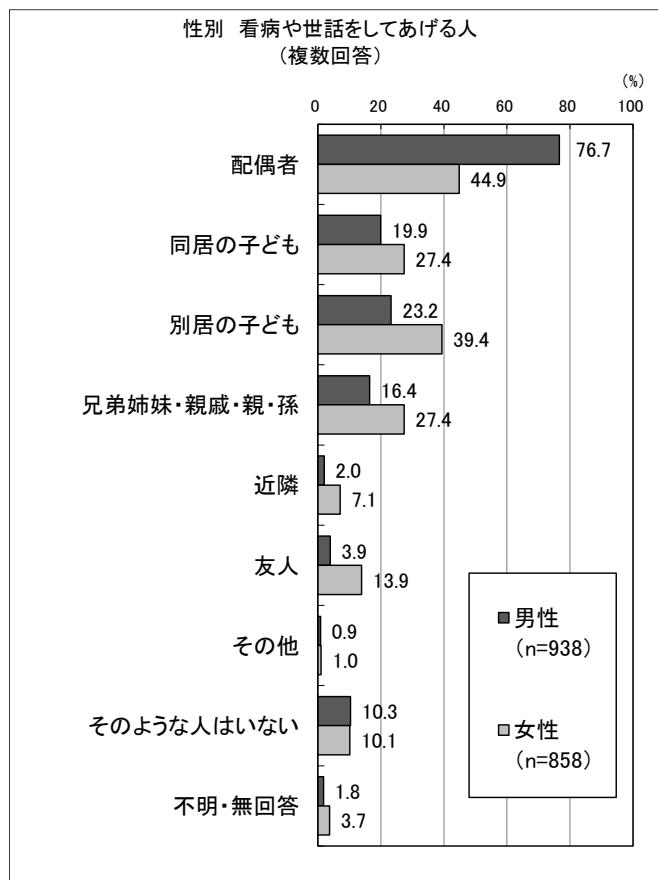
「配偶者」が 61.3%と最も多く、次いで「別居の子ども」が 30.8%、「同居の子ども」が 23.6%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 21.4%、「そのような人はいない」が 10.3%、「友人」が 8.8%、「近隣」が 4.5%などとなっています。

前回の調査と比較すると、「配偶者」が 4.3 ポイント、「別居の子ども」が 4.2 ポイント増加しています。

性別についてみると、「男性」では「配偶者」が最も多く、「女性」では「別居の子ども」が最も多くなっています。また、「女性」では「同居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親」「友人」「近隣」が「男性」と比べて多く、「配偶者」が少なくなっています。

年齢別についてみると、いずれの年齢層でも「配偶者」が最も多くなっています。



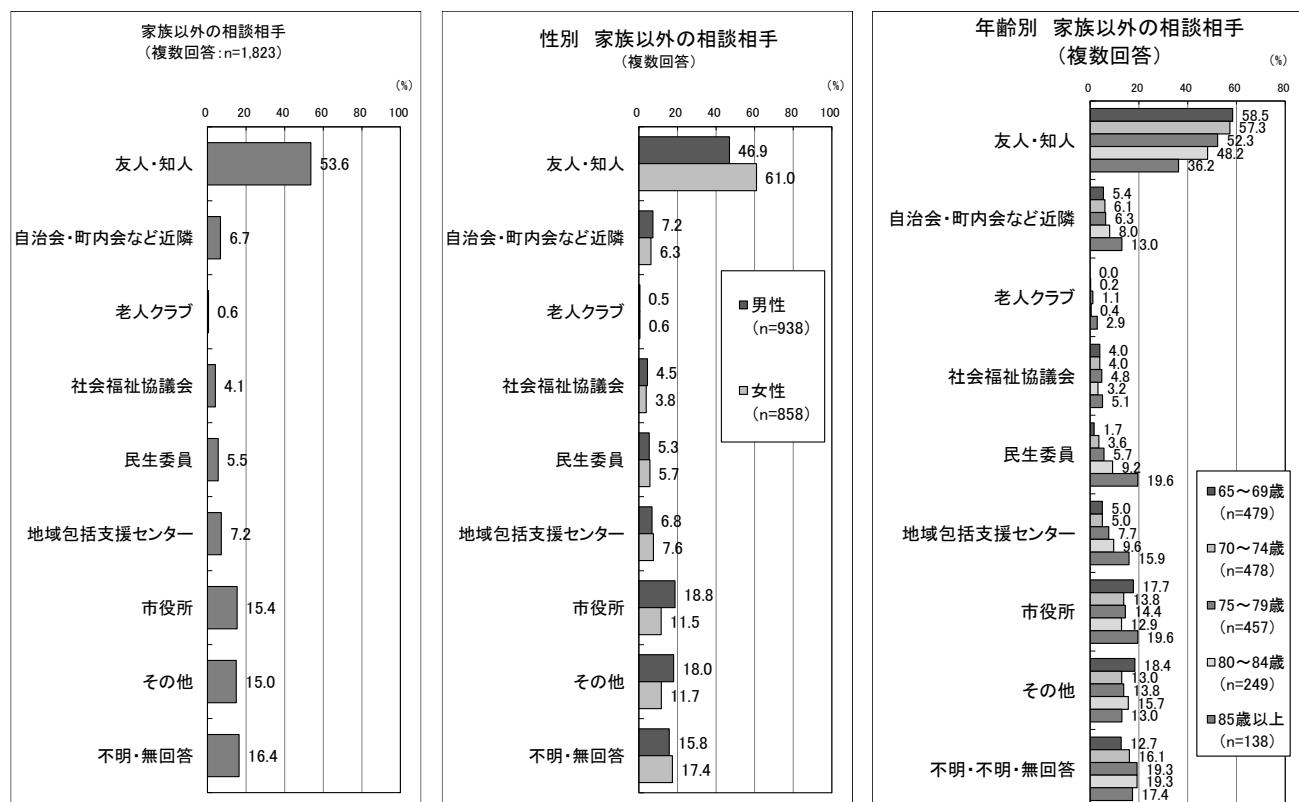


(5) 家族や友人・知人以外の相談相手

「友人・知人」が 53.6%と最も多く、次いで「市役所」が 15.4%、「地域包括支援センター」が 7.2%、「自治会・町内会など近隣」が 6.7%、「民生委員」が 5.5%、「社会福祉協議会」が 4.1%などとなっています。

性別についてみると、男女ともに「友人・知人」が最も多く、次いで「市役所」となっています。また、「女性」では「友人・知人」が「男性」と比べて多くなっています。

年齢別についてみると、いずれの年齢層でも「友人・知人」が最も多くなっています。また、「85 歳以上」では「民生委員」や「市役所」が次いで多くなっています。



この設問は、地域での助け合いの基盤として、近隣住民との関係性の深さについて把握するものです。

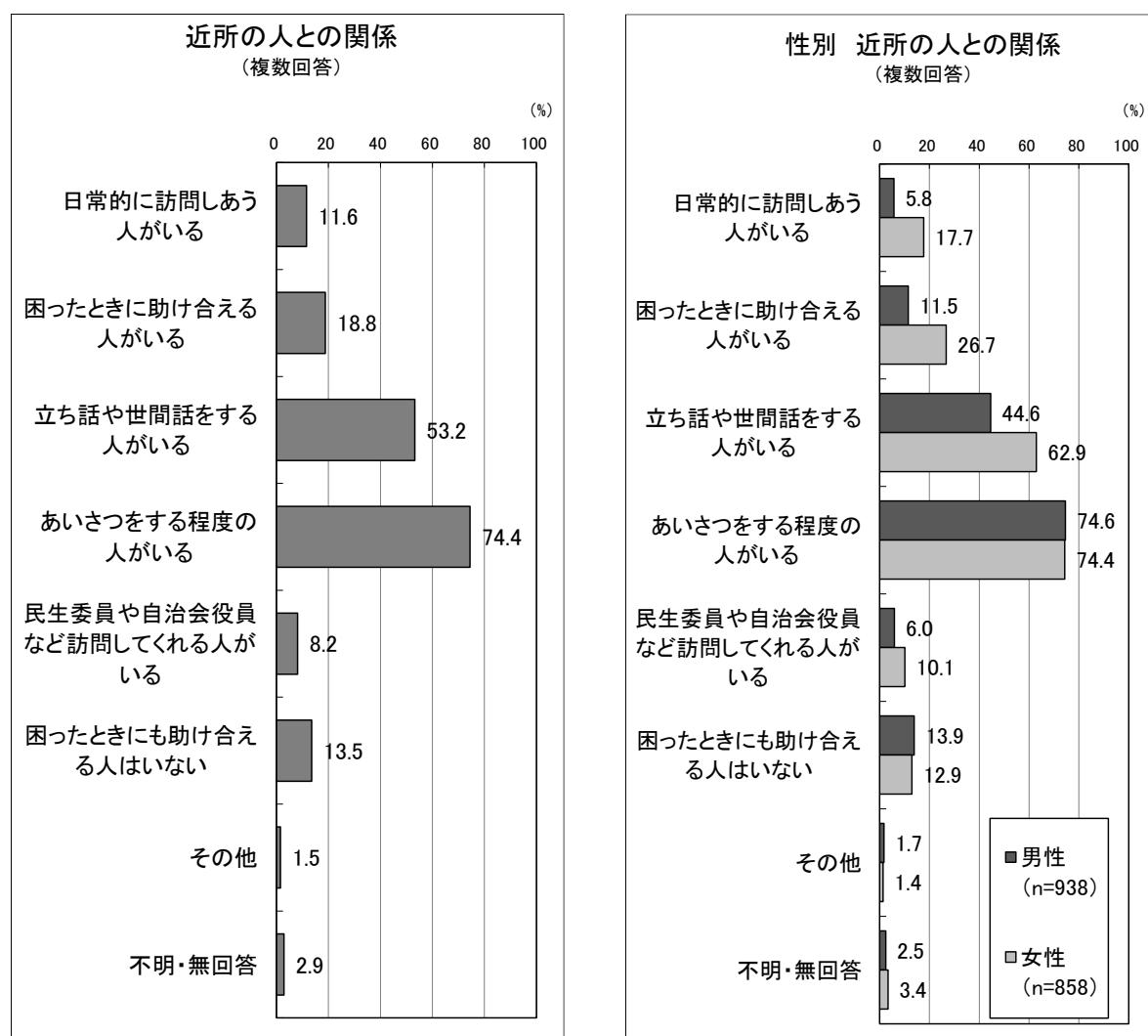
(6) 近所の人との関係

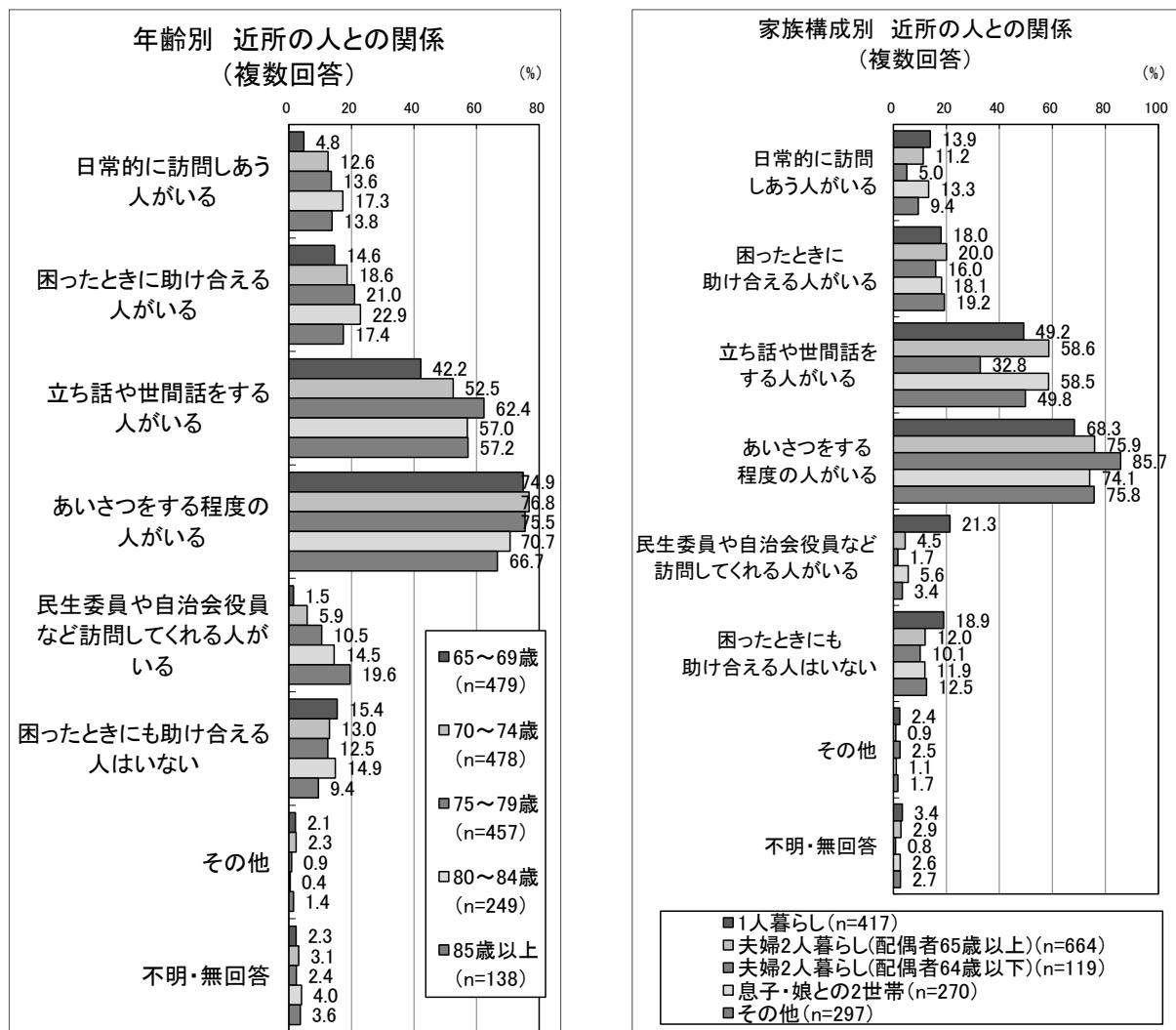
「あいさつをする程度の人がいる」が 74.4%と最も多く、次いで「立ち話や世間話をする人がいる」が 53.2%、「困ったときに助け合える人がいる」が 18.8%、「困ったときにも助け合える人はいない」が 13.5%、「日常的に訪問しあう人がいる」が 11.6%、「民生委員や自治会役員など訪問してくれる人がいる」が 8.2%などとなっています。

性別でみると、男女ともに「あいさつをする程度の人がいる」が最も多くなっています。また、「女性」では、「立ち話や世間話をする人がいる」「困ったときに助け合える人がいる」「日常的に訪問しあう人がいる」が「男性」よりも多くなっています。

年齢別についてみると、いずれの年齢層でも「あいさつをする程度の人がいる」が最も多くなっています。また、「困ったときに助け合える人がいる」では、「80～84歳」が最も多くなっています。

家族構成別にみると、「あいさつをする程度の人がいる」が最も多くなっています。また、「1人暮らし」では、「困ったときにも助け合える人はいない」が最も多くなっています。





7. 健康について

この設問は、主観的幸福感を問う設問です。要介護状態になる前の高齢者の主観的幸福感を把握することで、地域の健康度のアウトカム指標として活用することが可能になります。

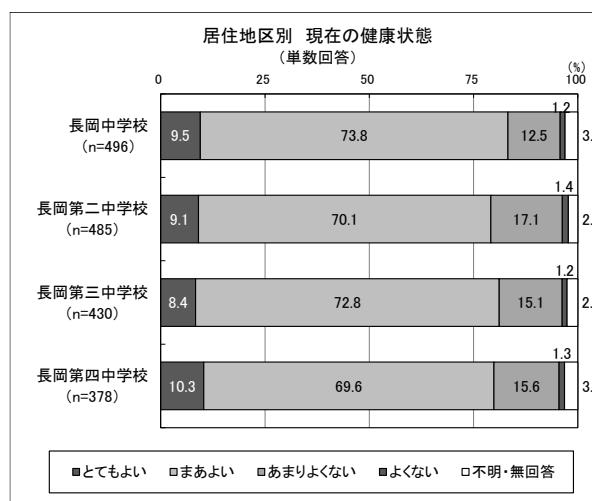
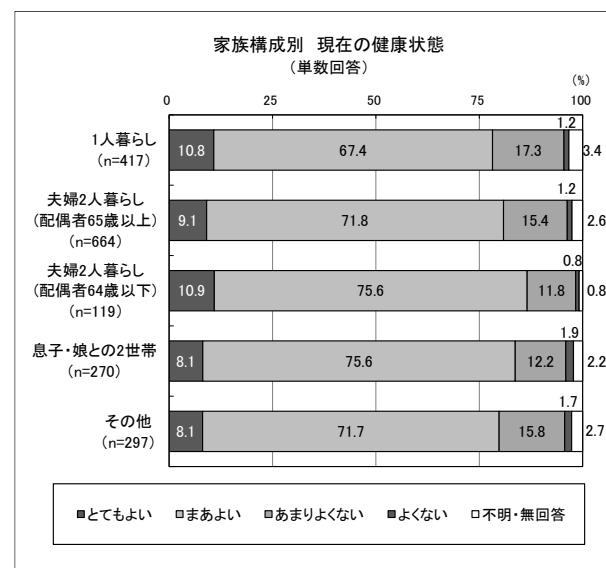
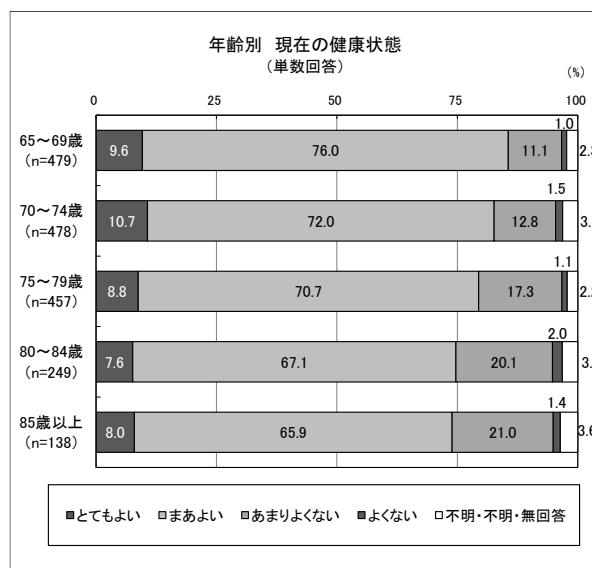
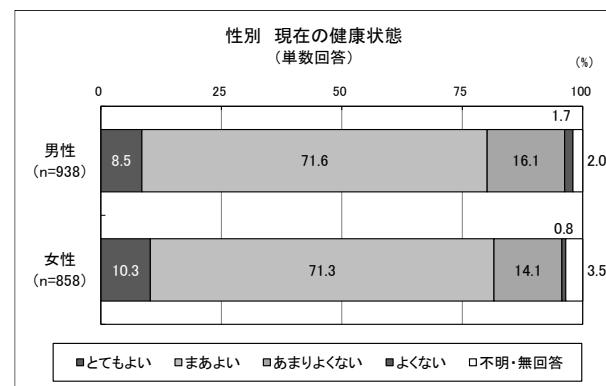
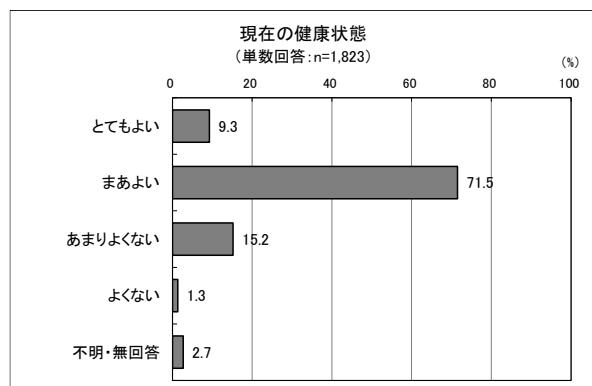
(1) 現在の健康状態について

「まあよい」が71.5%と最も多く、次いで「あまりよくない」が15.2%、「とてもよい」が9.3%、「よくない」が1.3%となっています。

性別でみると、いずれも「まあよい」が最も多くなっています。

年齢別でみると、年齢層が上がるほど「とてもよい」「まあよい」は少なくなっています。

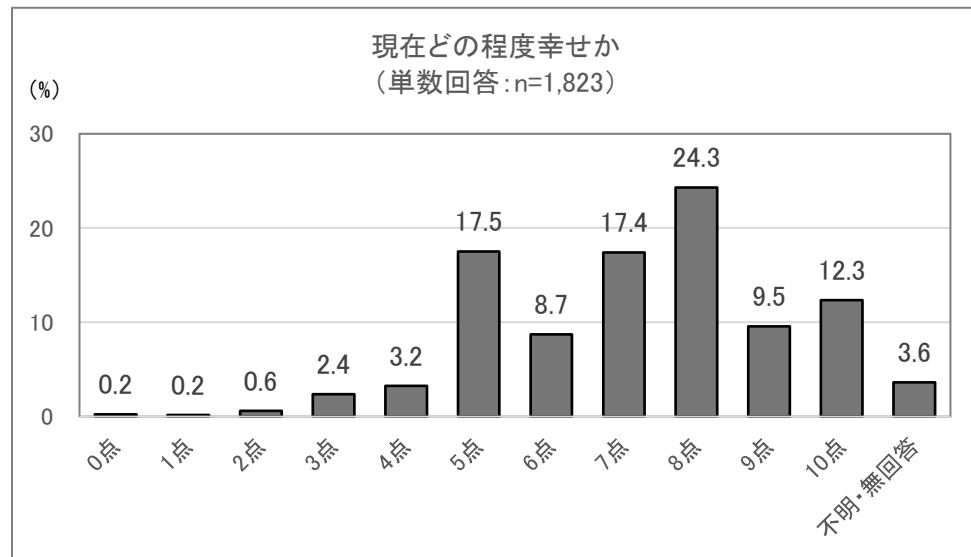
家族構成別にみると、「とてもよい」と「まあよい」を足した『よい』は「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」が最も多くなっています。



(2) 現在どの程度幸せか

「8点」が最も多く24.3%、次いで「5点」が17.5%、「7点」が17.4%などとなっています。全体の平均は8.33点となっています。

性別でみると、男女ともに「8点」が最も多く、次いで「男性」では「5点」が、「女性」では「7点」が多くなっています。

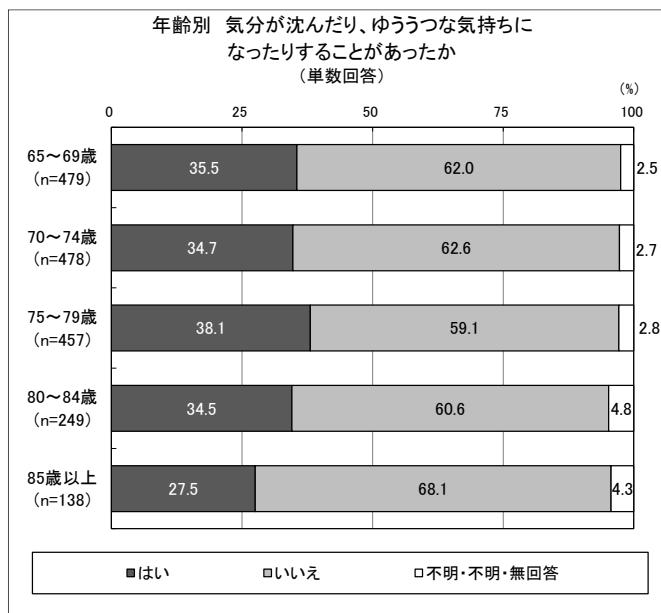
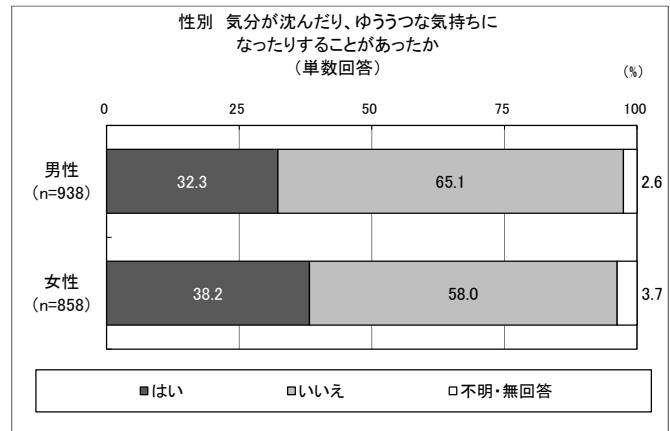
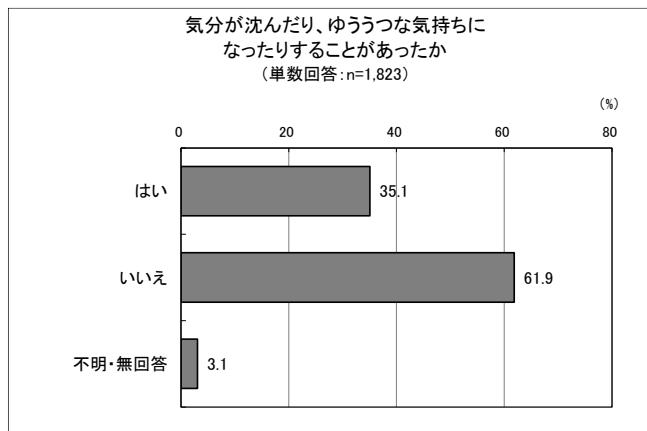


(3) 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか

「はい」が35.1%、「いいえ」が61.9%となっています。

性別についてみると、「女性」では「はい」が「男性」と比べて多くなっています。

年齢別にみると、「75～79歳」で「はい」が最も多くなっています。

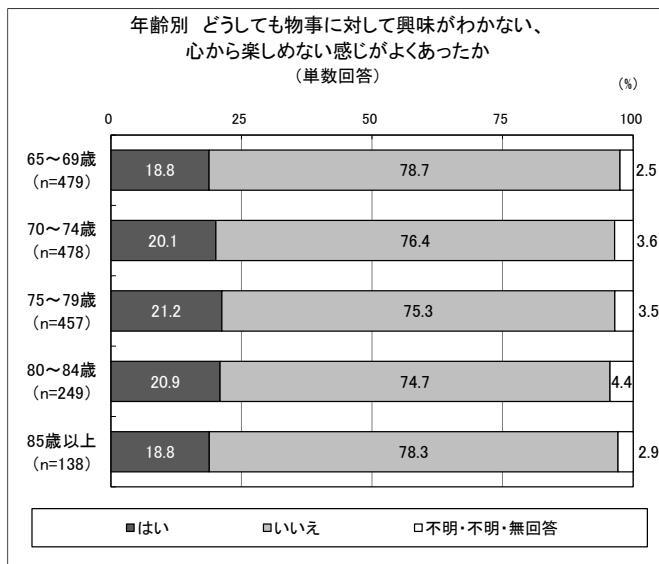
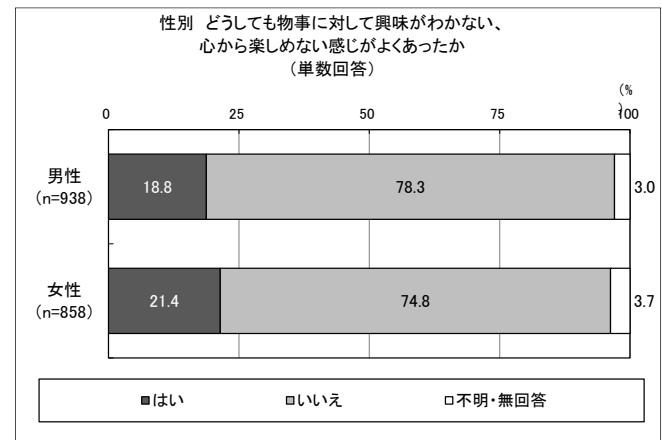
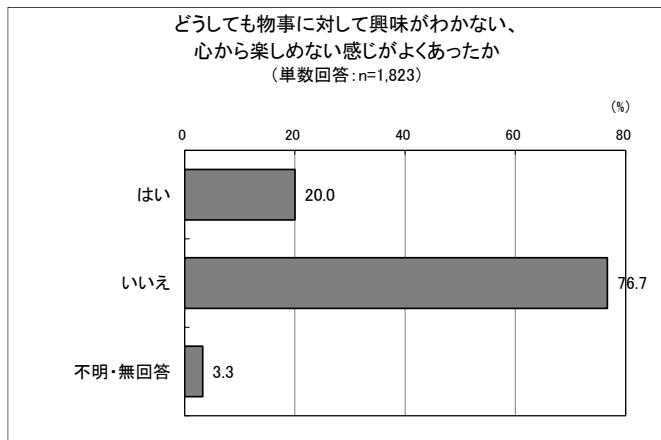


(4) どうしても物事に対して興味がわかない、心から楽しめない感じがあったか

「はい」が 20.0%、「いいえ」が 76.7%となっています。

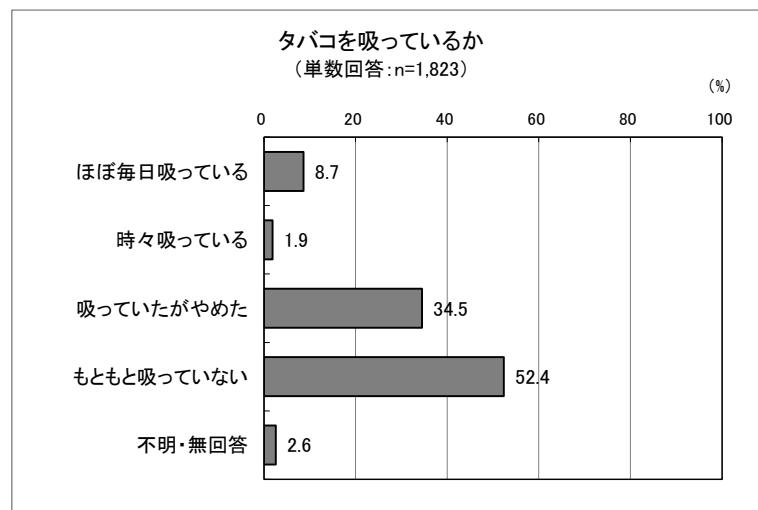
性別についてみると、男女ともに「いいえ」が多くなっています。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「いいえ」が多くなっています。



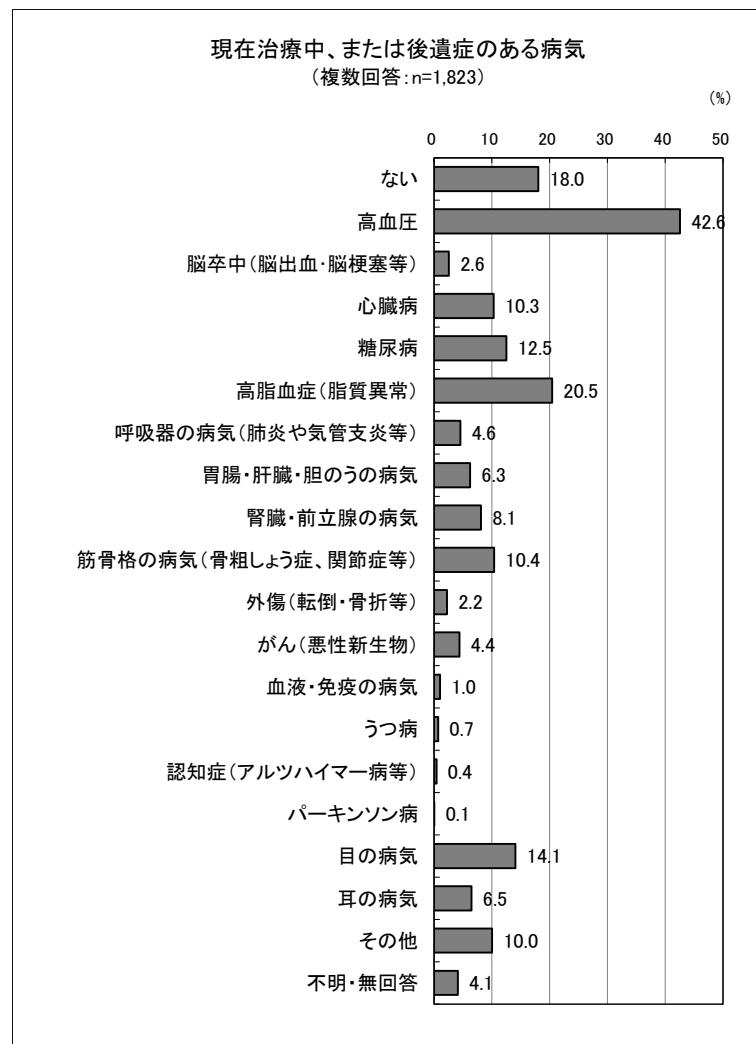
(5) 嘸煙状況

「もともと吸っていない」が 52.4%と最も多く、次いで「吸っていたがやめた」が 34.5%、「ほぼ毎日吸っている」が 8.7%、「時々吸っている」が 1.9%となっています。



(6) 現在治療中、または後遺症のある病気について

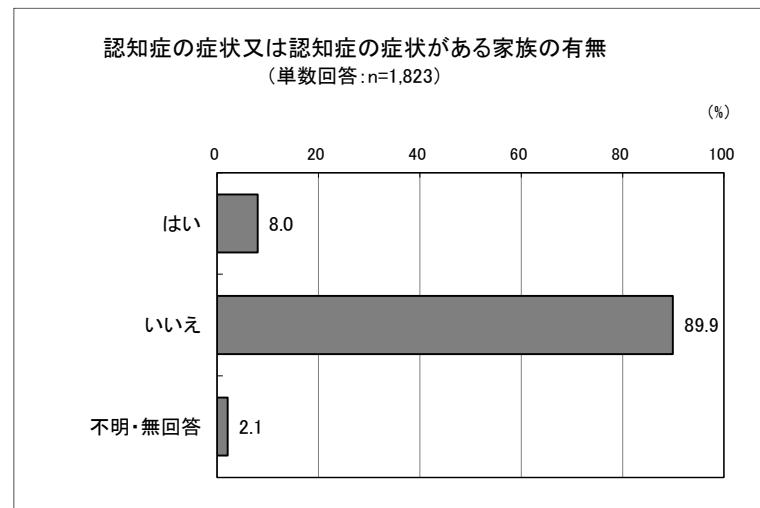
「高血圧」が42.6%と最も多く、次いで「高脂血症（脂質異常）」が20.5%、「目の病気」が14.1%、「糖尿病」が12.5%、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が10.4%、「心臓病」が10.3%などとなっています。また、「ない」が18.0%となっています。



8. 認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 認知症の症状又は認知症の症状がある家族の有無

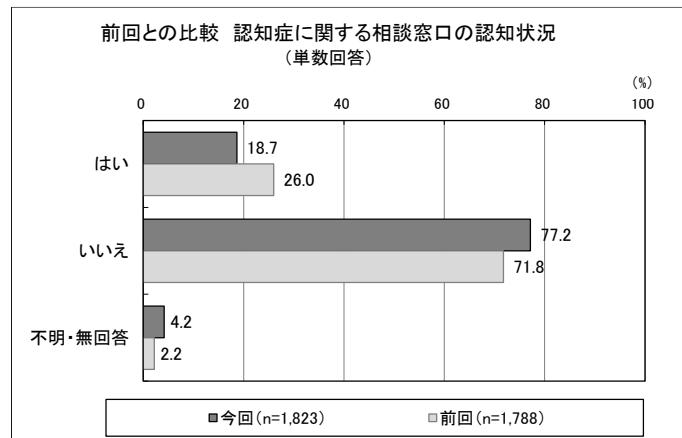
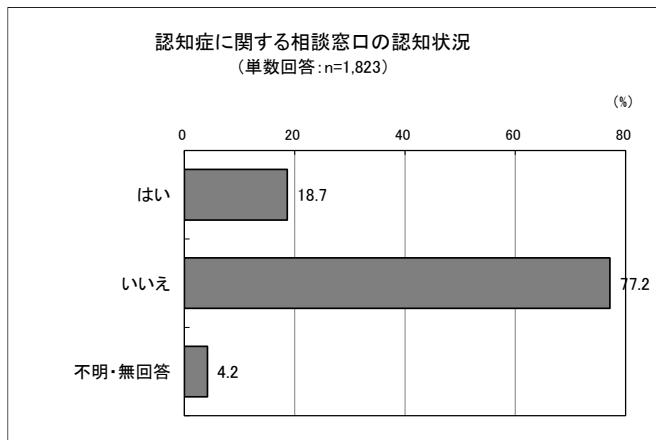
「はい」が8.0%、「いいえ」が89.9%となっています。



(2) 認知症に関する相談窓口の認知状況

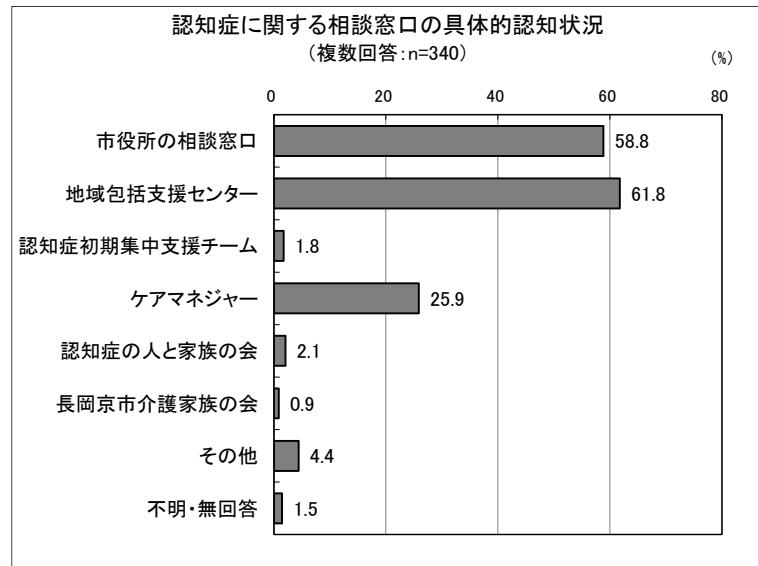
「はい」が18.7%、「いいえ」が77.2%となっています。

前回の調査と比較すると、「はい」が7.3ポイント減少しています。



(3) 認知症に関する相談窓口の具体的認知状況【前問（2）で「はい」と回答した人】

認知症に関する相談窓口を知っている人について、認知している相談窓口は「地域包括支援センター」が最も多く 61.8%、次いで「市役所の相談窓口」が 58.8%、「ケアマネジャー」が 25.9%、「認知症の人と家族の会」が 2.1%、「認知症初期集中支援チーム」が 1.8%、「長岡京市介護家族の会」が 0.9%などとなっています。



※相談窓口の情報については次の頁に記載します。

1 地域包括支援センター：各中学校校区に設置している高齢者の総合相談窓口

お住まいの中学校校区	担当の地域包括支援センター	電話番号
おおむね 長岡中学校区	東地域包括支援センター (総合交流センター・バンビオ2階)	075-963-5508
おおむね 長岡第二中学校区	北地域包括支援センター (特別養護老人ホーム旭が丘ホーム内)	075-955-9007
おおむね 長岡第三中学校区	南地域包括支援センター (老人保健施設アゼリア内)	075-957-1119
おおむね 長岡第四中学校区	西地域包括支援センター (特別養護老人ホーム竹の里ホーム内)	075-323-7889

2 認知症初期集中支援チーム：認知症の方や疑いのある方、その家族の相談に対応する認知症の専門家たちによって構成されるチーム

住所：長岡市神足2丁目3-1 バンビオ2階 電話：075-963-5508

3 ケアマネジャー：介護を必要とする方が介護保険サービスを受けられるように、ケアプラン（サービス計画書）の作成やサービス事業者との調整を行う専門員

4 認知症の人と家族の会：全国47都道府県に支部があり、認知症の方やその家族への電話相談や集いの場の開催、認知症啓発などを行っている

京都府支部

住所：京都市上京区晴明町811-3 岡部ビル2F

電話：050-5358-6577

5 長岡市介護家族の会：介護家族と元介護者を中心に、介護の悩みや認知症の方への対応等困りごとの相談、認知症の啓発などを行っている

住所：長岡市神足2丁目3-1 バンビオ2階 電話：075-963-5508

9. ボランティア活動について

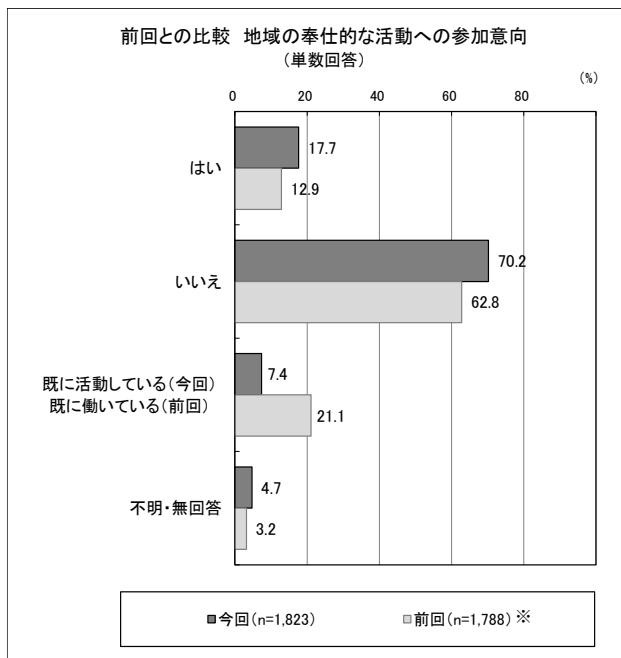
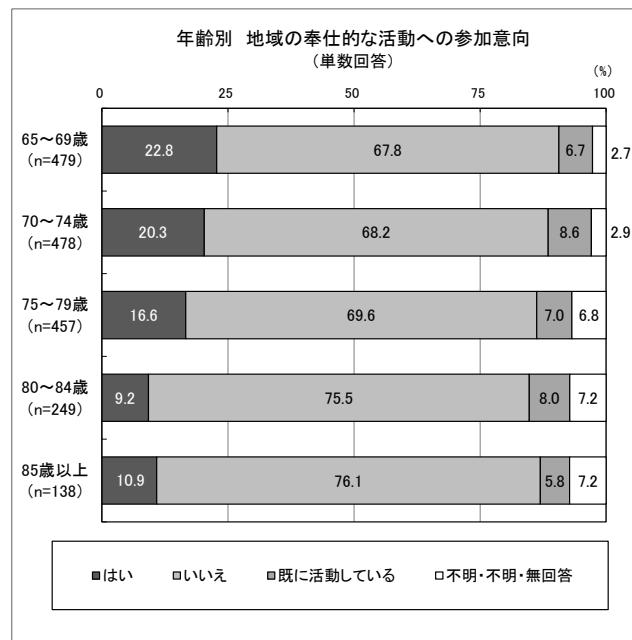
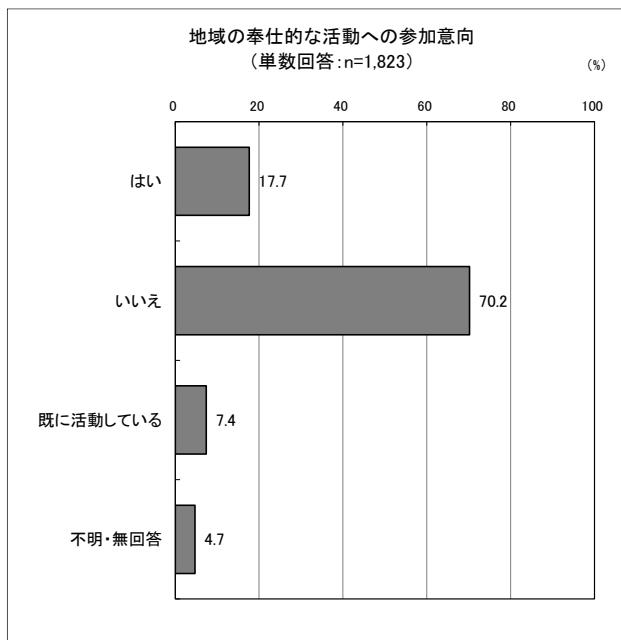
(1) (2) の設問は、高齢者の介護予防及び地域での助け合いのためにボランティア参加意欲と活動内容の把握を行うものです。

(1) 地域の奉仕的な活動への参加意向

「はい」が 17.7%、「いいえ」が 70.2%、「既に活動している」が 7.4%となっています。

年齢別についてみると、年齢層が高くなるほど「いいえ」が多くなっています。また、「65~69 歳」では「はい」が、「70~74 歳」では「既に活動している」が他の年齢層と比べて多くなっています。

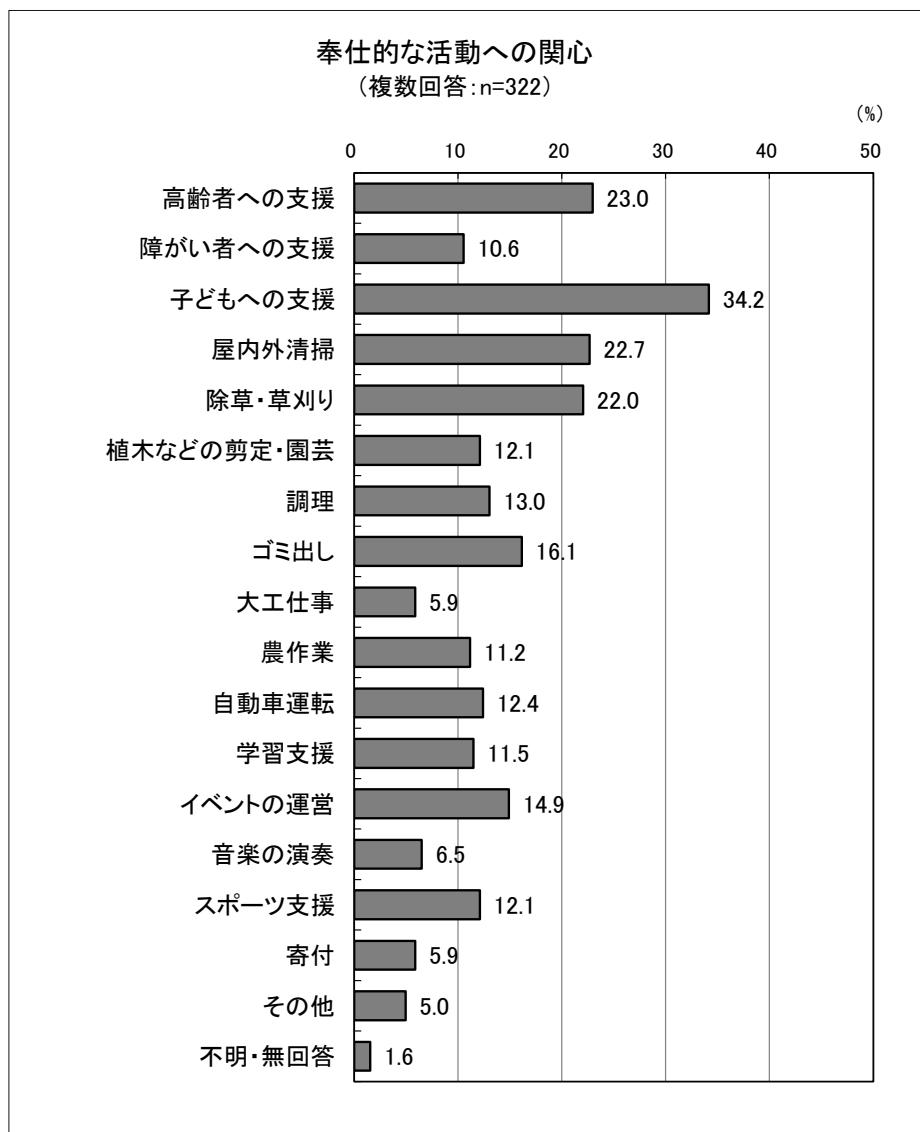
前回の調査と比較すると、「はい」が 4.8 ポイント増加しています。



※今回の調査では、「地域のために奉仕的活動に参加したいか」について、前回の調査では「新たな仕事又は過去の経験等が活かせる仕事をしてみたいと思うか」についての設問となっています。選択肢について「はい」「いいえ」は今回と前回で同様になりますが、前回の「既に働いている」は、今回では「既に活動している」となっています。

(2) 関心のある活動【前問（1）で「はい」と回答した人】

地域のための奉仕的な活動として関心のある仕事は「子どもへの支援」が 34.2%と最も多く、次いで「高齢者への支援」が 23.0%、「屋内外清掃」が 22.7%、「除草・草刈り」が 22.0%、「ゴミ出し」が 16.1%、「イベントの運営」が 14.9%、「調理」が 13.0%などとなっています。



【その他の内容】

延べ 27 件の意見があり、以下の項目で整理しました。

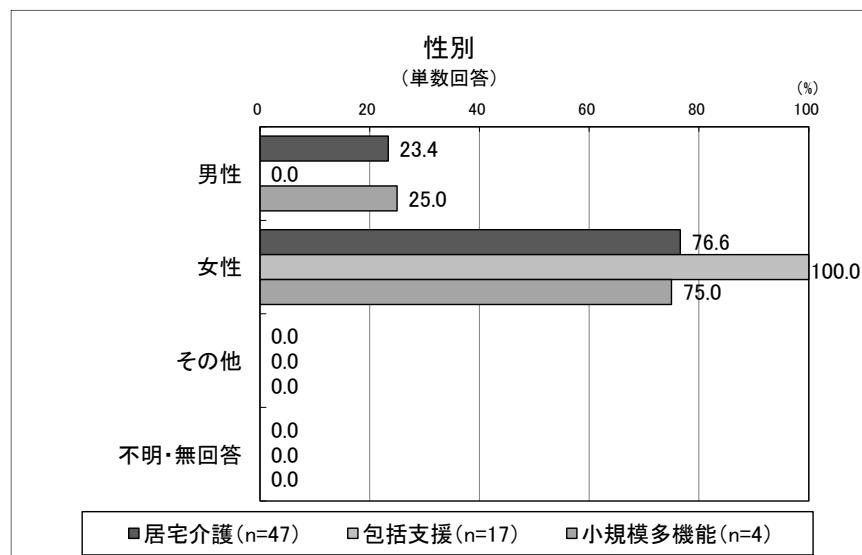
- 身体への支援 4 件
- 子どもへの支援 3 件
- 読み聞かせ 2 件
- 活動中 2 件
- 寄付等 2 件
- イベントの運営 2 件
- 何らかの役に立ちたい、手助けしたい 2 件
- 高齢者への支援 2 件
- 話し相手 1 件
- スポーツクラブの手伝い 1 件
- 自治会のボランティア 1 件
- 地域以外のボランティア 1 件
- 参加の仕方がわからない 1 件
- その他（できそうな活動がない等） 7 件

【介護支援専門員を対象にした介護保険事業アンケート調査】

I. 調査対象者の基本属性等

(1) 性別

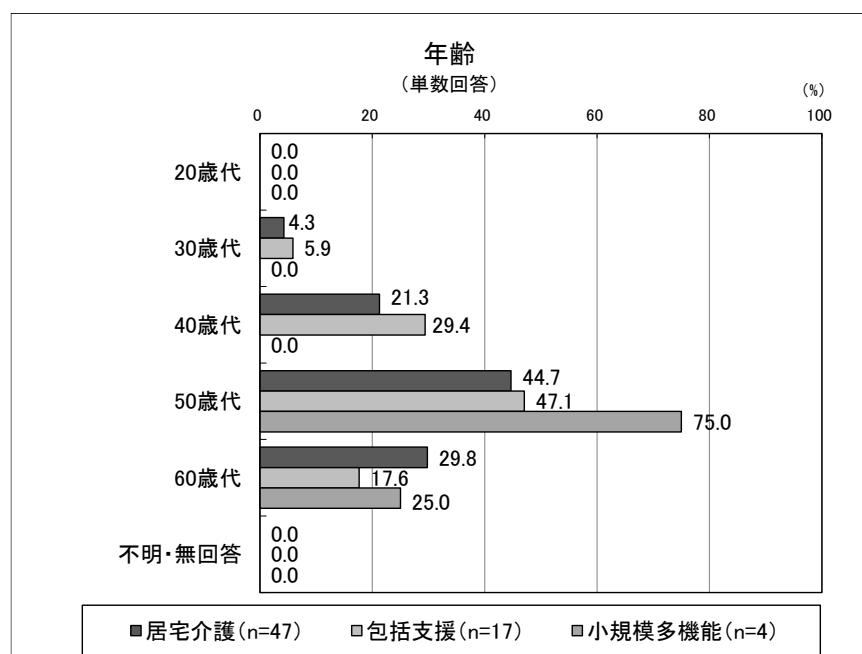
「男性」の割合は「居宅介護」では 23.4%、「小規模多機能」では 25.0%となっています。「女性」は、「地域包括」で 100.0%となっています。



「居宅介護」は「居宅介護事業所」、「包括支援」は「地域包括支援センター」、「小規模多機能」は「小規模多機能型居宅介護事業所」であり、以上のように事業所を分類し調査結果を集計した。

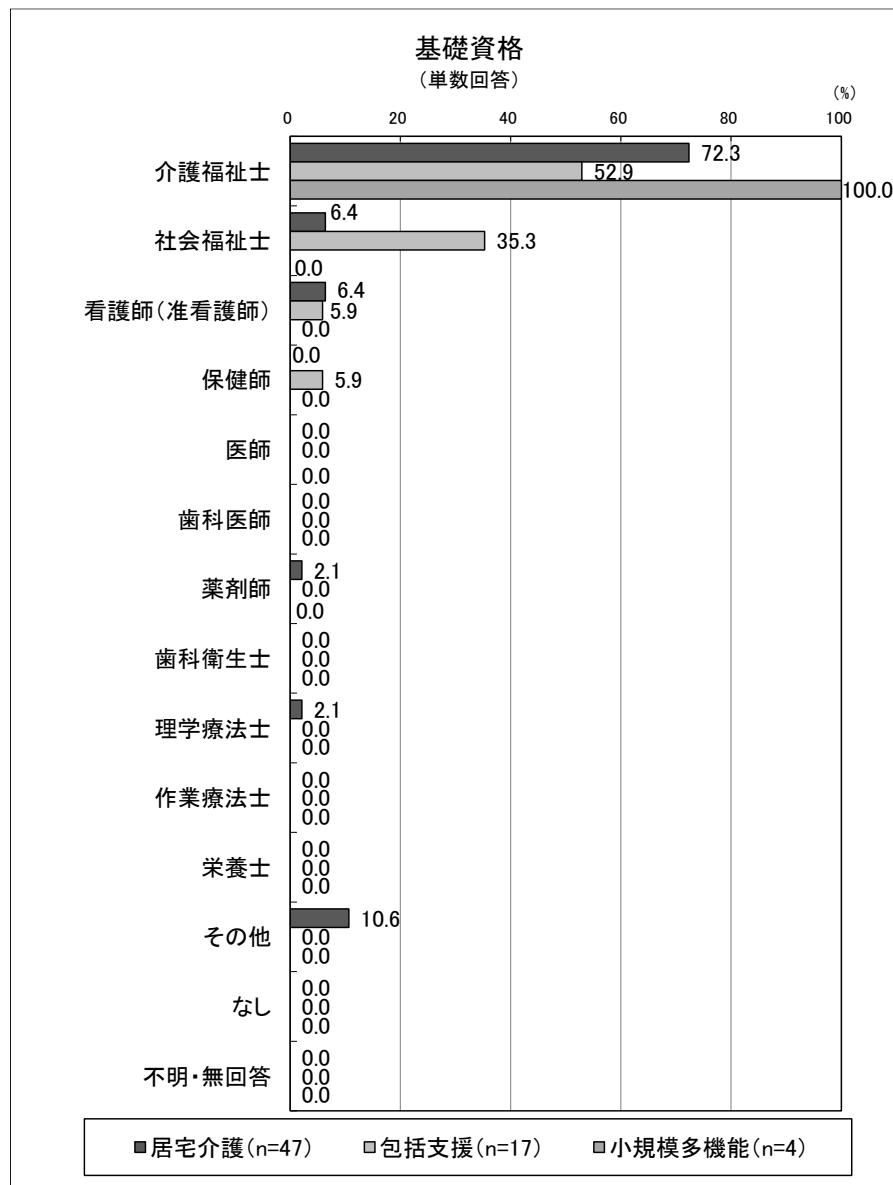
(2) 年齢

いずれの事業所においても「50 歳代」が最も多く、「居宅介護」で 44.7%、「地域包括」で 47.1%、「小規模多機能」で 75.0% となっています。



(3) 基礎資格

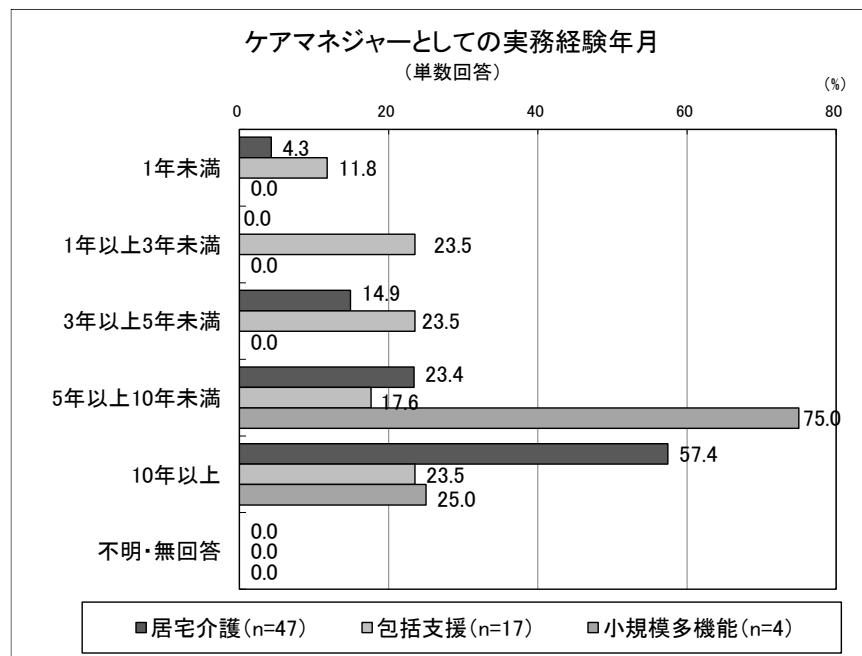
いずれの事業所においても「介護福祉士」が最も多く、「居宅介護」で72.3%、「地域包括」で52.9%、「小規模多機能」で100.0%となっています。「包括支援」では、次いで「社会福祉士」が35.3%となっています。



(4) 実務経験等

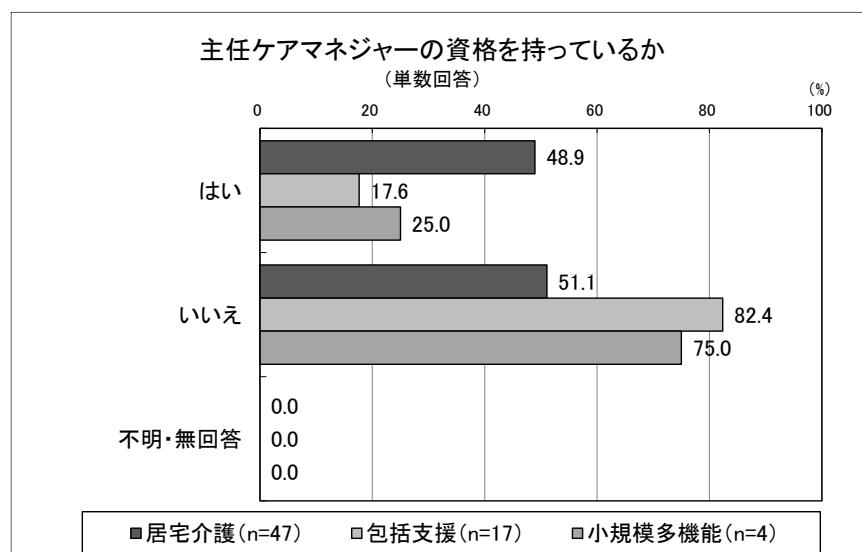
①ケアマネジャーとしての実務経験

「居宅介護」においては、「10年以上」が57.4%と最も多く、「包括支援」においては「1年以上3年未満」「3年以上5年未満」「10年以上」がいずれも23.5%となっています。「小規模多機能」においては「5年以上10年未満」が75.0%となっています。



②主任ケアマネジャー資格の有無

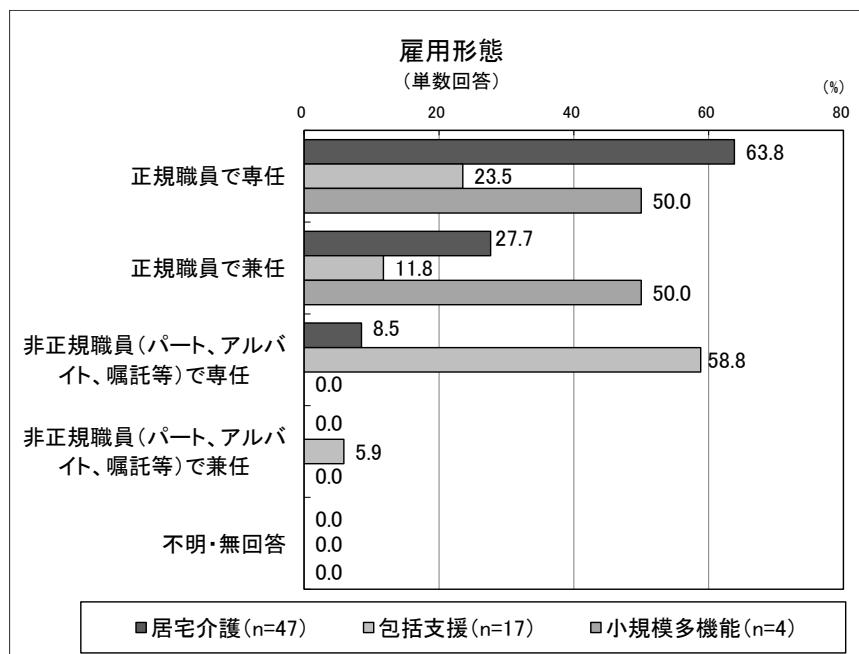
「はい」の割合は「居宅介護」において48.9%と最も多く、「包括支援」では17.6%、「小規模多機能」では25.0%となっています。



(5) 雇用形態等

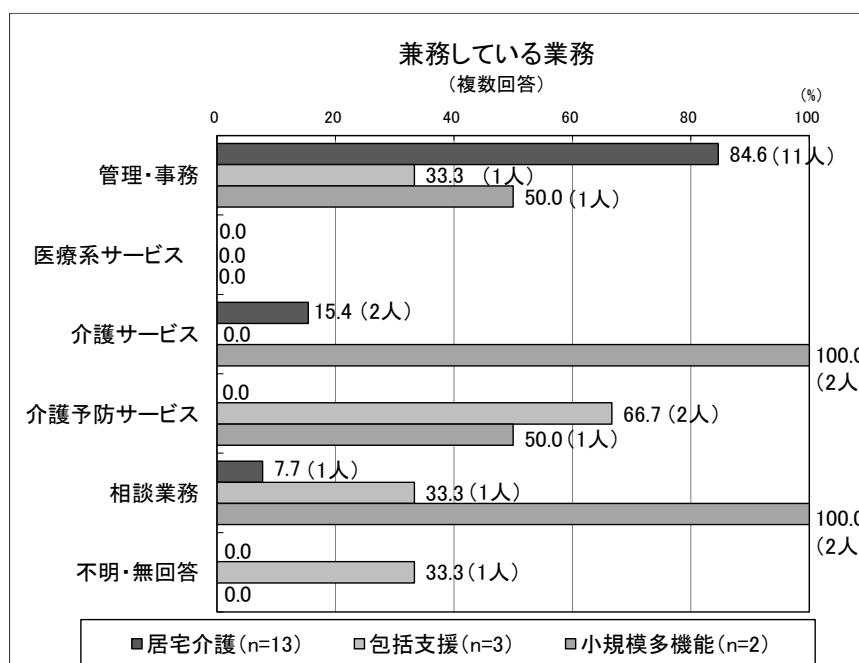
①雇用形態

「居宅介護」では「正規職員で専任」が 63.8%と最も多く、次いで「正規職員で兼任」が 27.7%となっています。「包括支援」では「非正規職員（パート、アルバイト、嘱託等）で専任」が最も多く 58.8%となっており、次いで「正規職員で専任」23.5%となっています。「小規模多機能」では「正規職員で専任」「正規職員で兼任」がそれぞれ 50.0%となっています。



②兼務している業務

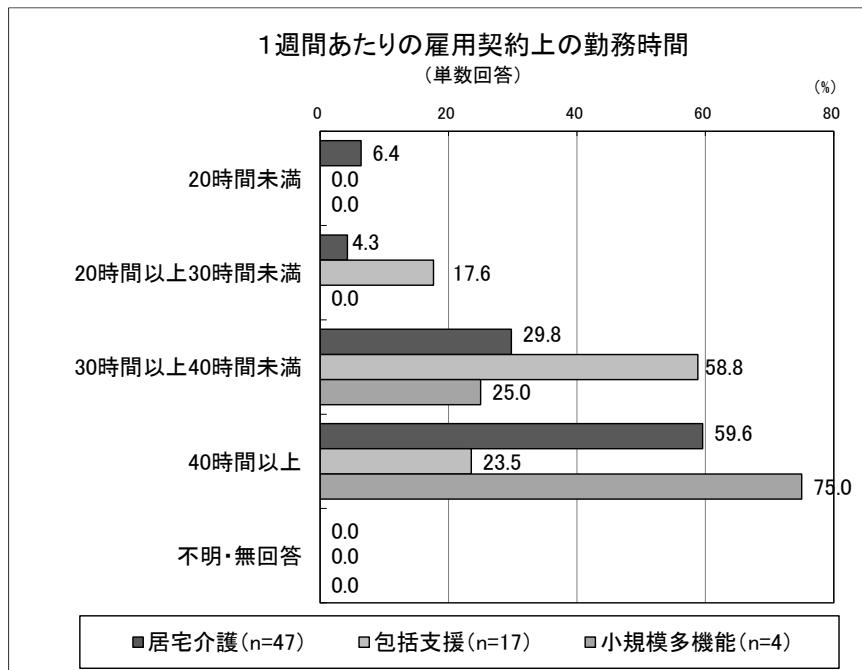
業務を兼任している人は「居宅介護」では 13 人、「包括支援」では 3 人、「小規模多機能」では 2 人となっており、業務内容ごとにみると以下のようになっています。



(6) 勤務状況等

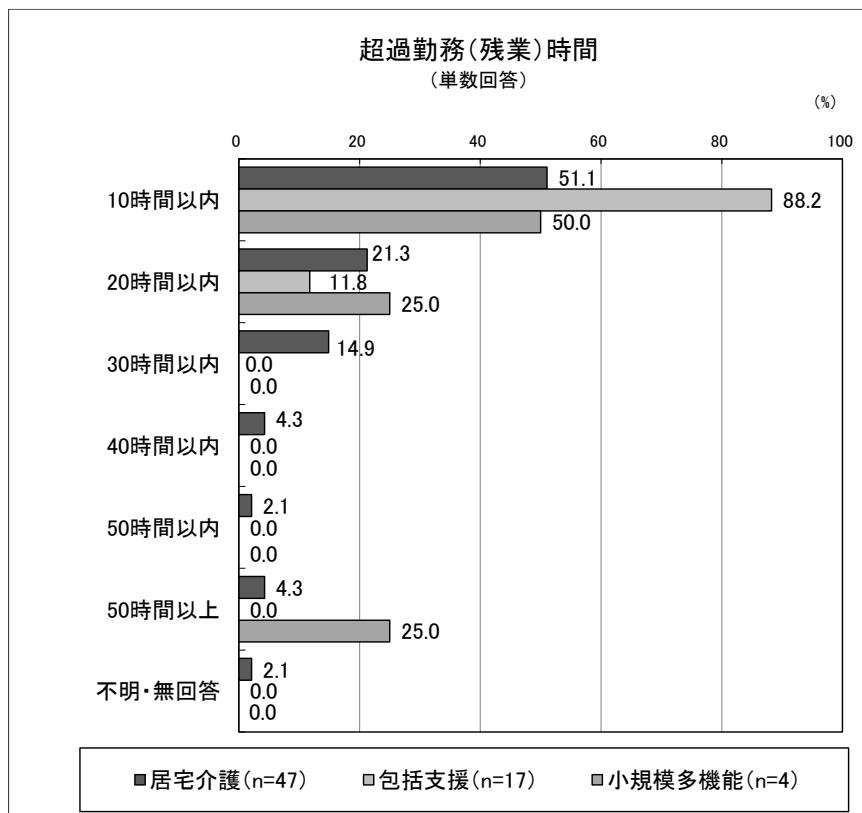
① 1週間あたりの雇用契約上の勤務時間

「居宅介護」と「小規模多機能」では「40時間以上」が最も多く、それぞれ59.6%と75.0%となっています。「包括支援」では「30時間以上40時間未満」が56.8%と最も多くなっています。平均勤務時間は35.8時間となっています。



② 超過勤務

超過勤務については、いずれの事業所においても「10時間以内」が最も多くなっています。平均11.5時間となっています。

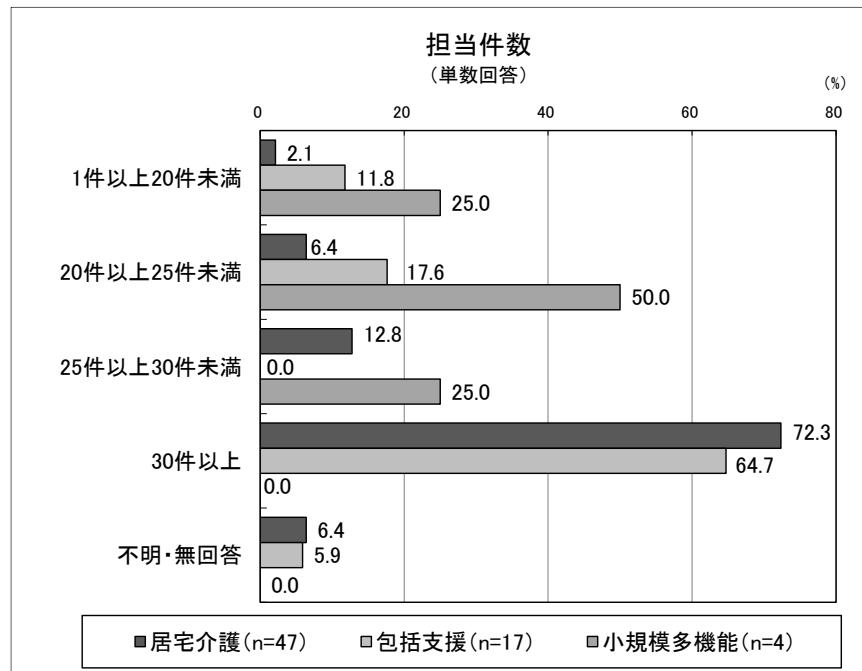


※令和4年12月現在

II. ケアマネジャー業務について

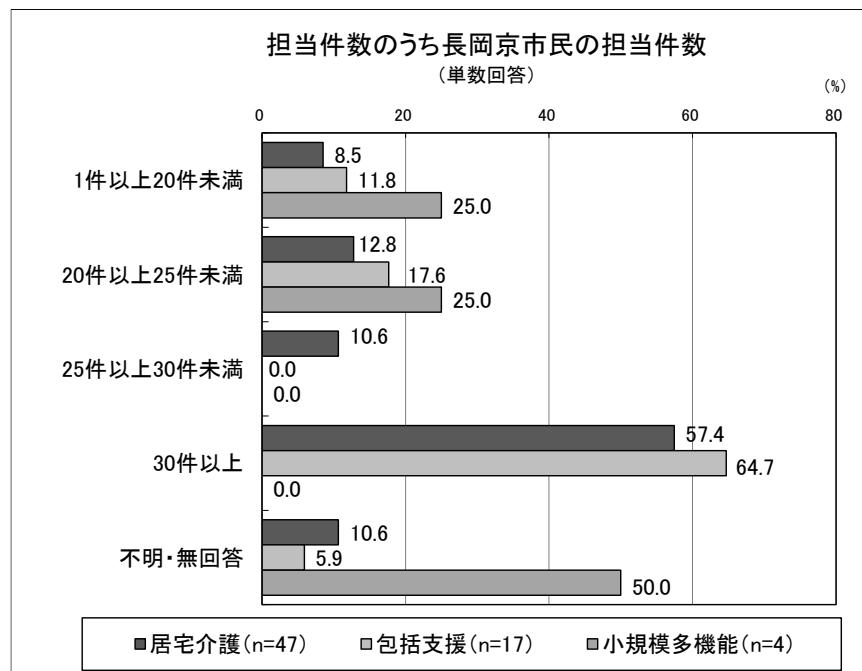
(1) 担当件数

「居宅介護」と「包括支援」では「30件以上」が最も多い、それぞれ72.3%、64.7%となっています。
 「小規模多機能」では「20件以上25件未満」が最も多い、50.0%となっています。



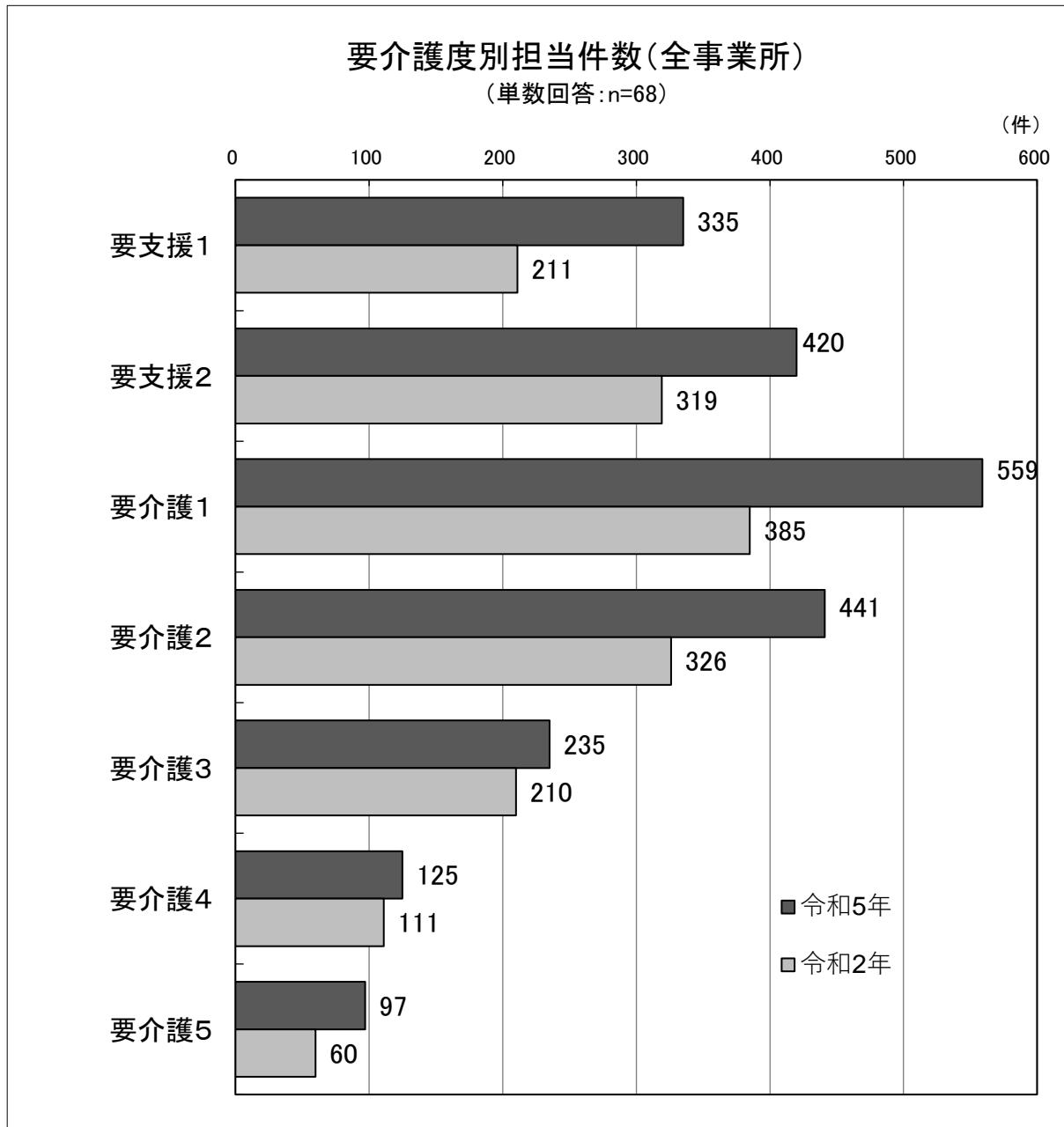
※令和4年12月現在

担当件数のうち長岡京市民の担当件数は、「居宅介護」と「包括支援」では「30件以上」が最も多い、それぞれ57.4%、64.7%となっています。



※令和4年12月現在

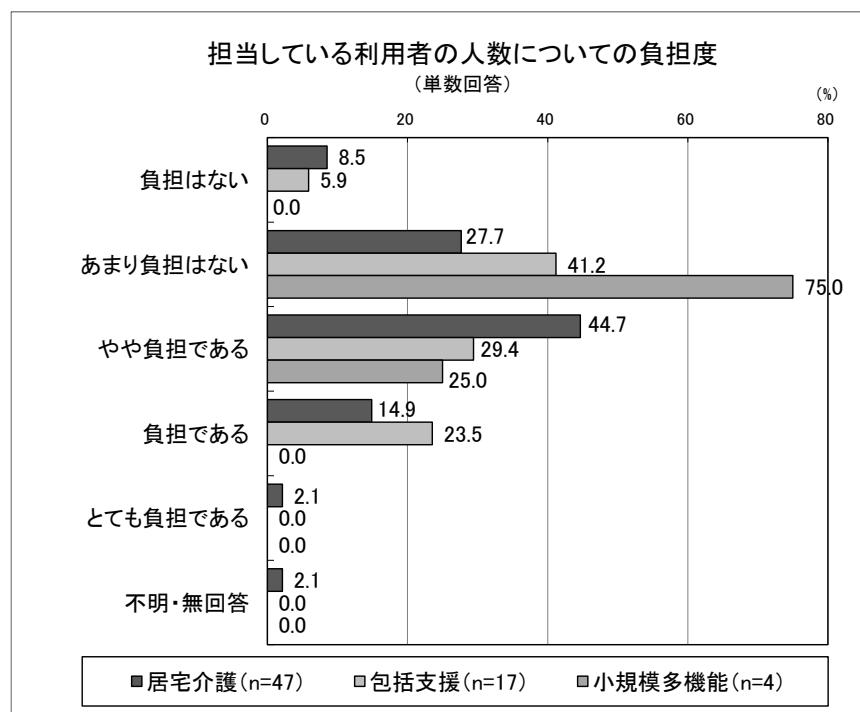
要介護度別に担当件数の合計をみると、「要介護 1」が最も多く 559 件、次いで「要介護 2」が 441 件、「要支援 2」が 420 件、「要支援 1」が 335 件、「要介護 3」が 235 件、「要介護 4」が 125 件、「要介護 5」が 97 件となっています。



※令和 5 年 2 月現在

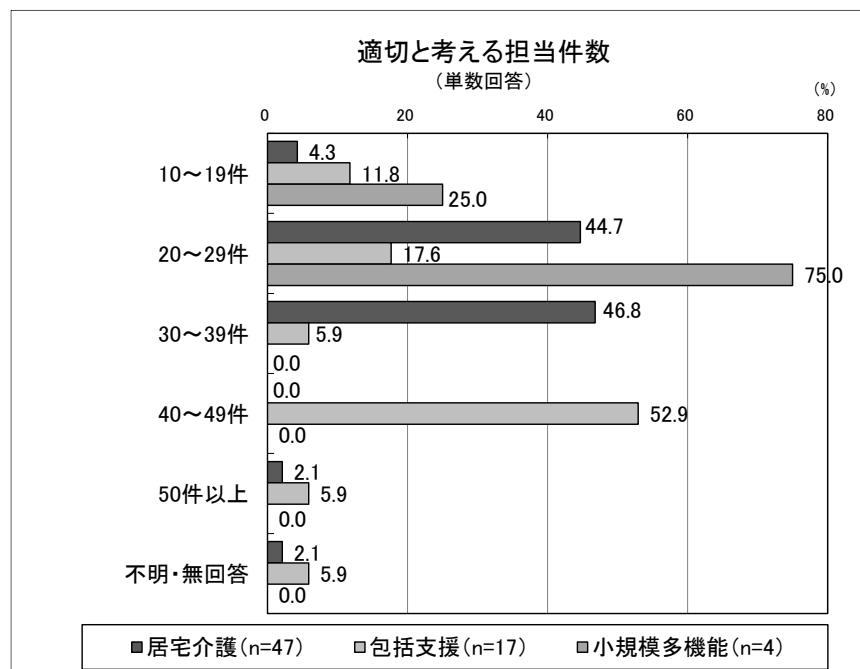
(2) 担当している人数に対する負担度

「居宅介護」では「やや負担である」が44.7%と最も多くなっています。「包括支援」と「小規模多機能」では「あまり負担はない」が最も多く、それぞれ41.2%、75.0%となっています。



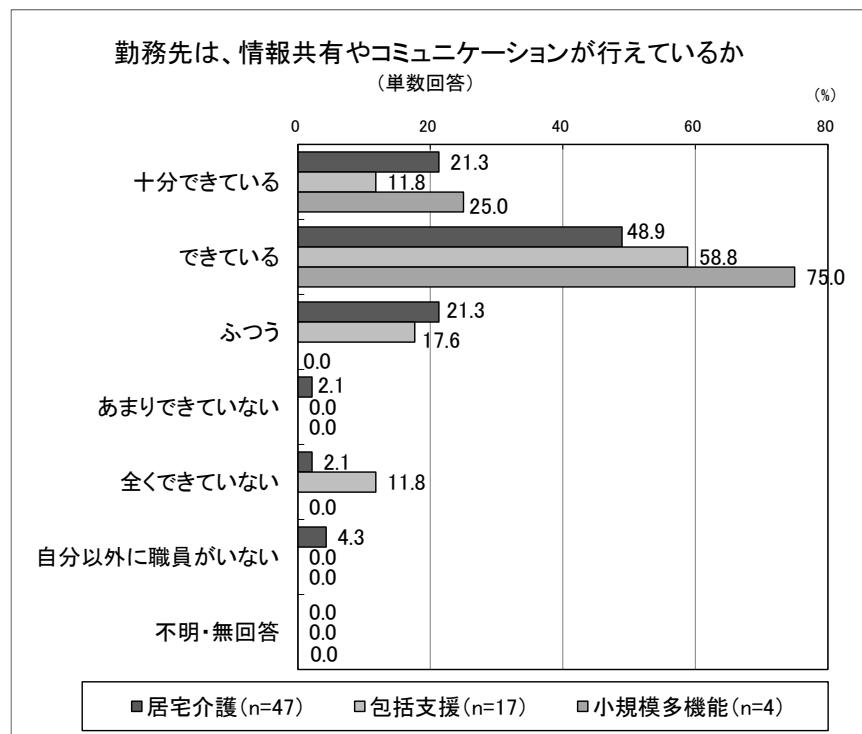
(3) 適切と考える担当件数

「居宅介護」では「30～39件」が46.8%と最も多く、次いで「20～29件」が44.7%となっています。「包括支援」では「40～49件」が52.9%、「小規模多機能」では「20～29件」が75.0%と最も多くなっています。



(4) 勤務先は、情報共有やコミュニケーションが行えているか

いずれの事業所においても、「できている」が最も多くなっています。



(5) 関係機関との連携状況

①関係機関と連携（相談、情報提供、情報共有等）をとることができているか

全事業所について、「地域の関係者（民生児童委員、自治会等）」「障がい福祉サービス事業所、相談支援専門員」「乙訓保健所」「京都府」「乙訓在宅医療・介護連携支援センター」「国民健康保険団体連合会」では「連携がとりづらい」が最も多くなっています。

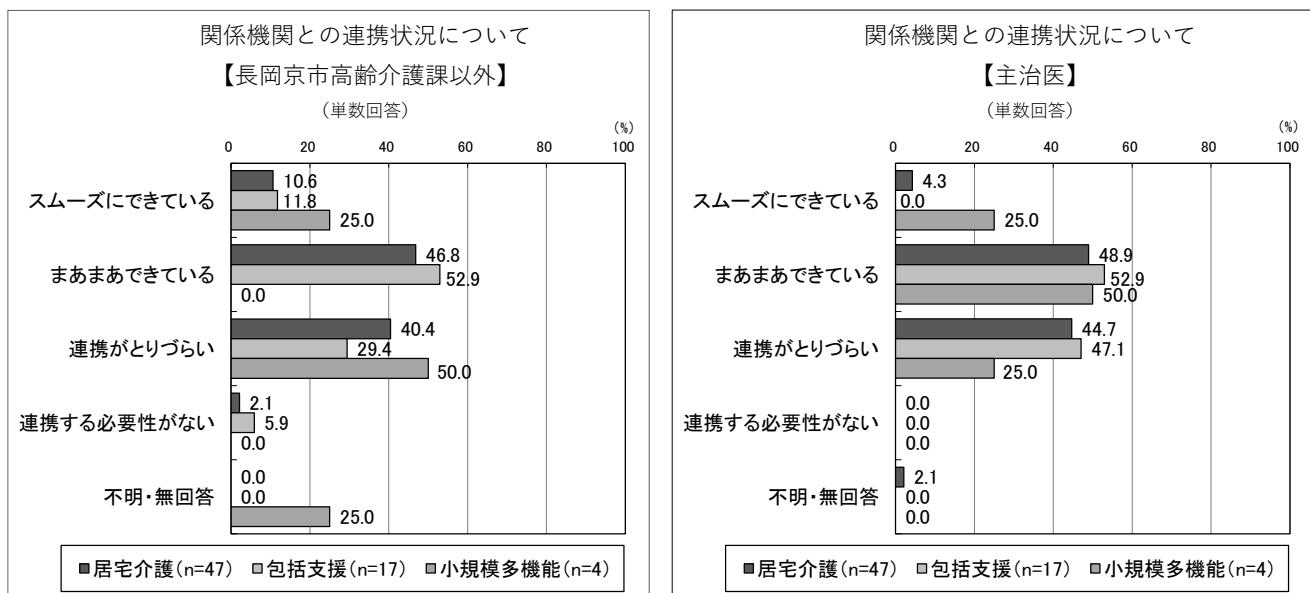
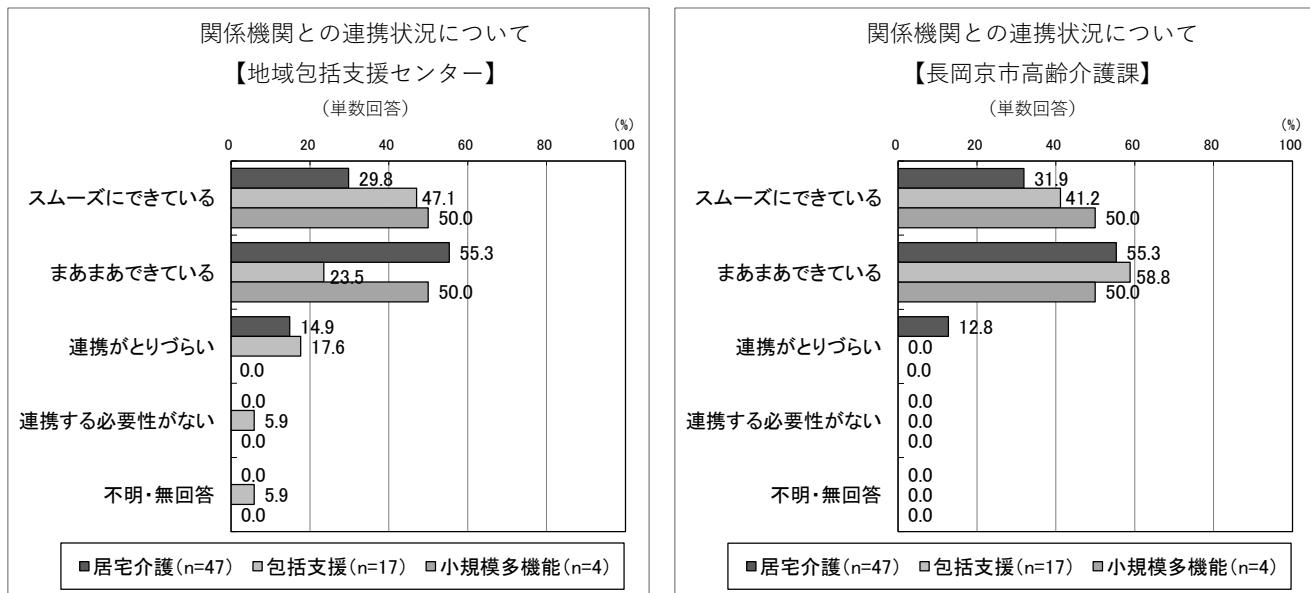
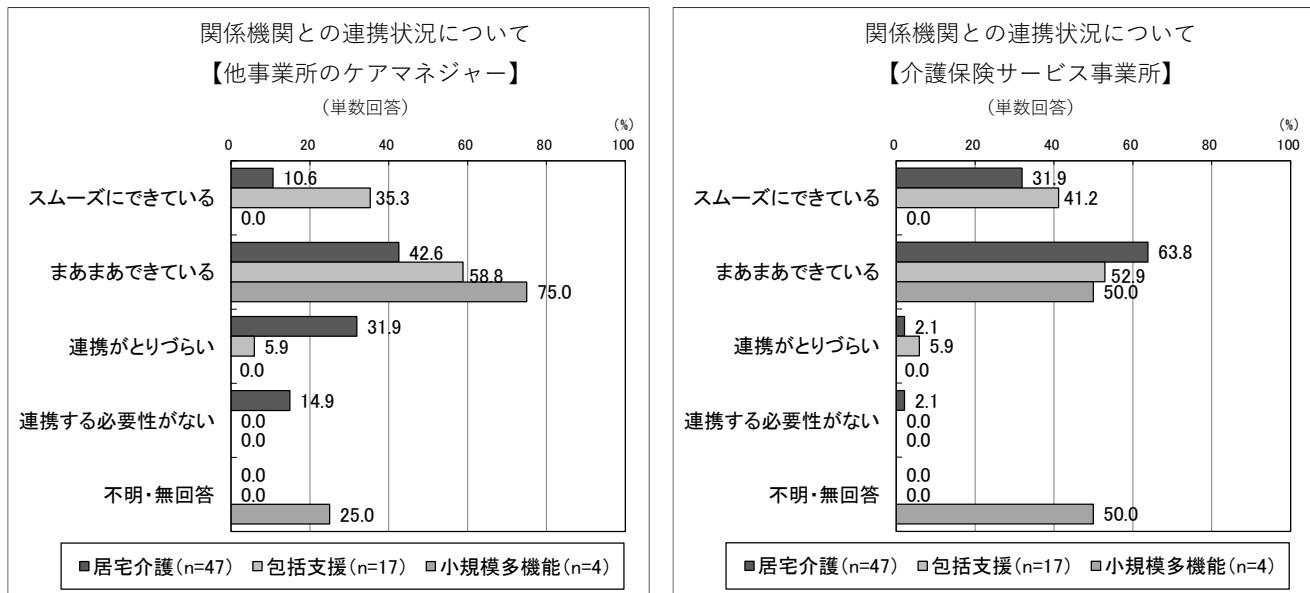
関係機関との連携状況について（全事業所）

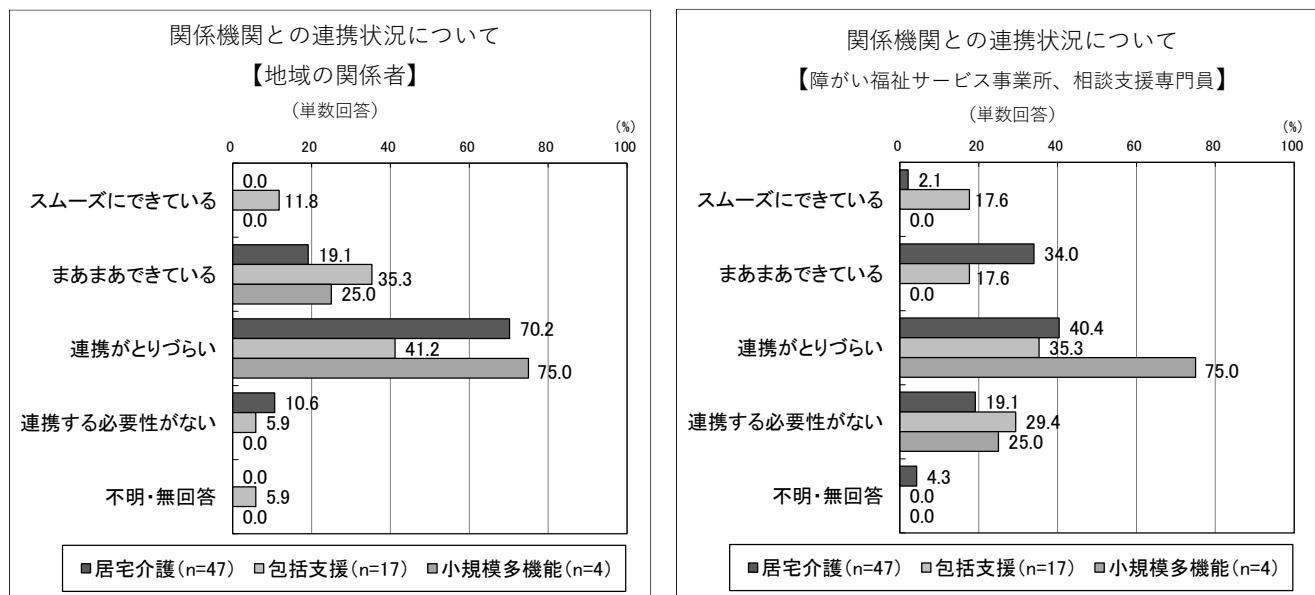
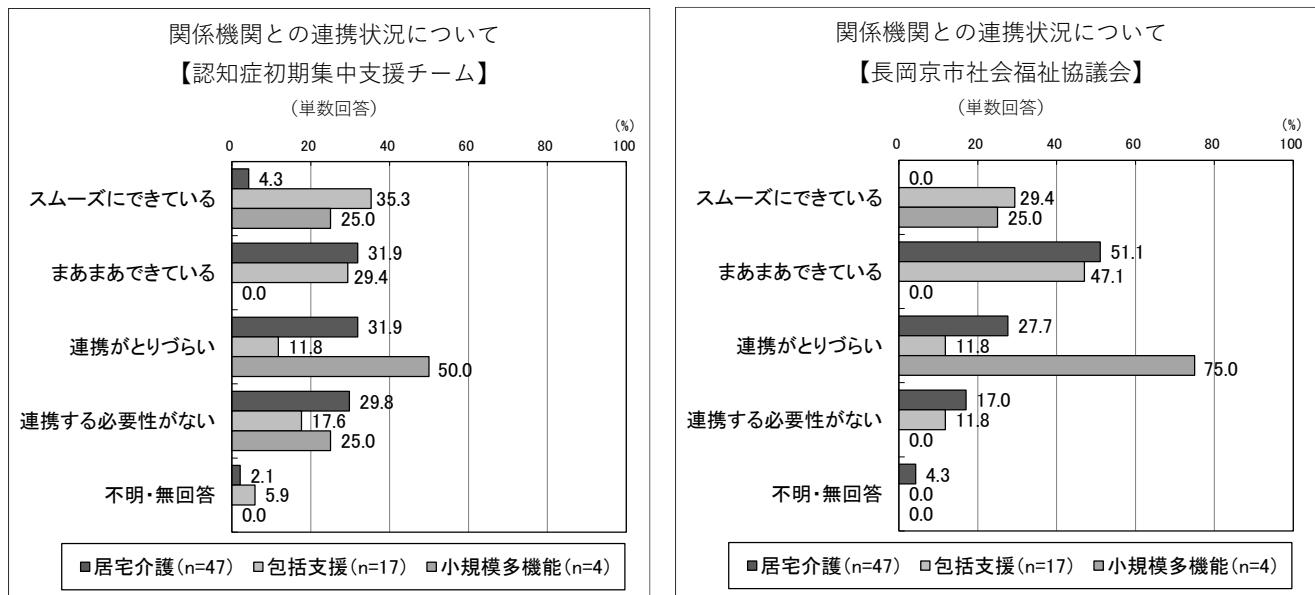
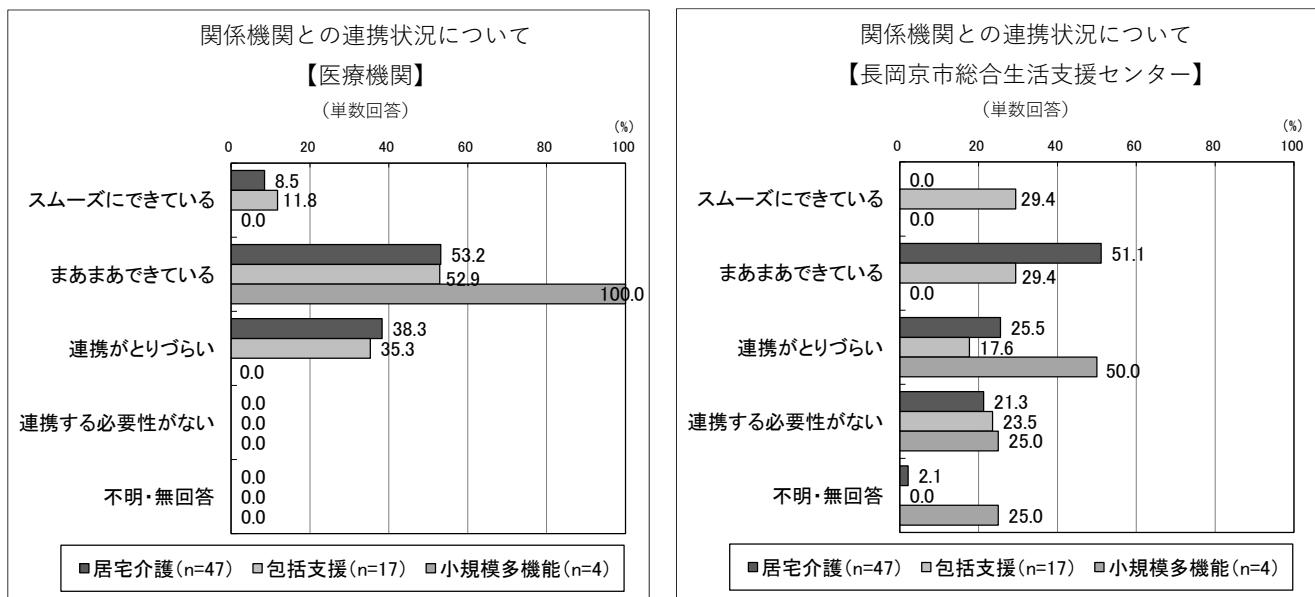
(単数回答：n=68)

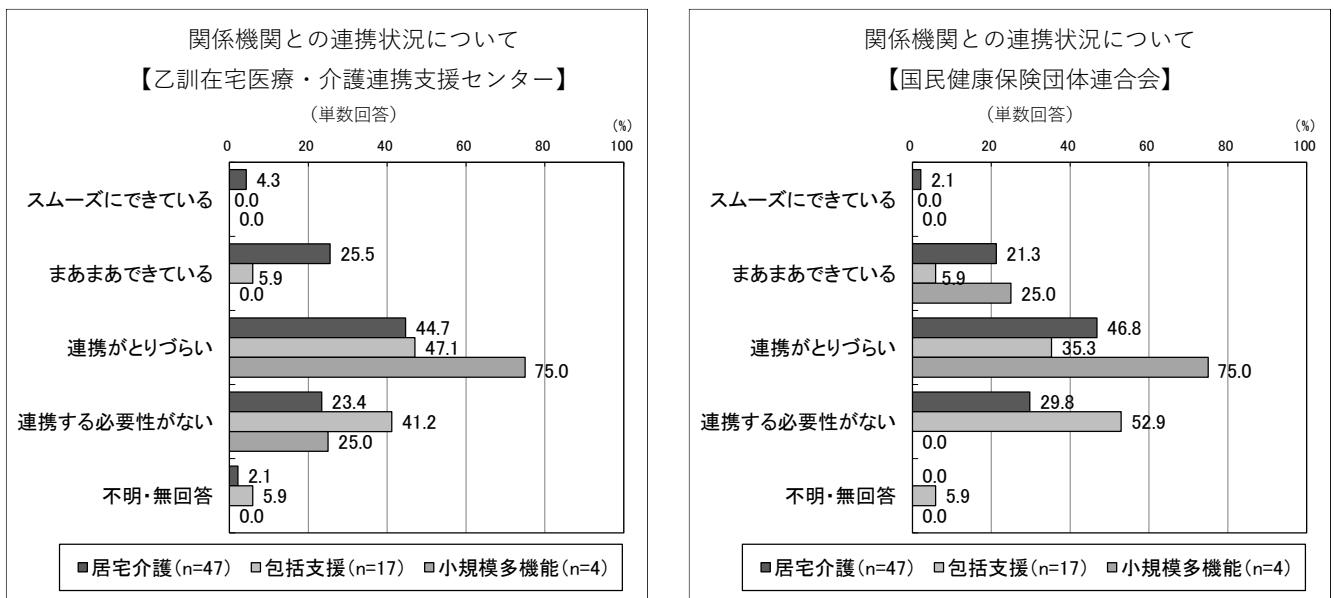
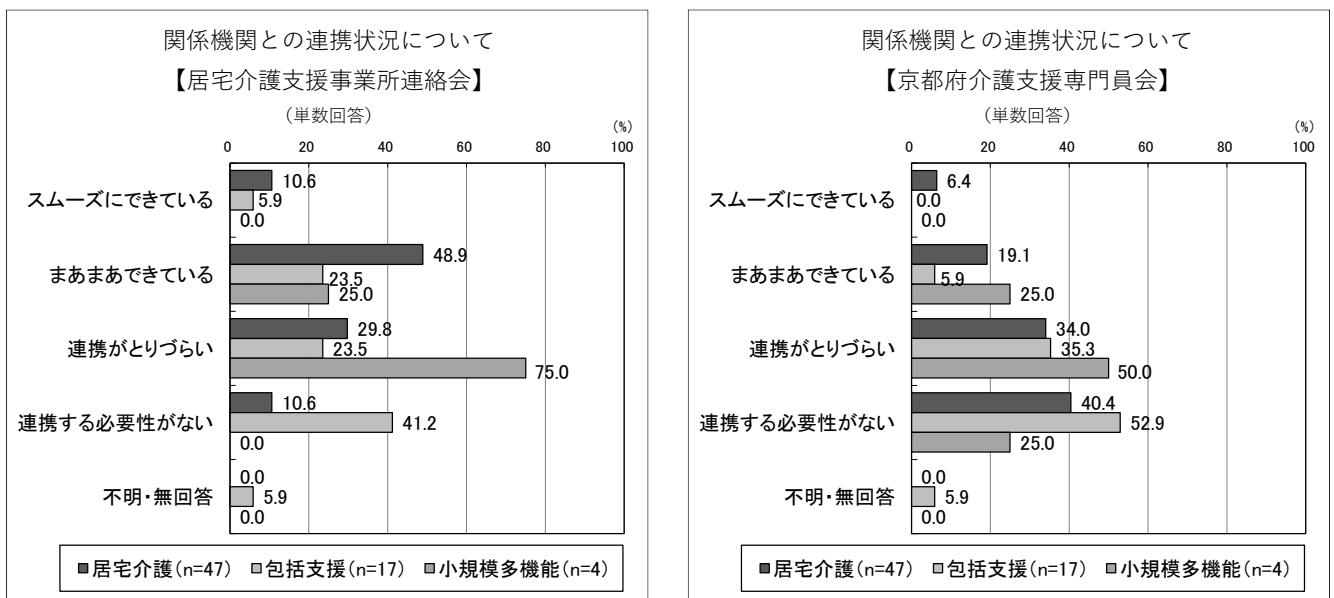
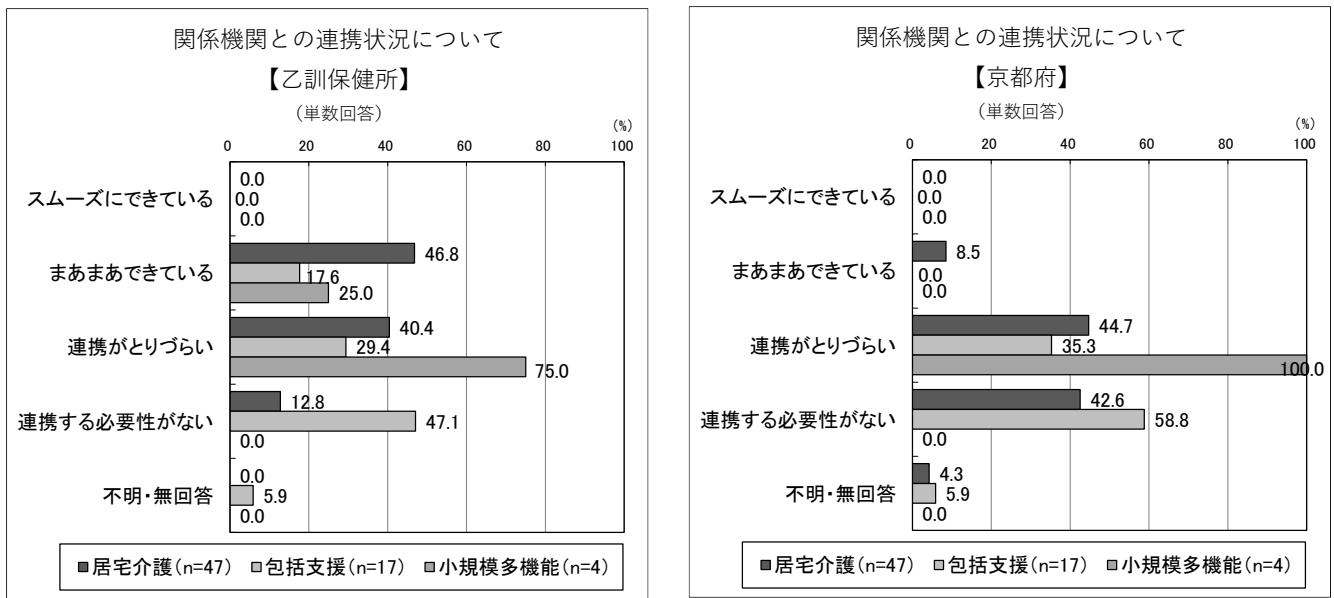
(%)

関係機関等	スムーズにできている	まあまあできている	連携がとりづらい	連携する必要性がない	不明・無回答
(1)他事業所のケアマネジャー	16.2	48.5	23.5	10.3	1.5
(2)介護保険サービス事業所	32.4	60.3	2.9	1.5	2.9
(3)地域包括支援センター	35.3	47.1	14.7	1.5	1.5
(4)長岡京市高齢介護課	35.3	55.9	8.8	0.0	0.0
(5)長岡京市高齢介護課以外 (障がい、生活保護など)	11.8	45.6	38.2	2.9	1.5
(6)主治医(かかりつけ医)	4.4	50.0	44.1	0.0	1.5
(7)医療機関(地域連携室等)	8.8	55.9	35.3	0.0	0.0
(8)長岡京市総合生活支援センター	7.4	42.6	25.0	22.1	2.9
(9)認知症初期集中支援チーム	13.2	29.4	27.9	26.5	2.9
(10)長岡京市社会福祉協議会	8.8	47.1	26.5	14.7	2.9
(11)地域の関係者(民生児童委員、自治会等)	2.9	23.5	63.2	8.8	1.5
(12)障がい福祉サービス事業所、相談支援専門員	5.9	27.9	41.2	22.1	2.9
(13)乙訓保健所	0.0	38.2	39.7	20.6	1.5
(14)京都府	0.0	5.9	45.6	44.1	4.4
(15)居宅介護支援事業所連絡会	8.8	41.2	30.9	17.6	1.5
(16)京都府介護支援専門員会	4.4	16.2	35.3	42.6	1.5
(17)乙訓在宅医療・介護連携支援センター	2.9	19.1	47.1	27.9	2.9
(18)国民健康保険団体連合会	1.5	17.6	45.6	33.8	1.5

各事業所の分類ごとの各関係機関の連携状況は以下のようになっています。

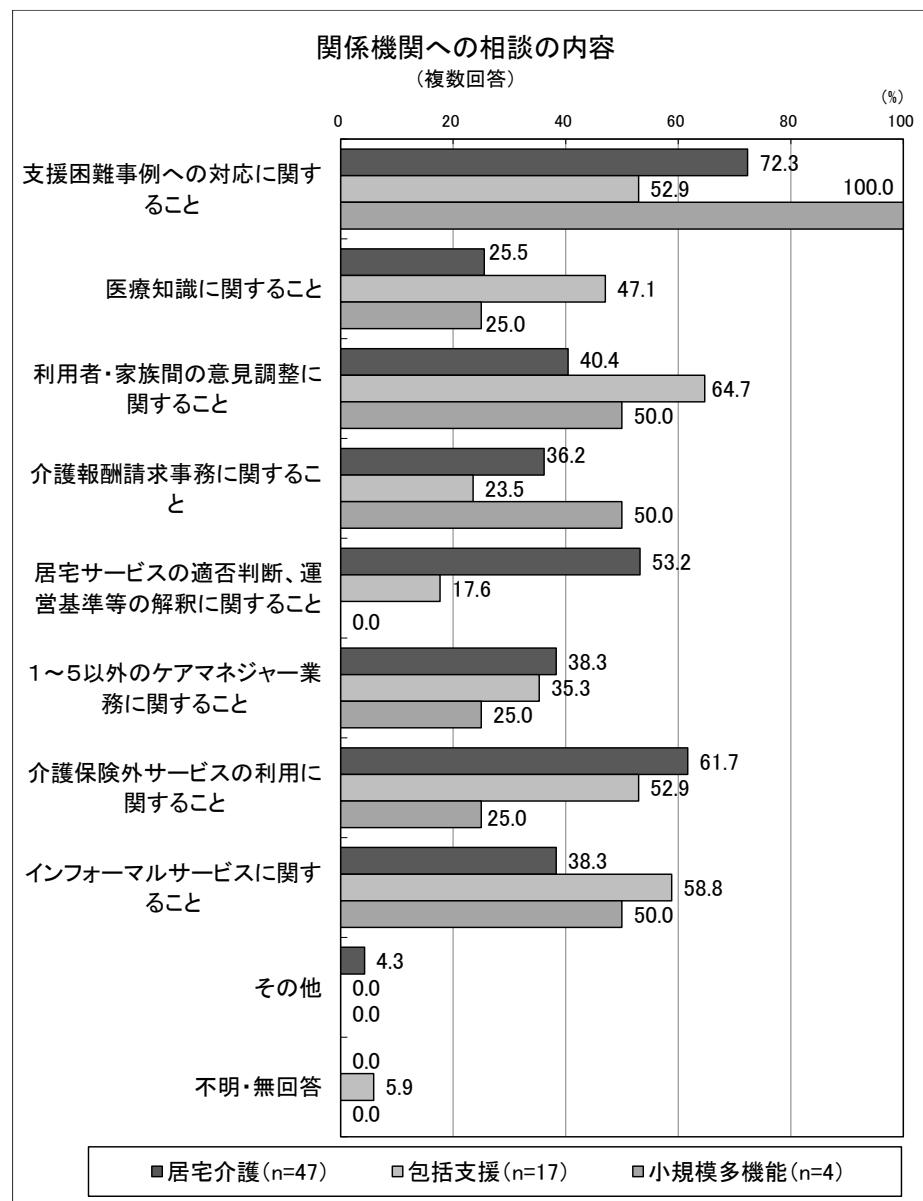






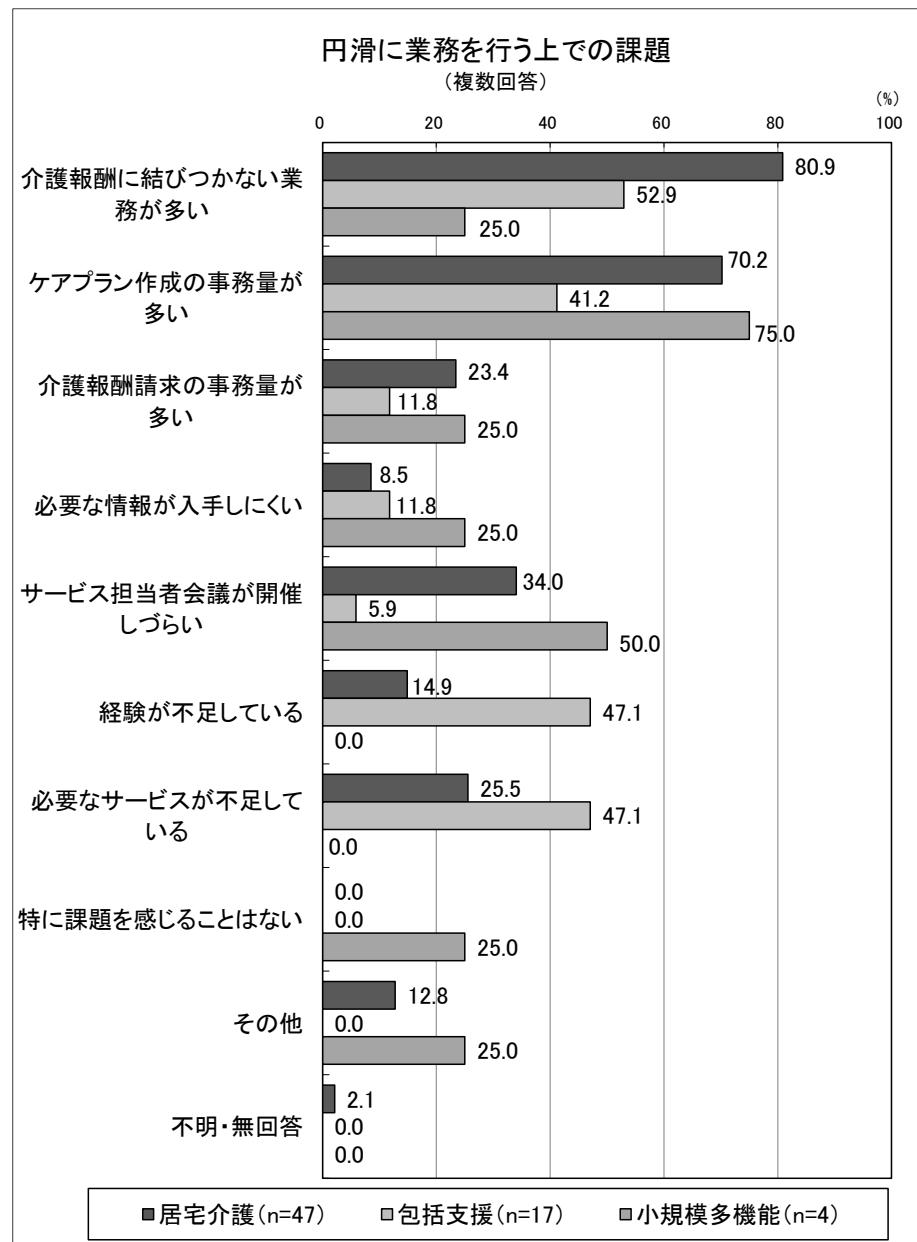
②どのようなことを相談しているか

「居宅介護」と「小規模多機能」では、「支援困難事例への対応に関するこ」が最も多くなっており、それぞれ 72.8%、100.0%となっています。「包括支援」では「利用者・家族間の意見調整に関するこ」が最も多く 64.7%となっています。



(6) 円滑に業務を行う上での課題

「居宅介護」では、「介護報酬に結びつかない業務が多い」が80.9%と最も多くなっており、次いで「ケアプラン作成の事務量が多い」が70.2%となっています。「包括支援」では「介護報酬に結びつかない業務が多い」が最も多く52.9%となっています。「小規模多機能」では「ケアプラン作成の事務量が多い」が最も多く、75.0%となっています。



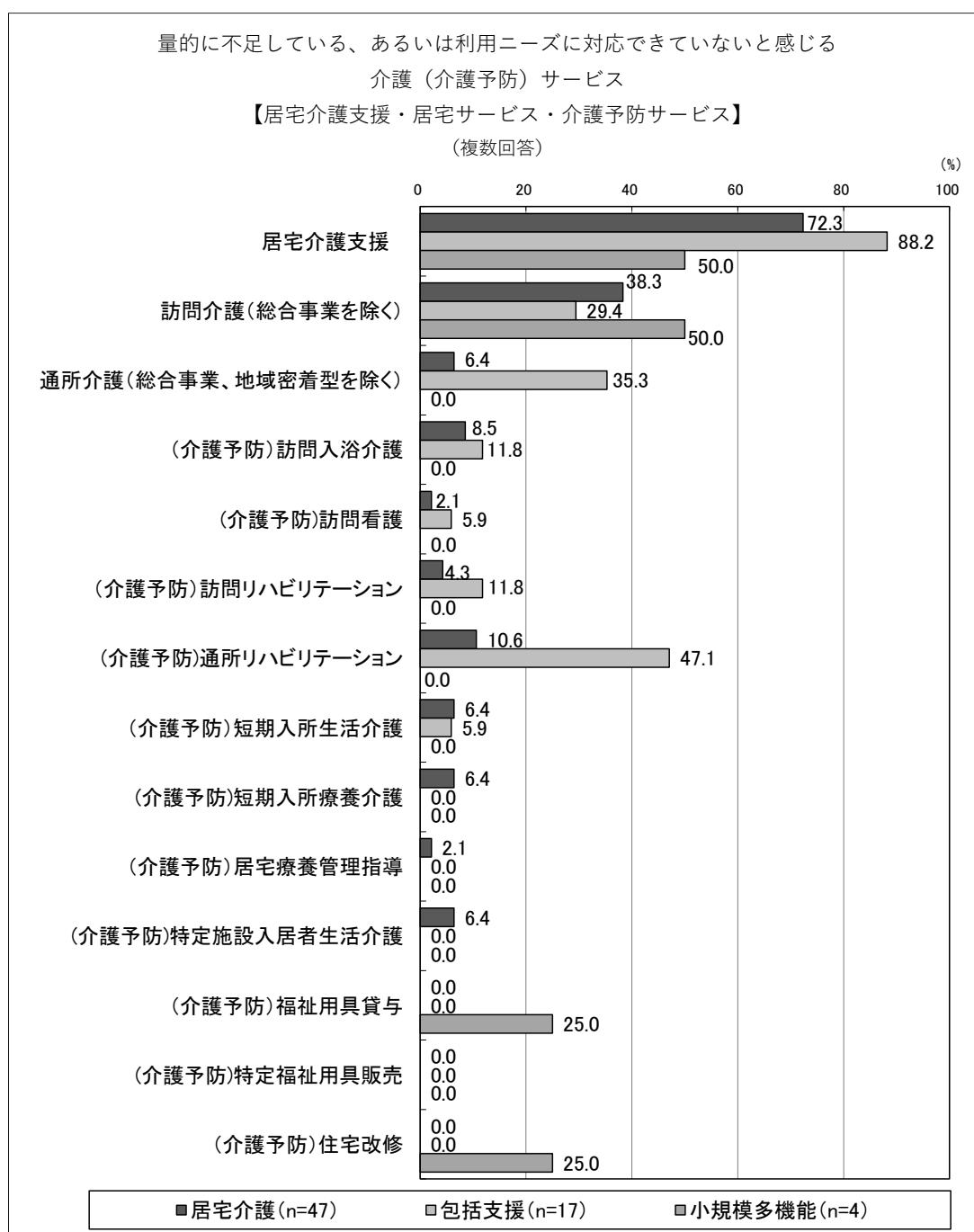
III. サービスの状況について

(1) 不足している、ニーズに対応できていないと感じる介護（介護予防）サービス

①居宅介護支援・居宅サービス・介護予防サービス

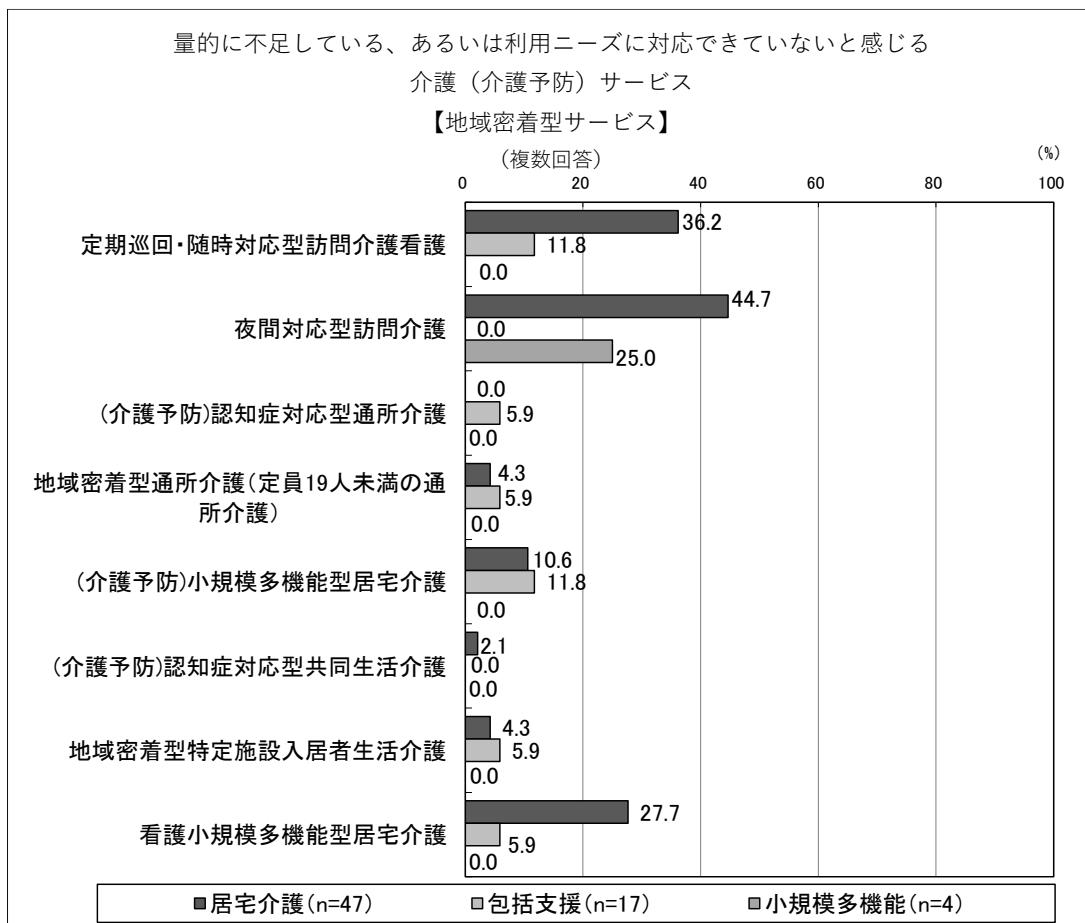
いずれの事業所においても「居宅介護支援」が最も多く、「居宅介護」「包括支援」では7割を超えています。また、「包括支援」では「通所介護（総合事業、地域密着型を除く）」「（介護予防）通所リハビリテーション」が多くなっています。

選択肢「その他」「特に不足しているサービスはない」は86ページ、③総合事業サービスのグラフに記載



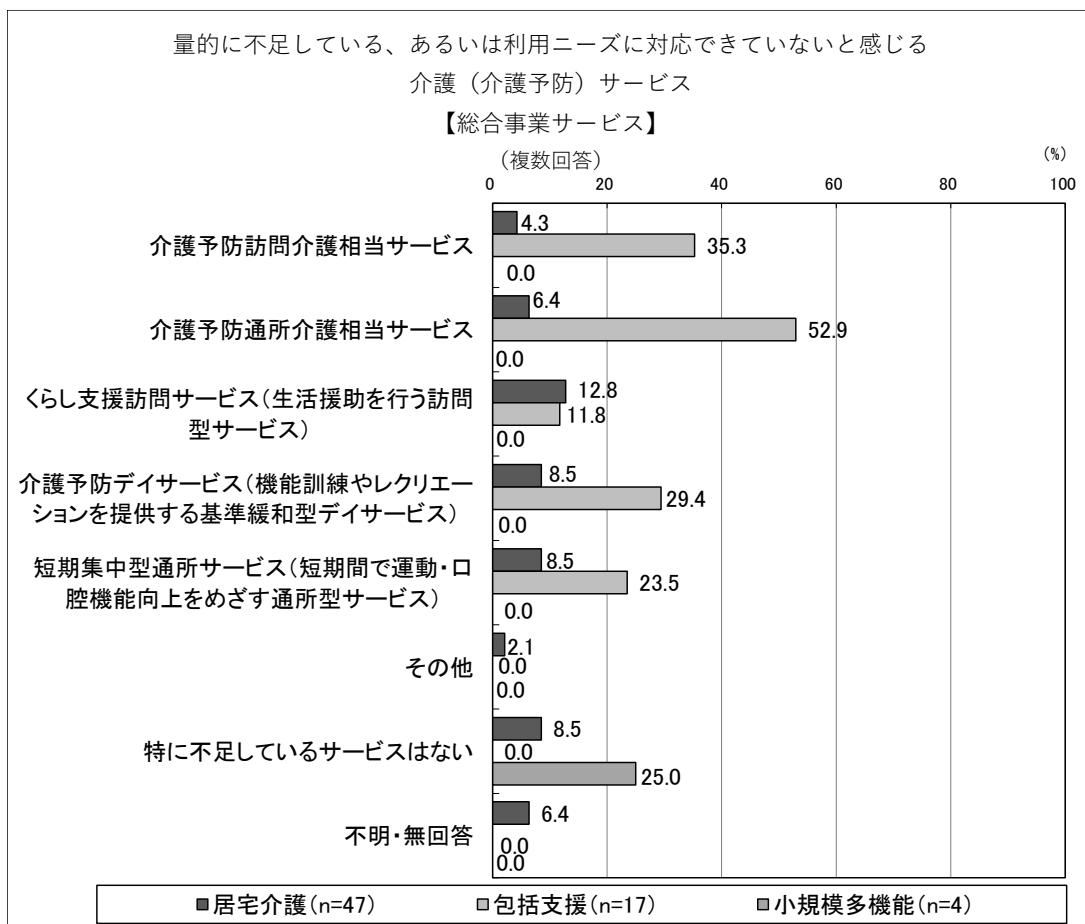
②地域密着型サービス

「居宅介護」において、「夜間対応型訪問介護」44.7%、「定期巡回・隨時対応型訪問介護看護」36.2%、「看護小規模多機能型居宅介護」27.7%と多くなっています。



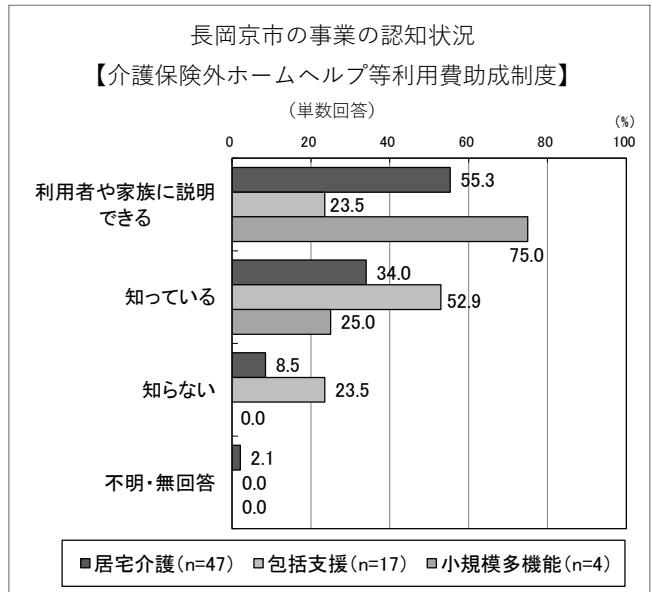
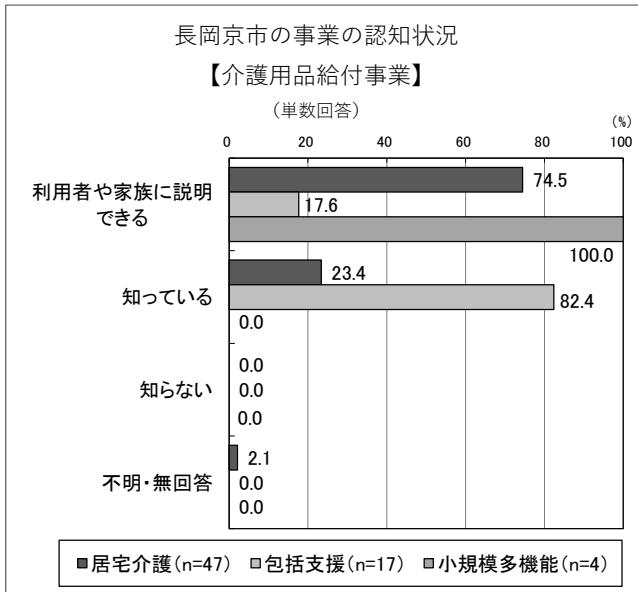
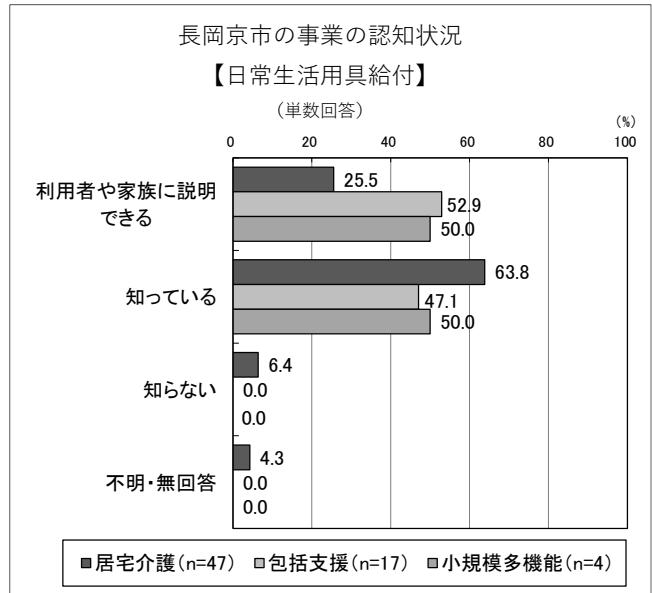
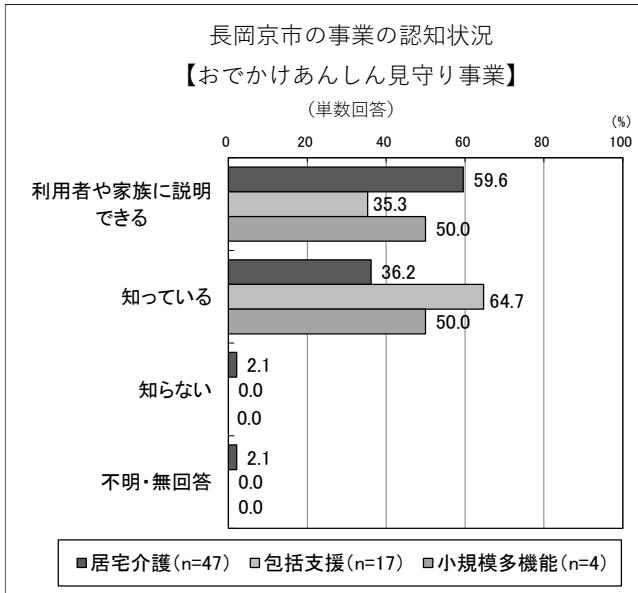
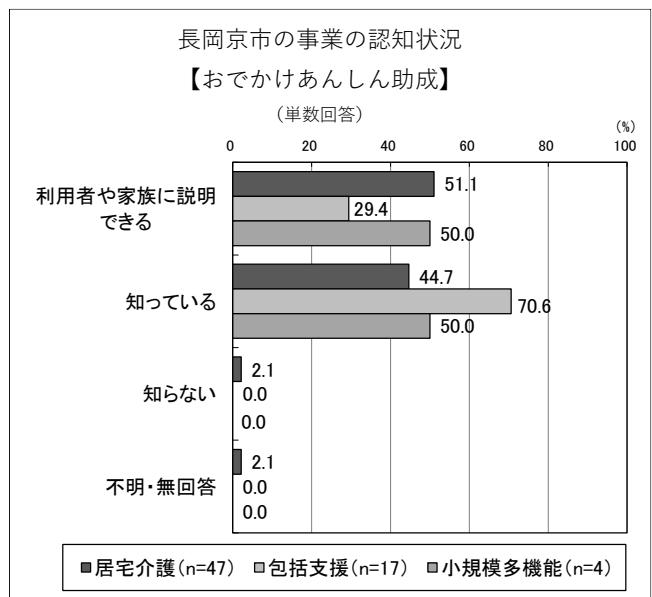
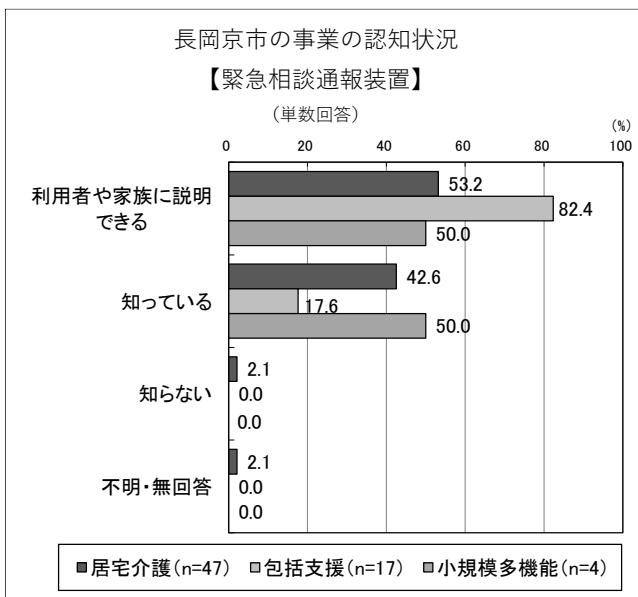
③総合事業サービス

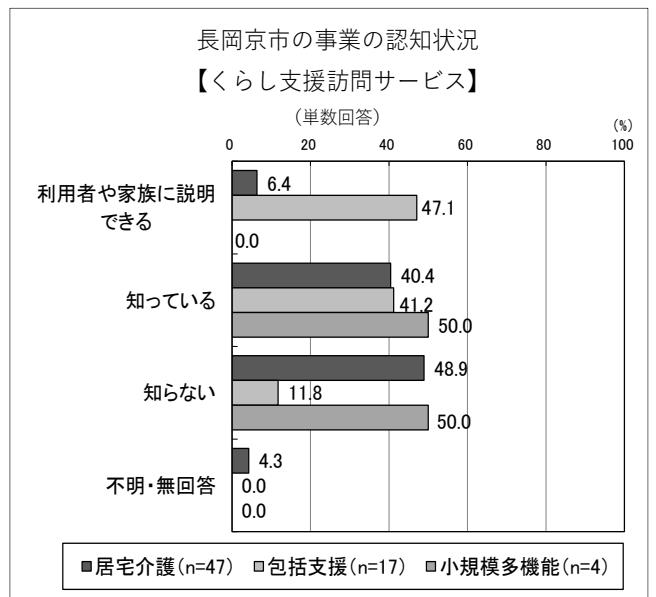
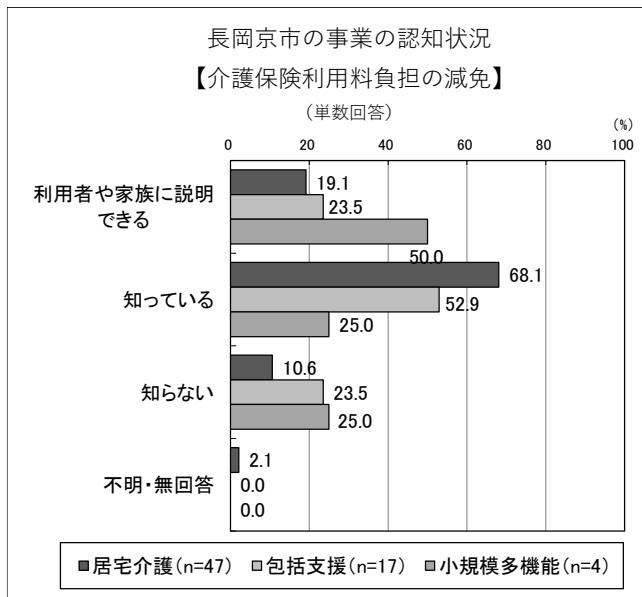
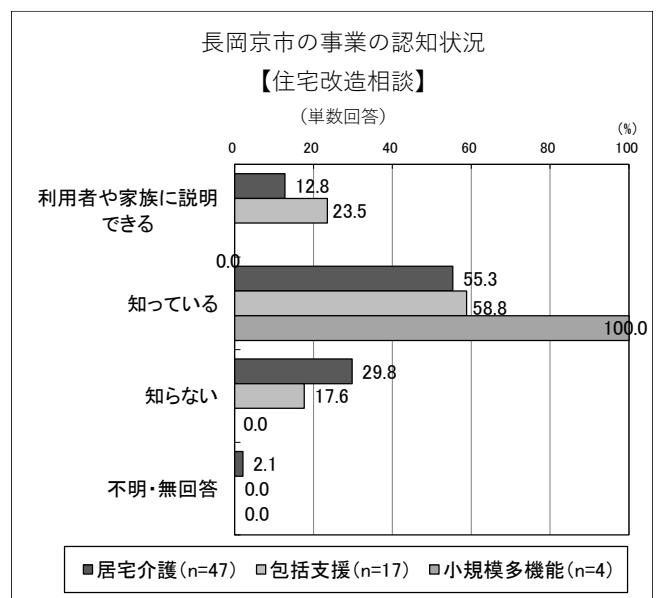
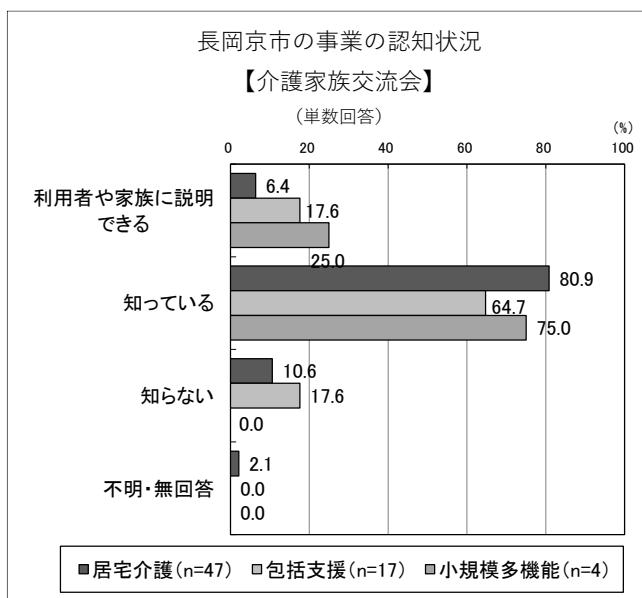
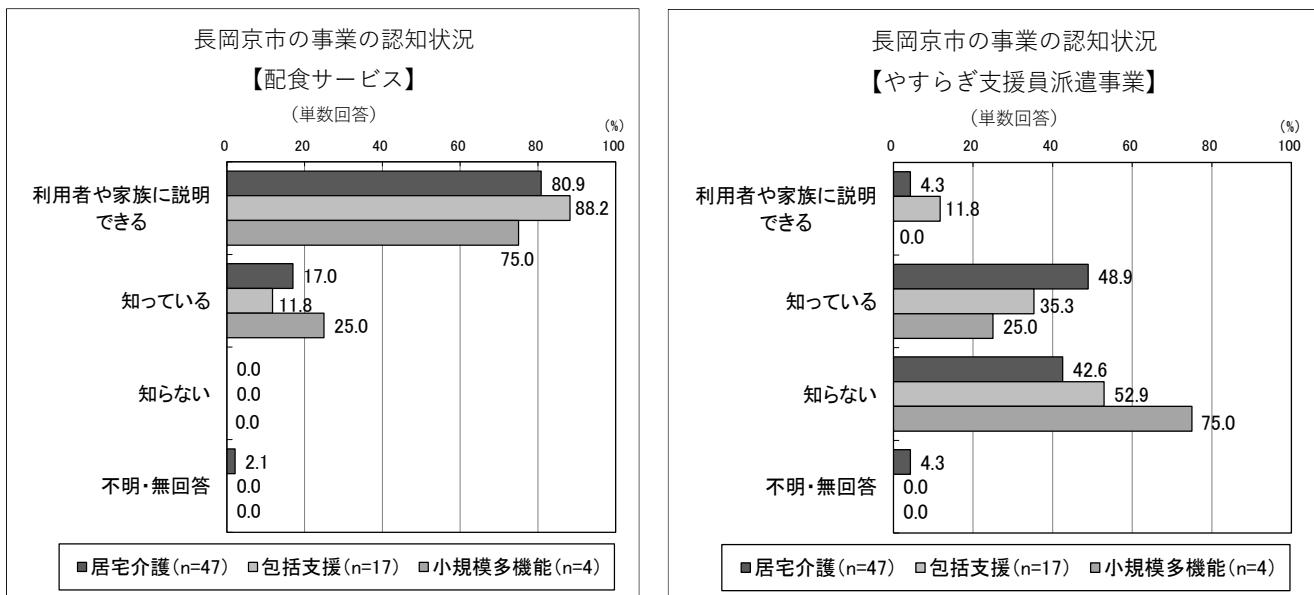
「包括支援」において、「介護予防通所介護相当サービス」52.9%、「介護予防訪問介護相当サービス」35.3%と多くなっています。

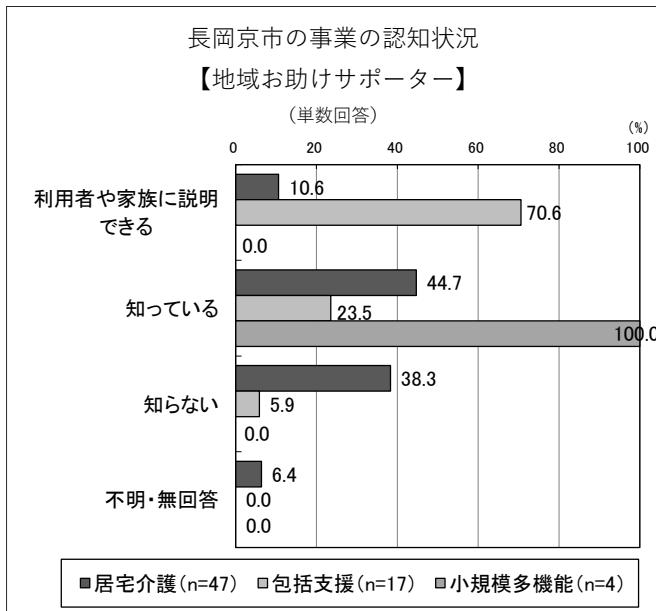
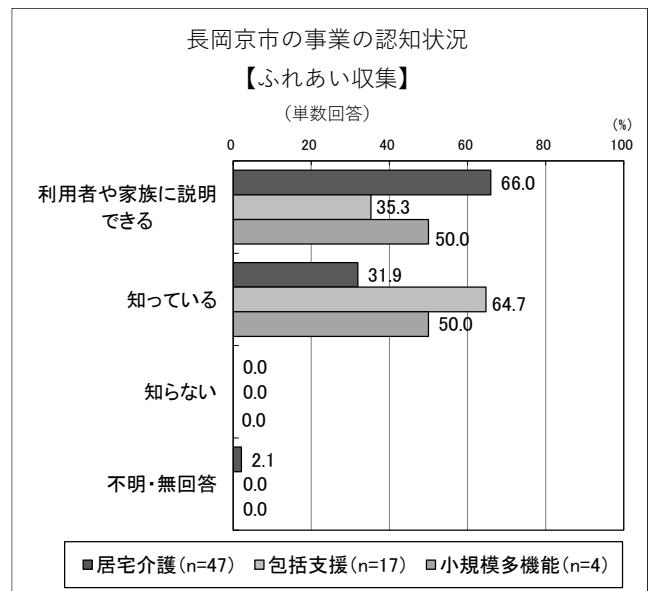
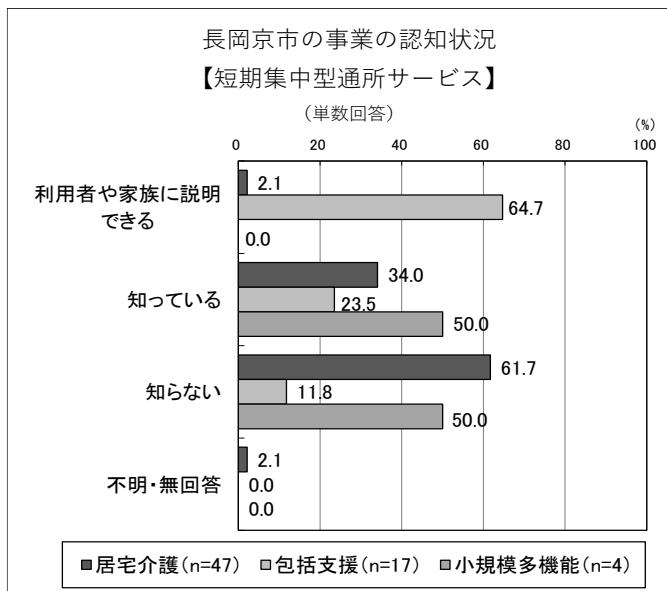


(2) 長岡京市が行っている事業の概要についての認知状況

長岡京市が行っている事業の認知状況はそれぞれ下記のとおりです。

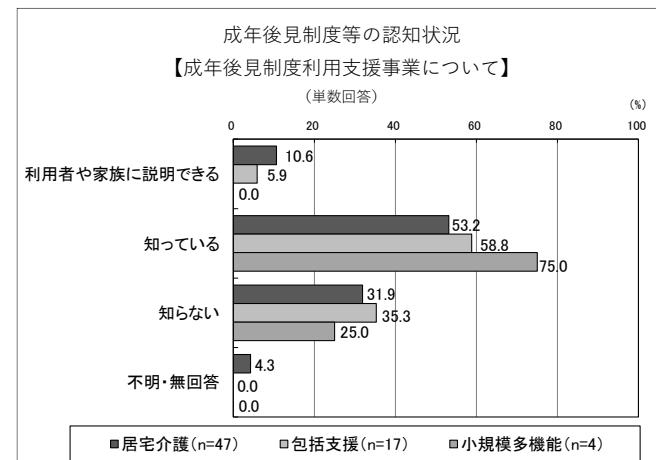
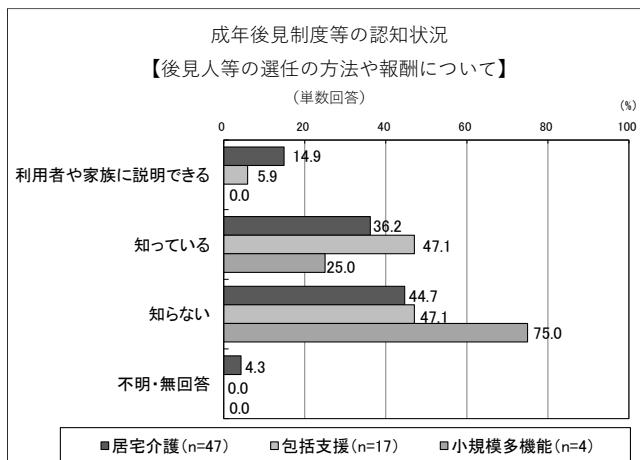
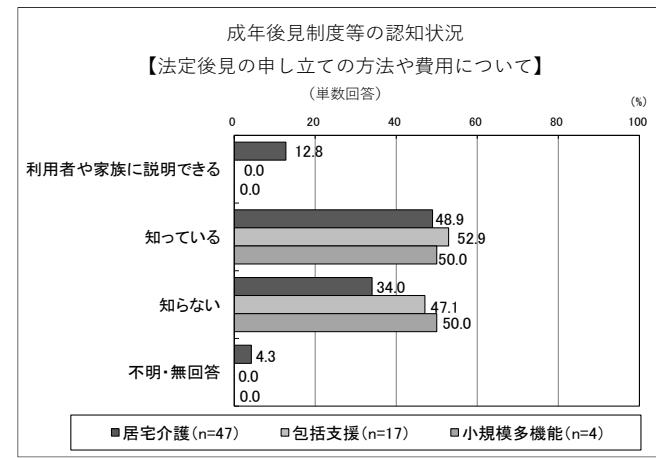
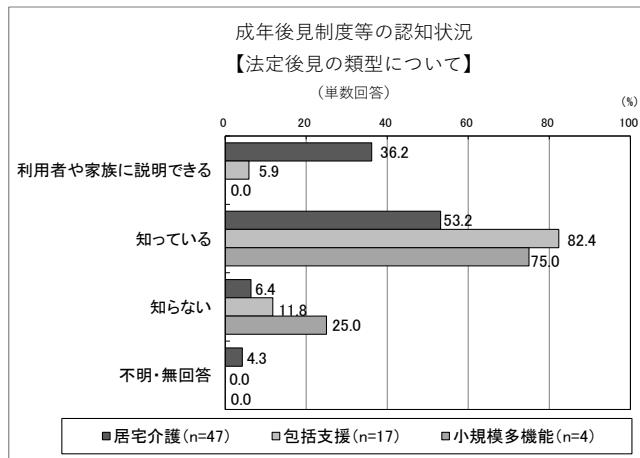
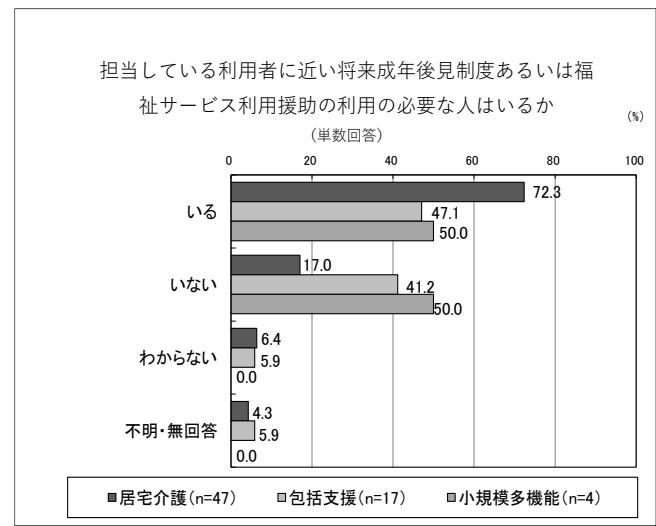
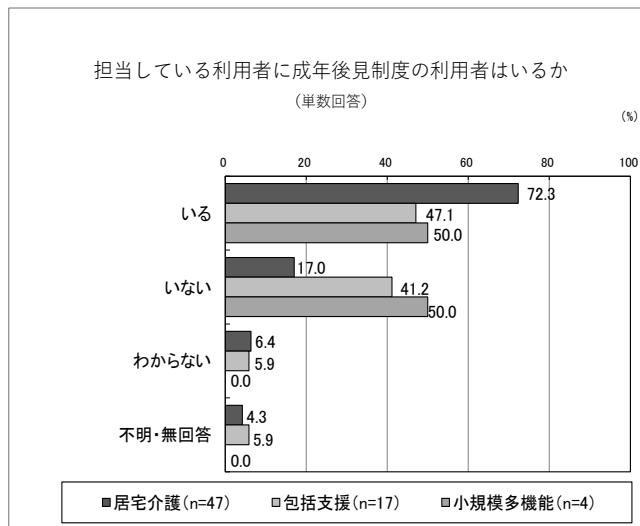


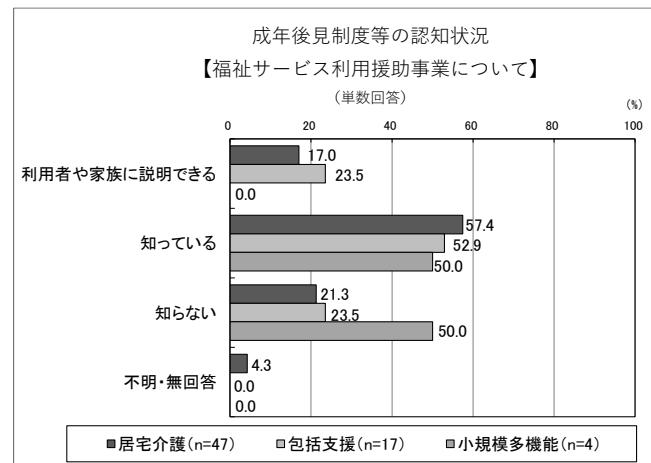
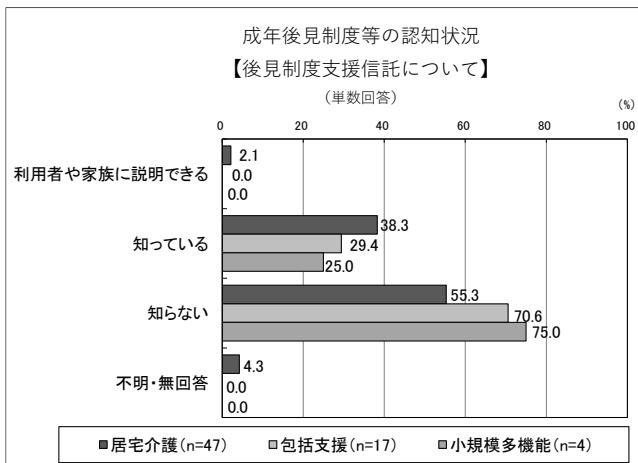
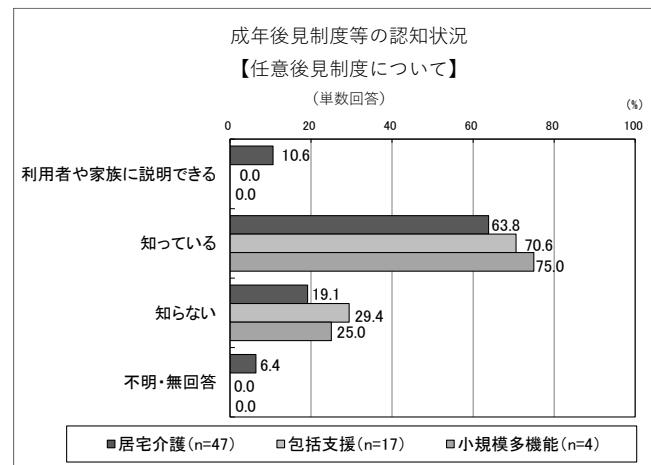
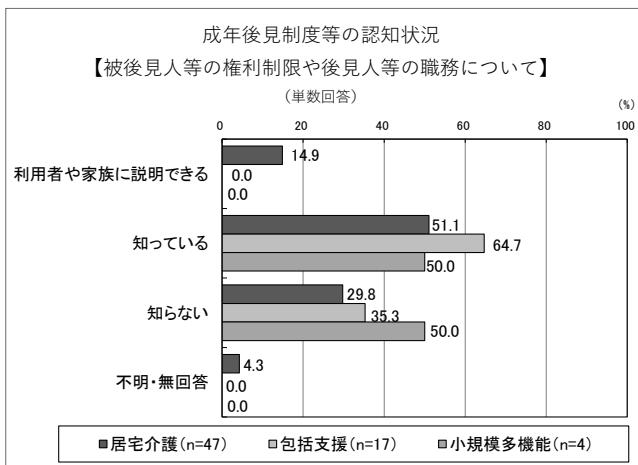




IV. 高齢者の権利擁護について

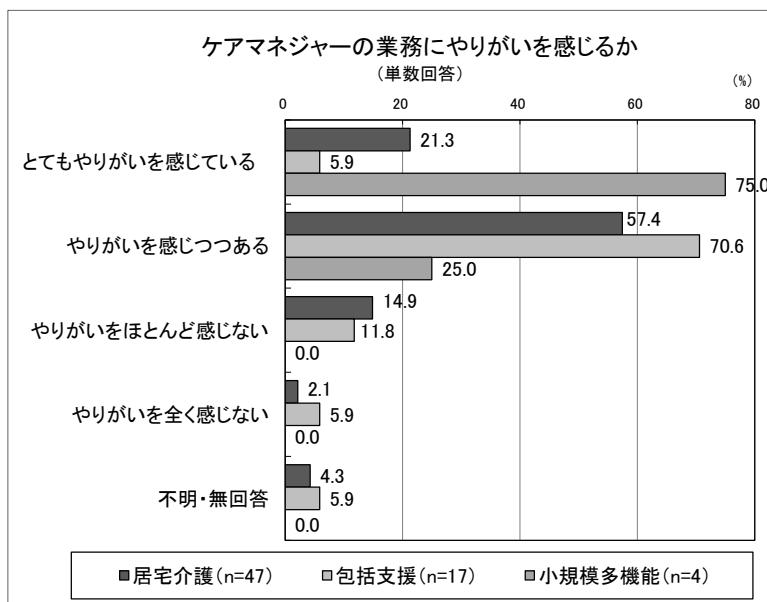
[担当している利用者の中に成年後見制度を利用している人がいるか]等については、それぞれ下記のとおりとなっています。



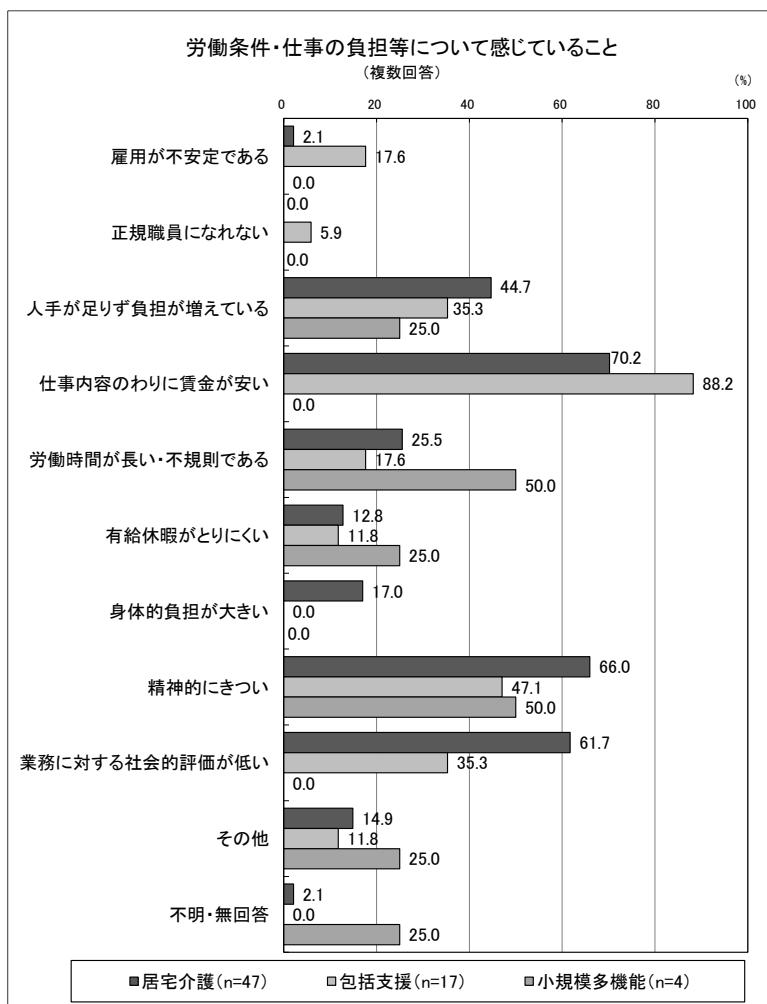


V. ケアマネジャーへの支援について

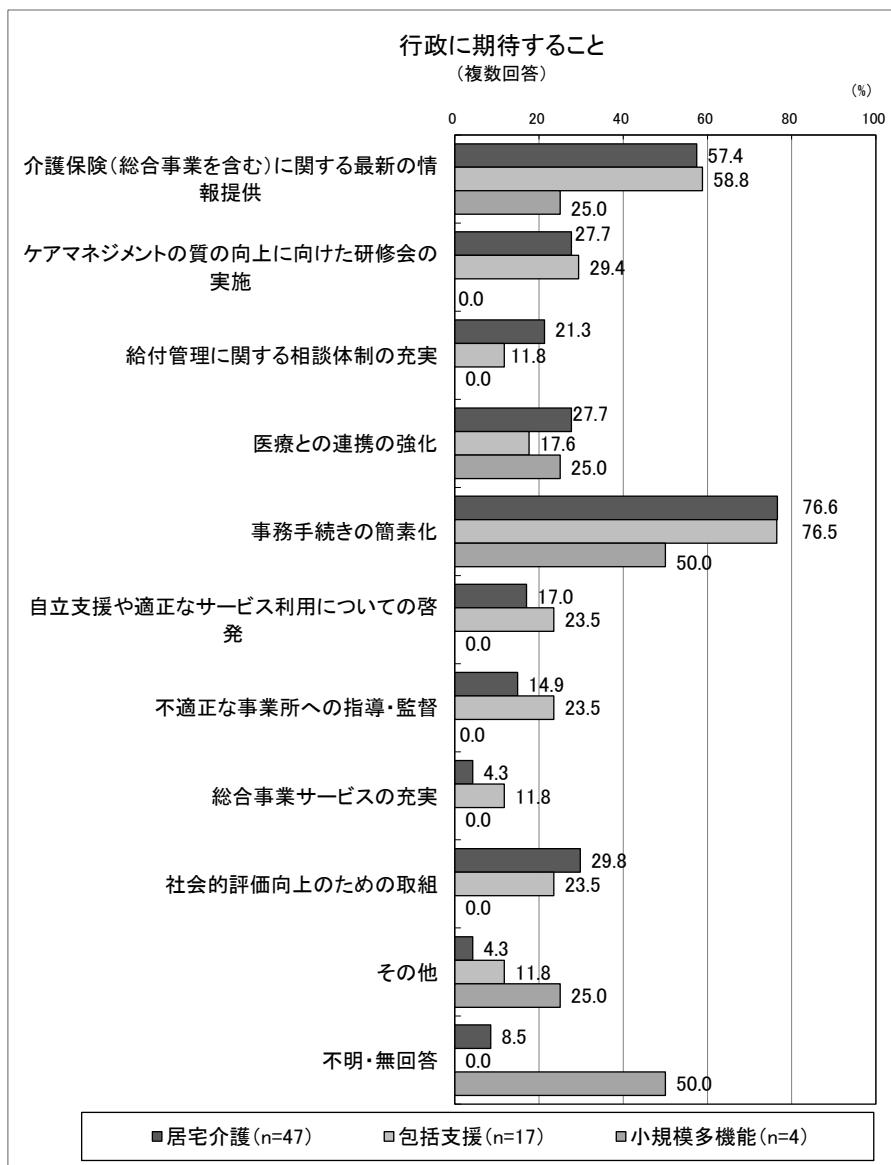
ケアマネジャーの業務にやりがいを感じるかについては、それぞれ下記のとおりとなっています。



労働条件、仕事の負担について感じることについてはそれぞれ下記のとおりとなっています。



行政に期待することについてはそれぞれ下記のとおりとなっています。



長岡京市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
介護支援専門員アンケート調査
結果報告書

令和5年3月

発行：長岡京市健康福祉部高齢介護課
〒617-8501 長岡京市開田1丁目1番1号
TEL：075（955）9713
FAX：075（951）5410